アマチュア無線用語集

Icom Inc.

用語集

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
数字	0エリア	0(ゼロ)エリアは信越地方。信越総合通信局が管理している。 管轄するのは、新潟県、長野県の2県である。
	1エリア	1エリアは関東地方。関東総合通信局が管理している。 管轄するのは、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県の1都7県である。
	2エリア	2エリアは東海地方。東海総合通信局が管理している。 管轄するのは、愛知県、静岡県、岐阜県、三重県の4県である。
	3エリア	3エリアは近畿地方。近畿総合通信局が管理している。 管轄するのは、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県の2府4県である。
	4エリア	4エリアは中国地方。中国総合通信局が管理している。 管轄するのは、広島県、岡山県、山口県、鳥取県、島根県の5県である。
	5エリア	5エリアは四国地方。四国総合通信局が管理している。 管轄するのは、香川県、徳島県、高知県、愛媛県の4県である。
	6エリア	6エリアは九州地方と沖縄地方。九州総合通信局(沖縄県は沖縄総合通信事務所)が管理している。 管轄するのは、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、宮崎県、大分県、沖縄県の8県である。
	7エリア	7エリアは東北地方。東北総合通信局が管理している。 管轄するのは、青森県、秋田県、岩手県、宮城県、福島県、山形県の6県である。
	8エリア	8エリアは北海道地方。北海道総合通信局が管理している。 管轄するのは、北海道の1道である。
	9エリア	9エリアは北陸地方。北陸総合通信局が管理している。 管轄するのは、富山県、石川県、福井県の3県である。
	9600bpsモード	TNC(Terminal Node Controller)とパソコンをFMデータモードに設定された無線機に接続して、9600bpsの通信速度でパケット通信をするときに使用するモードのこと。
A	A1A(旧表示:A1)	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式表示は「A1」だったが、平成16年1月13日に、国際電気通信連合(ITU)で採択された国際標準表記に変更されて、「A1A」となった。 搬送波をモールス符号によって断続して得られる信号を用いた通信。 運用するには、第3級アマチュア無線技士以上の資格が必要である。
	A3E(旧表示:A3)	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式表示は「A3」だったが、平成16年1月13日に、国際電気通信連合(ITU)で採択された国際標準表記に変更されて、「A3E」となった。 振幅変調(AM)方式の電話のこと。
	A3J(新表示:J3E)	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式の表示は「A3J」だったが、平成16年1月13日に、国際電気通信連合(ITU)で採択された国際標準表記に変更されて、「J3E」となった。 振幅変調(AM)の抑圧搬送波を使用した電話で、SSB(Single Side Band)という、短波帯の電話による通信は、ほとんどがSSBで運用されている。
	A8W(旧表示:A9)	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式表示は「A9」だったが、平成16年1月13日に、国際電気通信連合(ITU)で採択された国際標準表記に変更されて、「A8W」となった。 ATV(アマチュアテレビ)が使用していた電波型式で、両側波帯を使用した振幅変調(AM)の多重テレビのこと。
	A9(新表示:A8W)	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式表示は「A9」だったが、平成16年1月13日に、国際電気通信連合(ITU)で採択された国際標準表記に変更されて、「A8W」となった。 ATV(アマチュアテレビ)が使用していた電波型式で、両側波帯を使用した振幅変調(AM)の多重テレビのこと。
	AAコンテスト	All Asian DX Contestの略称。 JARL(日本アマチュア無線連盟)主催のオールアジアコンテストである。毎年6月に電信部門が、毎年9月には電話部門が開催される。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
A（つづき）	AC	Alternating Currentの略称で、交流のこと。 電圧に関係なく、交流のことをACという。 商用電源には交流が使用されており、日本の場合は、AC100V（ボルト）とAC200V（ボルト）が商用電源として使用されている。
	AC-DCコンバーター	交流直流変換器。 無線機器などを動作させるための直流電源（DC）が家庭用の100V（ボルト）の交流電源（AC）から得られる。 アマチュア無線局で使用される直流安定化電源などが、これに該当する。
	ADXA	Asian DX Awardの略称。 アジア州内の日本を含む30エンティティーのアマチュア無線局と交信し、QSLカードをそれぞれのエンティティーのアマチュア無線局からそれぞれ1枚ずつ得ることによって、JARL（日本アマチュア無線連盟）から発行されるアワードである。
	ADXA-HALF	ADXAの申請条件である30エンティティーの半分の15エンティティーで発行されるアワード。
	AD変換	アナログ信号をデジタル信号に変換すること。 変換する回路や装置をADコンバーター、AD変換器という。
	AF	Audio Frequencyの略称。 耳で聞こえる周波数帯域（可聴周波数帯域）のこと。 電波などの高周波に対して、音声領域のことを低周波ともいい、受信機などでは、この信号を増幅する回路を低周波増幅回路という。
	AFC	Automatic Frequency Controlの略称。 自動周波数制御回路のこと。 FMやDVモードで受信中、受信周波数を相手局の送信周波数のずれに追随する目的で使用される。
	AFSK	Audio Frequency Shift Keyingの略称。 アマチュア無線では、RTTY（Radio Teletype）通信に使用される。 マーク周波数（2125Hz）とスペース周波数（2295Hz）で構成される信号で、マーク（ON）のときは「ピー」、スペース（OFF）のときは「プー」というように異なる周波数の信号で送信信号を変調するデジタル変調方式のこと。
	AGC	Automatic Gain Controlの略称。 受信機は、極めて小さな信号のレベルから、極めて大きな信号のレベルまで受信する。AGCは信号が強くなると利得を抑えて出力が大きくならないようにし、信号が弱くなると利得を上げて出力が小さくならないように自動で調整する回路である。
	AJA	All Japan Awardの略称。 2つ以上のアマチュアバンドを使用し、日本の異なる市・郡、および区のアマチュア無線局と交信し、異なる1,000局以上の局からQSLカードを獲得することによって、JARL（日本アマチュア無線連盟）から発行されるアワード。
	AJD	All Japan Districtsの略称。 日本の10コールエリアのアマチュア無線局と交信し、QSLカードを獲得することによって、JARL（日本アマチュア無線連盟）から発行されるアワード。
	ALC	Automatic Level Controlの略称。 SSBやAMモードの送信機では、大きな音声入力があると、大きなパワーが出ることになるが、あまり大きなパワーを出すと振幅が大きくなりすぎ、終段回路で信号がひずみ、スプラッターなどの妨害波を撒き散らし、他局に妨害を与えることになる。 これを防ぐため、最終段の回路で信号がひずむ前に、自動的にレベルを下げる働きをするのが、ALC回路である。
	ALCメーター	SSBやAMモードの送信機で、最終段の回路で信号がひずむ前に、自動的にレベルを下げる働きをするALC回路の動作状態を監視するメーター。
	AM	Amplitude Modulationの略称。 振幅変調といい、搬送波（キャリア）の振幅に音声信号などで強弱を付け、送信するための変調方式のこと。外来雑音の影響を受けやすいのが欠点である。

用語集

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
A（つづき）	AMSAT	Radio Amateur Satellite Corporationの略称。 アマチュア無線局の宇宙衛星通信の推進を目的として設立されたアマチュア無線衛星協会。 本部は米国に置かれ、AOシリーズのアマチュア無線衛星（AMSAT OSCAR）などを開発・運用している。 日本支部は、JAMSAT（日本アマチュア衛星通信協会）である。
	AMTOR	Amateur Microprocessor Teleprinter Over Radioの略称。 アマチュア無線で使用されるRTTY（Radio Teletype）の一種で、RTTYに誤り、脱字などのチェック機能を付けたもの。
	ANL	Automatic Noise Limiterの略称。 外部雑音が多い場合に一定値以上の強い雑音を制限する機能のこと。AM受信機で使用される。
	ANT	アンテナの略号。電波の出入口で、空中線ともいう。 送信機の電波はアンテナを通じて空中に放射され、逆に空中の電波はアンテナを通じて受信機に入るので、効率よく送受信できるように運用周波数に合ったアンテナを使用することが重要である。
	AO-10	AMSAT OSCAR 10の略称。 アマチュア無線用通信衛星の1つで、1983年6月16日にフランス領ギアナのクール基地からアリアンロケットL6で打ち上げられた。 アマチュア無線通信衛星として、はじめて長楕円軌道上を飛行した。 AO-10以降の衛星では、AO-27、AO-51などがある。
	AOS	Acquisition of Signalの略称。衛星通信を利用するとき、その通信衛星からのビーコン電波が入感しはじめた瞬間のこと。
	APF	Audio Peak Filterの略称。オーディオピークフィルターのこと。 CWピッチ周波数を設定するとき、ピーク周波数を同調させ、聞きやすい状態に設定する機能のこと。
	APRS	Automatic Packet Reporting Systemの略称。 WB4APR局が提唱したアマチュア無線パケット通信の応用で、リアルタイムにGPSなどのデータを送受信し、他局とコミュニケーションするためのシステム。
	ARDF	Amateur Radio Direction Findingの略称。 屋外で小型のアンテナと受信機を使って、信号を発射している送信機を探し、全部を発見するまでの速さを競う競技。 自分の足で野山を走り回るという点では、激しいスポーツといえる。 旧共産圏の諸国を中心に盛んであるが、西側諸国にも広まり、世界大会が開かれている。 日本でも毎年全国大会が開催されている。
	ASCIIコード	アスキー（American Standard Code for Information Interchange）の略称。 128文字で構成され、アルファベット（94文字）、数字、記号など、パソコンで表示・印刷できる半角文字、残り（34文字）は、空白文字と制御記号に割り当てられている。
	ATT	アッテネーター（Attenuator）の略号。 強力な信号を受信したとき、高周波（RF）増幅回路が飽和状態になることによる受信音のひずみを防ぐために、高周波増幅回路に入力される信号を減衰させる回路のこと。
	ATV	アマチュアテレビ（Amateur Television）の略称。 おもに、1.2GHz（ギガヘルツ）帯以上のバンドで運用されている画像通信。 AM、FMの2つのモードで運用されているが、メーカー製の機器は、AMモードを採用している。 S/Nのよい安定した電界強度（電波）が必要なため、指向性の鋭い八木アンテナやパラボラアンテナなどを使用する。
	Auto reply	自動応答のこと。
	AVC	Automatic Volume Controlの略称。 自動音量制御回路のこと。
	AVR	Automatic Voltage Regulatorの略称。 定電圧電源のこと。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
A（つづき）	AX.25	アマチュア無線のパソコン通信のパケット交換のためのプロトコル（手順）。 商業用のX.25をアマチュア無線用としたものである。
	A級増幅	増幅回路の動作点を入力電力対出力電力特性が直線部分の中央部に設定して動作させること。 入力波形を忠実に出力するため、ひずみが少ないのが特長。 入力信号がなくても、出力電流が流れるという特性のため効率は悪い。
B	Baudot	RTTY（Radio Teletype）通信で使用されている符号（マークとスペース）で、1文字は5bit(ビット)で構成されている。この符号構成をBaudot（ボドー）という。 マークはビットがON（1）の状態、スペースはビットがOFF（0）の状態である。 このマークとスペースにそれぞれ異なる周波数の2125Hzと2295Hzを割り当て、符号を送信する。 送信される符号の前後には、スタートビットとストップビットが付く。
	BBS	Bulletin Board System 、 Bulletin Board Serviceの略称。 パソコン通信やパケット通信の電子掲示板のこと。 アマチュア無線で運用されているパケット通信では、無線を表すradioの「R」が頭に付き、RBBSという。
	BCI	Broadcasting Interferenceの略称。 中波帯や短波帯のラジオ放送を受信中に、アマチュア無線局の電波が混入し、放送が受信できなくなったりする電波障害のこと。
	BCL	Broadcasting Listenersの略称。 世界各地で放送されている日本語放送やその国独自の地域放送を受信することを楽しむこと。 また、ラジオ受信愛好者。
	BEEP	ビープ音のこと。 アマチュア無線機器のパネル面に付いているボタンなどを操作したときに鳴らす電子音。
	BF	「FB」は、「素晴らしい」という意味の無線用語だが、「FB」を逆にして、「悪い」、「大したことはない」、「貧弱」なという意味に使われる言葉。 日本のアマチュア無線界で使用される俗語。 海外では通じない。
	BFO	Beat Frequency Oscillatorの略称。 音声信号で変調されていない電信（CW）を受信するとき、受信している周波数とわずかにずれた周波数（SSBの場合、±1.5kHz（キロヘルツ）程度）を加えることにより、うなり（ビート）が発生する。 このうなりを利用して、電信に「ピー」という音を付けたり、SSB信号の音声を復調したりする。
	BK	Break in Callの略称。 (1)CWモード運用時の割り込み通信、または相手に聞き返すとき。 2局以上で交信中に、ほかの局が割り込むこと。 また、「BK」で受けて「BK」で聞き返すときにも使用する。 (2)D-STAR（DVモード）運用時の割り込み通信。 デジタルコールサインスケルチ(DSQL)を使用して交信している2局に、同時に呼びかけること。 BK（割り込み通信）が設定された信号を受信すると、端末画面に「BK」の文字が表示される。
	BK-IN	ブレークインのこと。 CWモードで運用時、電鍵を操作したときだけ送信状態になり、電鍵操作が終了すると受信状態に切り替わる機能のこと。 送信信号のわずかなすきまも受信状態に切り替わる機能をフルブレークイン、一定時間送信状態を保持したあと、受信状態に切り替わる機能をセミブレークインという。
	Bluetooth	数mから数十m程度の距離の情報機器間で、電波を使い簡易な情報のやりとりをするのに使用されるモバイル通信における廉価な通信端末用の規格である。 2.4GHz帯を使用してPC（おもにノートパソコン）等のマウス、キーボードをはじめ、携帯電話、PHS、スマートフォン、携帯情報端末での文字情報や音声情報といった比較的低速度のデジタル情報の無線通信を行う用途に採用されている。
	BNC型コネクター	ハンディー機、測定器などに使用される小型コネクターのこと。 同軸ケーブル用で、コネクターをもう一方のコネクターに差し込み、90度回すと固定される。 特性インピーダンスは、50Ω（オーム）に規格化されている。75Ω（オーム）のものもある。

用語集

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
B（つづき）	BPF	Bandpass Filterの略称。 一定範囲の周波数成分の信号だけを通過させ、そのほかの周波数成分の信号を減衰させるフィルターのこと。
	bps	bit per secondの略称。 1秒間にどれだけのデータを転送できるかを表す単位。
	Broadcast	放送のこと。特に、中波帯の放送をいう。
	B級増幅	増幅回路において、入力信号がないときには出力が出ないように、バイアス電圧による動作点を決めた増幅のこと。 交流入力信号の正の半サイクルのみで増幅出力が得られる。 プッシュプル回路構成で、送信機の変調回路や低周波増幅回路に使用される。
C	CALLED	D-STAR（DVモード）運用時、送信局が相手局を指定して呼び出したときの相手局のこと。 その通信で呼び出されている局。
	CALLER	D-STAR（DVモード）運用時、CQ、または特定の相手局を呼び出している送信局のこと。
	CB	Citizens' Bandの略称。 1961年（昭和36年）の秋から許可された一般市民のための連絡用携帯無線のこと。 現在は、製造されておらず、デジタル簡易無線機や特定小電力トランシーバーの製造に移っている。
	CD	Received Callsign Display（D-STAR運用時の受信履歴）の略称。
	cfm	Confirmの略称。 確かめる、確認するという意味。 たとえば、DXCCなどのアワードでは、QSLカード（交信証）を受け取って、交信したという事実を確認すること。
	CH（チャンネル）	VHF帯/UHF帯などのFMモードで使用している周波数のこと。 144MHz帯の呼出周波数145.00MHzや、430MHz帯の呼出周波数433.00MHzをメインチャンネルといい、それ以外の周波数をサブチャンネルという。
	CI-V端子	Communication Interface-Vの略称。 無線機の操作をパソコンによってコントロールできる当社独自のインターフェース。 パソコンのRS-232C端子とCI-Vレベルコンバーターユニット CT-17を介して接続するのが一般的だが、最近の機種ではUSBケーブルやBluetoothで接続できるものもある。
	CI-Vトランシーブ機能	CI-V（当社独自のインターフェース）を利用して、パソコンから外部制御するとき、ほかの無線機などに連動して無線機の周波数や電波型式などが変更できる機能のこと。
	CMOS	Complementary Metal Oxide Semiconductorの略称。 文字の並びからシーモスと呼ばれ、Nチャンネル、PチャンネルのFETで構成されているロジックICである。 入力インピーダンスが高く、消費電流が少ないのが特長。
	COR	Carrier Operated Relayの略称。 電波の検知で、動作するようにしたリレー回路のこと。 アンテナ直下型のプリアンプ等に組み込まれ、送信電波を検知すれば、このリレーでプリアンプ回路をバイパスする。
	CPU	Central Processing Unitの略称。 中央演算装置のこと。 コンピューターの頭脳といわれるもので、ここで指示されたコマンドが実行される。 パソコンや無線機器などに搭載される。
	CQ	不特定多数の人に呼びかけるときに使用する言葉。 この「CQ」という言葉は、アマチュア無線の代名詞にもなっている。
	CQ○エリア	特定のエリア（○にはエリアを表す0～9の数字が入る）の人だけに応答して欲しいときに使用する言葉。 「CQ1エリア。こちらはJA3YUA・・」というように使用する。
	CQ○メーター	運用している周波数帯を示しながらCQを出すときに使用する。 ○には周波数帯を示す波長を表す数字が入る。 144MHz（メガヘルツ）帯なら2メーター、50MHz（メガヘルツ）帯なら6メーター、7MHz（メガヘルツ）なら40メーターとなる。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
C（つづき）	CQCQCQ	D-STARの山かけ通信でCQを出す場合、「CQCQCQ」を無線機の［相手局コールサイン（UR）］、または［交信相手（TO）］に設定する。
	CS	Callsign Selectの略称。D-STAR（DVモード）運用時のコールサイン設定のこと。
	CSQL	デジタルコードスケルチ（Code Squelch）の略称。 D-STAR（DVモード）運用時、特定の相手局とだけ通信したいときに使う機能のこと。 通信したいすべての局で、同じデジタルコード（00～99）を設定して運用する。
	CTCSS	Continuous Tone Coded Squelch Systemの略称。 音声通信に支障のない連続したトーン信号を送信電波に付加して、希望する相手局と交信するときに使用されるシステム。 日本では、国際的な規格に基づいて、トーン周波数は67.0Hz（ヘルツ）～254.1Hz（ヘルツ）の50波が割り当てられている。 また、日本国内のアマチュア無線ではアナログレピータの起動信号として、88.5Hz（ヘルツ）が使用される。
	CU AGN	CUは「see you」、AGNは「again」のこと。 CWモード運用時に使用する短縮された慣用句のこと。
	CW	Continuous Waveの略称。 モールス信号、つまり電信のことで、短点と長点の組み合わせによって、メッセージを伝える方式のこと。
	CWマン	アマチュア無線のCW（電信）で交信することが好きな人、またはCW愛好家のこと。
	CW用 メモリーキーヤー	アマチュア無線のコンテストなどで、CW用の決まり文句（定形文）を送出できるようにした装置のこと。
	CW-R	CWリバースモードのこと。 受信のBFO（Beat Frequency Oscillator）周波数を反転させて、混信を受信帯域からはずすことで、近接する混信が低減できる場合がある。
	C級増幅	増幅回路において、入力電圧に対する正の半周期の一部があったときだけ、増幅出力が得られるようにバイアス電圧を設定したもの。 高調波成分を多く含み、ひずみが多いが、効率がよい。
D	DARC	Deutscher Amateur-Radio Club e.V.の略称。 ドイツのアマチュア無線連盟のこと。
	dBm	1mW（ミリワット）を0dB（デシベル）として、電力の大きさをdBで表したもので100mWは+20dBm（デービーエム）、1μWは−30dBmとなる。（デシベルを参照。）
	dBμ	1μV（マイクロボルト）を0dB（デシベル）として、電圧の高さをdBで表したもので0.1μVは−20dBμ（デービーマイクロ）、1Vは120dBμとなる。（デシベルを参照。）
	DBM	ダブルバランスドミキサー（Double Balanced Mixer）の略称。二重平衡型混合回路のこと。
	DCS	デジタルコードスケルチ（Digital Code Squelch）の略称。 DTCSと互換性があり、FMモードで特定の相手局とだけ通信したいときに使う機能のこと。 D-STAR(DVモード)運用時のCSQLの正式名称と呼びかたは同じであるが、CSQLとは異なる機能で互換性がない。
	DC-DCコンバーター	24V（ボルト）の直流電圧（DC）を12V（ボルト）の直流電圧（DC）に変換するなど、直流電圧を異なる直流電圧に変換する装置のこと。
	DCオペレート	無線機器などをバッテリーなどの直流電源で動作させて、運用すること。
	DD	デジタルデータ（Digital Data）モードのこと。 D-STARのモードの1つで、128kbpsのデータ通信ができる。 DDモードの無線機にパソコンを接続することで、画像やテキスト/音声データなど、さまざまなデータの送受信やファイル共有、インターネットの閲覧などもできる。
	DDS	Direct Digital Synthesizerの略称。 発振回路の一種で、デジタル的に発振周波数を得るもの。 応答速度が速く、高速で周波数の切り替えができる。
	Delta F Control	運用周波数の微調整回路のこと。デルタ（Δ）は「微小な変化」の意味で使用される。
	DFM方式	Direct Feed Mixerの略称。 受信機の入力段に高周波（RF）増幅回路を設けず、直接、入力信号を周波数変換する方式のこと。 高ダイナミックレンジが得られるのが特長。

用語集

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
D（つづき）	DIGI-SEL機能	RF段に置かれる同調回路で受信周波数に連動して、そのピーク周波数が変化するようにCPU制御された回路。 当社製品のIC-7800やIC-7700などに搭載されている。 特に、この回路の帯域外周波数信号に起因する2次、3次ひずみを抑えることに対して有効である。
	D-PRS	Digital Packet Reporting Systemの略称。 D-STARとAPRSの融合として生まれたシステムで、GPS情報やメッセージなどのデータを音声と同時に送信できるのが特長。 APRS用アプリケーション、またはインターネットサイト（aprs.fi）のほか、D-STAR用フリーソフトウェアなどでも利用できる。
	DR機能	D-STAR Repeater modeの略称。 D-STAR（DVモード）運用時、レピータなどを簡単に設定する機能。
	DSB	Double Side Bandの略称。 振幅変調（AM）の両側波帯の電波型式。表示は、「A3E」。
	DSP	Digital Signal Processorの略称。デジタル信号処理装置のこと。 無線機などに使用され、AD変換したあとに、各種信号に処理される。
	DSQL	デジタルコールサインスケルチ（Digital Callsign Squelch）の略称。 D-STAR（DVモード）運用時、特定の相手局とだけ通信したいときに使う機能のこと。 自局のコールサイン情報を含んだ信号を受信したときだけ、スケルチが開いて受信できる。
	D-STAR	Digital Smart Technologies for Amateur Radioの略称。 JARL（日本アマチュア無線連盟）が提唱するアマチュア無線のデジタル方式の名称。
	DTCS	デジタルトーンコードスケルチ（Digital Tone Code Squelch）の略称。 FMモードで、特定の相手とだけ通信したいときに使う機能のこと。 DCS（Digital Code Squelch）搭載の無線機と互換性がある。 通信したいすべての局で、同じDTCSコード（023～754）を設定して運用する。 自局に設定したDTCSコードと同じDTCSコードを受信したときだけ、スケルチが開いて受信できる。
	DTCS極性	DTCSコードを送信側と受信側で同じにしてもスケルチが開かない場合、送信側や受信側の位相を変更することで、スケルチが開くようにする設定のこと。
	DTMF	Dual Tone Multi Frequencyの略称。プッシュホンの「ピポパ」という音のこと。 コードスケルチ機能やページャー機能で使われ、個別呼び出しや一斉呼び出しができる機種がある。
	DV	デジタルボイス（Digital Voice）モード。 D-STARのモードの1つで、デジタル音声のこと。 D-STAR（DV機能）では、3600pbsの音声と1200bpsのデータを合わせて、4800bpsの通信速度でデータ通信できる。（簡易データ通信）
	DV-A、またはDVA	DV（デジタルボイス）モードで、GPS送信モードをGPS-Aにしているときの表示。 当社製無線機（ID-5100、ID-51（50周年記念モデル））では、「GPS-Aモード」を「D-PRS」と表現している。
	D-VAP、またはDVAP	Digital Voice Access Pointの略称。 パソコンとUSB接続する小型のD-STARトランシーバー。 リフレクターと接続することでアクセスポイントになり、近くにD-STARレピーターがない環境でも、D-STARのゲートウェイ通信ができる。
	DV-G、またはDVG	DV（デジタルボイス）モードで、GPS送信モードをGPSにしているときの表示。 当社製無線機（ID-5100、ID-51（50周年記念モデル））では、「GPS送信モード」を「NMEA」と表記している。
	DX	Distanceの略称。アマチュア無線では、「遠くの」、または「遠距離交信」の意味。 運用する周波数帯によって、DXの距離は異なる。
	DXAC	DX Advisory Committeeの略称。米国のアマチュア無線連盟（ARRL）の3つの機関の1つで、DXCC（DX Century Club）のルールを管理している機関のこと。
	DXCC	DX Century Clubのこと。 ARRL（American Radio Relay League）が制定したDXCCリストに掲載されている世界の100エンティティー以上と交信し、QSLカード交換した人だけに与えられるアワード。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
D（つづき）	DXer	遠距離通信をDX（ディーエックス）というが、おもにDX通信を楽しんでいる人をDXer（ディーエクサー）という。
	DXペディション	常置場所以外に移動して運用することをペディションといい、DXが付くと海外に移動して運用することをいう。
	D級増幅	主にオーディオ回路に用いられる。 電源効率がよいため、電池駆動の可搬器や車載装置などでも使用される。
	D層	電離層の1つで、昼間に地上約70kmに発生して、中波帯の電波を反射させる。
E	EEPROM	Electrically Erasable Programmable Read-Only Memoryの略称。 電気的に書き換えできるROM。 電源を切ってもデータはそのまま残っている。 しかし、RAM（Random Access Memory）のようにランダムな読み書きはできない。
	EHF帯	Extra High Frequencyの略称。 周波数が30GHz（ギガヘルツ）を超え300GHz（ギガヘルツ）以下の電波帯。 ミリメートル波ともいう。
	EME	Earth Moon Earthの略称で、月面反射通信のこと。 月面に向けて電波を送信し、月面で反射された電波を受信する通信。 一般的に、500W（ワット）以上の送信機、パラボラアンテナなど大規模な通信設備が必要である。
	EMR	Enhanced Monitor Requestの略称。 強調モニターリクエスト。D-STAR（DVモード）運用時、EMR信号を受信すると、音量が最小レベルになっていても、一定の音量で通話が聞こえる。
	Es層	スポラディックE層のこと。詳しくは、Eスポを参照。
	Eスポ	スポラディックE層（Es層）の略称。 狭い範囲で電子密度が突発的に高まってできる電離層のこと。 VHF帯の電波は、通常、電離層で反射されることなく通過してしまうが、突発的に発生するスポラディックE層によって反射され、1000kmもはなれた思いがけない無線局と交信できることがある。 スポラディックE層は、21/28/50/144MHz（メガヘルツ）帯で、数分から数時間の比較的短い時間、夏季の昼間に突発的に発生することが多い。
F	F1B、F1D （旧表示：F1）	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式表示は「F1」だったが、平成16年1月13日に、国際電気通信連合（ITU）で採択された国際標準表記に変更されて、「F1B」、「F1D」、「G1B」、「G1D」などにわかれた。 「F1B」は、FSKまたはAFSKによるRTTY（Radio Teletype）などのモールス符号以外の電信。 「F1D」は、FSKまたはAFSKによるパケット通信などのデータ通信。
	F2A、F2B、F2D （旧表示：F2）	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式表示は「F2」だったが、平成16年1月13日に、国際電気通信連合（ITU）で採択された国際標準表記に変更されて、「F2A」、「F2B」、「F2D」にわかれた。 「F2A」は、トーン信号で周波数変調するモールス符号の通信。 「F2B」は、トーン信号で周波数変調するRTTY、またはPSK31などの通信。 「F2D」は、トーン信号で周波数変調するパケット通信となった。
	F3E、F1E （旧表示：F3）	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式表示は「F3」だったが、平成16年1月13日に、国際電気通信連合（ITU）で採択された国際標準表記に変更されて、「F3E」、「F1E」、「G1E」にわかれた。 「F3E」は、音声などの信号で周波数変調した電話。 「F1E」は、周波数変調のデジタル電話（GMSK電話など）。 「G1E」は、位相変調のデジタル電話（多値PSK電話）。
	F7W	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 D-STARのデジタル音声通信（DVモード）。
	FB	Fine Businessの略称。 「よい」、「素晴らしい」という意味で使用される無線用語。 「今日のコンディションはFB（よい）ですね」などと使用される。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
F（つづき）	FB比	Front to Back Ratioの略称。 アンテナの輻射特性で、アンテナの前方と後方の比率のこと。 この値が大きいほどビームが鋭い。
	FCC	Federal Communications Commissionの略称。 アメリカの連邦通信委員会のこと。日本の総務省（かつての郵政省）と同じような組織のこと。
	FET	Field Effect Transistorの略称。 電界効果トランジスターのこと。 一般のトランジスターでは、3つの電極をエミッター（E）、ベース（B）、コレクター（C）というが、FETでは、それぞれをソース（S）、ゲート（G）、ドレイン（D）という。 電圧で制御し、トランジスターに比べて、入力インピーダンスが高いのが特長。
	FM	Frequency Modulationの略称。 周波数変調といい、搬送波（キャリア）の周波数を音声信号などで変化させ、送信する方式のこと。 雑音の影響を受けにくい。
	FM局	おもに、VHF帯/UHF帯のFMモードで運用している無線局のこと。 周波数設定は20kHz毎のチャンネル設定であり、無線機は小型であることから、手軽にはじめられること、音質もよく、電話感覚で使えることから、ビキナー（初心者）にも向いている。
	FOXテーリング	FOXハンティングとオリエンテーリングを兼ねたもので、公認競技として、世界中で開催されていた。FOXハンティング参照。
	FOXハンティング	キツネ（FOX）に見立てた発振器から発射される電波の発信源を探す競技のこと。 指向性アンテナをハンディー機などに取り付けてキツネ（発信源）を探す。 しかし、方向を特定するためにはノウハウが必要な競技である。
	FSK	Frequency Shift Keyingの略称。 アマチュア無線では、RTTY（Radio Teletype）通信に使用される。 デジタル値をアナログ値に変換する変調方式の1つで、0と1のデジタル値に対応する周波数を割り当てる。 アマチュアのRTTYでは、マーク（=1）に2125Hz、スペース（=0）に2295Hzを割り当てている。
	Fズレ	「エフズレ」という。 「F」は、Frequencyの略称。 時間経過とともに表示周波数と送信周波数がずれること。 無線機の経年変化、メンテナンス不足などによって発生することがある。
	F層	短波帯の電波を反射させる電離層のことで、地上約400kmに存在する。 夏季の昼間は、F1層とF2層に分かれているが、夜間には1つにまとまる。
G	G1B（旧表示：F1）	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式表示は「F1」だったが、平成16年1月13日に、国際電気通信連合（ITU）で採択された国際標準表記に変更されて、「G1B」となった。 PSK31などのモールス符号以外の電信。
	G1D（旧表示：F1）	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式表示は「F1」だったが、平成16年1月13日、国際電気通信連合（ITU）で採択された国際標準表記に変更されて、「G1D」となった。 PMパケット通信などのデータ通信。
	G1E（旧表示：F3）	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式表示は「F3」だったが、平成16年1月13日に、国際電気通信連合（ITU）で採択された国際標準表記に変更されて、「G1E」となった。 位相変調のデジタル電話（多値PSK電話）。
	GaAs FET	430MHz（メガヘルツ）帯、1.2GHz（ギガヘルツ）帯などで使用されるガリウムヒ素電界効果トランジスターのこと。 低雑音、高利得、高安定度など、電波の入口となる高周波（RF）増幅回路に採用するには最適な素子である。
	GL	グリッドロケーター（Grid Locator）の略称。 地球を格子状に区切ってその位置を示したもので、地球上での緯度と経度より算出する6桁の英数字のこと。 世界共通のシステムで、無線通信で無線局の位置を示す目的などに使われている。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
G（つづき）	GMSK	Gaussian filtered Minimum Shift Keyingの略称。 デジタル信号を周波数変調で伝送する型式の1つで、D-STARにも使用され、音声帯域幅で9600bpsの高速通信ができる。
	GMT	Greenwich Mean Timeの略称。グリニッジ標準時のこと。 かつては、イギリスのグリニッジ天文台を通る子午線（0度）を太陽が横切るときを、12時とした世界標準時として普及していた。 現在では、原子時計によって決定されるUTC（協定世界時）が使用されている。
	GPS	グローバルポジショニングシステム（Global Positioning System）の略称。 米国国防総省によって開発・運用されている人工衛星を使った3次元で表す全地球測位システム。 カーナビゲーションシステムなどにも使われている。
	GPS-Aモード	DV（デジタルボイス）モードで、D-PRSに対応する形式の位置情報を含むデータを送出する。当社製無線機（ID-5100、ID-51（50周年記念モデル））では、「GPS-Aモード」を「D-PRS」と表現している。
	GPSモード	DV（デジタルボイス）モードで、NMEA方式の位置情報を送出する。 GPSメッセージに適切なメッセージを登録しておくことで、D-PRSとしても対応できる。 当社製無線機（ID-5100、ID-51（50周年記念モデル））では、「GPSモード」を「NMEA」と表現している。
	GPSロガー	GPSレシーバーからの位置情報を一定間隔で自動的に記録（保存）する機能のこと。
	GPアンテナ	グランド・プレーンの頭文字を取って、GP（Ground Plane）アンテナという。 1/4λ（ラムダと読む。波長のこと）、5/8λの垂直エレメントと1/4λのラジアルを組み合わせたアンテナのこと。水平面の指向性は無指向性である。
	GW	ゲートウェイ（Gateway）の略称。 D-STAR運用時、インターネットに接続しているレピータ（Gateway）局。 ゲートウェイ経由で交信する場合は、ゲートウェイ局のコールサインの8文字目にゲートウェイ局を表す識別符号「G」を入力する。（入力例：JP3YHH G）
H	HAC	Heard All Continentsの略称。 6大陸受信証のこと。 世界の6大陸のアマチュア無線局を受信し、SWLカードを各1枚ずつ得ることによって、JARL（日本アマチュア無線連盟）から発行されるアワード。
	HB9CV	スイスのアマチュア無線家（HB9CV）が考案したビームアンテナのこと。 基本は2エレメントの八木アンテナと同じ形状、両エレメントを互いに逆位相となるように給電し、指向性を得るアンテナ。 考案者のコールサインを採って、「HB9CV」と命名された。
	HEMT	High Electron Mobility Transistorの略称。 電界効果トランジスターの一種。 シリコン半導体ではカバーできない高周波で動作させるために採用されている。
	HFハイバンド	短波（HF）帯に割り当てられた10バンドのうち、高いほうに属するバンドのこと。 日本でこのバンドに属するのは、14/18/21/24/28MHz(メガヘルツ)の5バンド。 21MHz（メガヘルツ）帯は入門者向けのバンドで、4アマ（4級アマチュア無線技士）の10W（ワット）でも日本全国はもちろん、近隣諸国とも交信が楽しめる。 28MHz（メガヘルツ）帯は、HF帯の中で唯一、FMモード許可されたバンド。 FMモードは、29MHz（メガヘルツ）台に設定されており、太陽黒点の活動が活発なときは、思わぬDX（遠距離通信）ができることがある。
	HFローバンド	短波（HF）帯に割り当てられた10バンドのうち、低いほうに属するバンドのこと。 日本でこのバンドに属するのは、1.9/3.5/3.8/7/10MHz（メガヘルツ）の5バンド。 これらのバンドは、日中は近距離しか電波が飛ばないが、夜間は遠距離まで届くという特長がある。
	HF帯	High Frequency Bandの略称。短波帯ともいう。周波数範囲は3～30MHz（メガヘルツ） アマチュア無線で許可されているバンドは、1.9/3.5/3.8/7/10/14/18/21/24/28MHz（メガヘルツ）帯である。 なお、周波数の分類上、1.9（メガヘルツ）帯は、中波（MF）帯に属する。

用語集

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
H（つづき）	HI	モールス通信で、オペレーターが笑っていることを表す略語。「ハイ」と発音する。
	HPF	ハイパスフィルター（High Pass Filter）の略称。 ローカットフィルターともいい、一定の周波数（カットオフ周波数）以上を通過させ、それ以下の周波数を減衰（カット）させるフィルター回路のこと。
	Hz（ヘルツ）	世界中で標準的に使用される周波数の単位。 1Hz（ヘルツ）の1,000倍が1kHz（キロヘルツ）、100万倍が1MHz（メガヘルツ）、10億倍が1GHz（ギガヘルツ）。 電波の存在を証明したドイツの物理学者K.R.Hertzの名前から付けられた。 昔の単位は、サイクル（C/S）という。
I	IARU	International Amateur Radio Unionの略称。 米国のコネチカット州に本部がある国際アマチュア無線連合のことで、世界各国のアマチュア無線連盟の上部組織である。 世界を3ゾーンにわけ、第1地域が欧州、第2地域が南北アメリカ、第3地域が日本、アジア、オーストラリアとなっている。
	IC	Integrated Circuitの略称。 集積回路のことで、1つのパッケージの中に色々な回路をおさめた半導体素子である。
	ID	Identificationの略称。 アマチュア無線では、自局のコールサインのこと。
	IDC	Instantaneous Deviation Controlの略称。 FM送信機に使用される瞬時偏移制御回路のこと。 過大な入力信号があっても、周波数偏移が一定に保たれる。
	IF WIDTH	無線機器の受信回路で、中間周波の通過帯域幅を変更できる機能のこと。
	IFT	中間周波トランスのこと。 中間周波数は一定なので、スカート特性の急峻なトランスを使用すると高選択度が得られる。
	IFシフト機能	中間周波数を微調整して、見かけ上、IFフィルターの通過帯域を変化させて混信を軽減、または除去する機能のこと。 SSB信号の受信時に効果的な混信除去機能で、受信している周波数付近に妨害信号が出ているとき、IFフィルターの通過帯域を電気的に変化させて混信を低減できる。
	IFリジェクション	IF周波数の飛び込みを防止するため、RF段に設けた回路の性能を表す指数の1つ。
	IF段	中間周波段、または中間周波回路のこと。 スーパーヘテロダイン方式では、受信周波数をいったん、異なる一定の周波数に変換して増幅するが、この一定の周波数のことを中間周波数といい、この部分の回路のことをIF段、またはIF回路という。
	I-Gate	アイゲートと読む。 APRS対応の無線機とインターネットのあいだで、APRSデータをやり取りするための中継局のこと。 APRS対応の無線機から受信したAPRSデータを中継局に接続されたインターネットからAPRSサーバーに転送したり、APRSサーバー側からAPRSデータを中継局と接続されたAPRS対応の無線機に転送したりできる。
	IMD	Intermodulation Distortionの略称。相互変調ひずみのこと。 目的の電波以外に、その周波数に近接した2つ以上の電波が回路に混入することで、その回路の非直線性により出力にひずみを生じ、2つの周波数およびその整数倍の和、または差により発生する妨害波のこと。 たとえば、2つの放送局の周波数の差と同じだけその放送局からはなれた周波数で、両方の放送局が受信される場合がある。 この周波数に目的局の電波があると妨害を受ける。
	IP3	3次ひずみで発生するIMDレベルと受信感度の関係から計算されるひずみ性能を表わす数値。 通常dBm（デービーエム）で表わされ、数字が大きいほどひずみ特性がよい。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
J	J3E(旧表示:A3J)	電波法施行規則で規定されている電波型式の1つ。 旧様式の電波型式表示は「A3J」だったが、平成16年1月13日に、国際電気通信連合(ITU)で採択された国際標準表記に変更されて、「J3E」となった。 振幅変調(AM)の抑圧搬送波を使用した電話で、SSB(single Side Band)という。 短波帯の電話による通信は、ほとんどがSSBで運用されている。
	JA	日本のアマチュア無線局の総称。 わが国のアマチュア無線局には、国際電気通信条約の無線通信規則に定める国際符号字列に基づき、JA、JE ～JS、7J ～7N、8J ～8N、JD(小笠原諸島、南鳥島)が使用されている。
	JAIA	Japan Amateur Industries Associationの略称。「ジャイア」という。 日本アマチュア無線機器工業会の通称。 日本のアマチュア無線機器メーカー、周辺機器メーカーで組織している団体。 アマチュア無線技術の研究、アマチュア無線の普及活動、電波障害対策などをしている。
	JAMSAT	Japan Radio Amateur Satellite Corporationの略称。日本アマチュア衛星通信協会のこと。
	JARD	Japan Amateur Radio Development Associationの略称。「ジャード」という。 一般財団法人 日本アマチュア無線振興協会の通称。 アマチュア無線技士の養成課程講習会やアマチュア無線機器の技術基準適合証明(工事設計認証)の審査などをする機関。
	JARL	Japan Amateur Radio League Inc. の略称。「ジャール」という。 一般社団法人 日本アマチュア無線連盟の通称。 日本におけるアマチュア無線家の代表機関であり、国際アマチュア無線連合の日本支部でもある。 会員間のQSLカードの転送業務、各種アワードの発行。 JARLニュースの発行などがおもな業務である。
	JARL経由	QSLカードをJARL(日本アマチュア無線連盟)のビューローを経由して交換すること。
	JARL登録機種	技術基準適合証明(工事設計認証)制度が導入される以前のアマチュア無線局で使用される無線機などで、JARL(日本アマチュア無線連盟)が保証認定の業務をしていた当時に、その性能など無線局の申請に必要とされる事項について登録されているメーカー製の無線機器のこと。
	JAS-1	アマチュア無線用通信衛星の1つで、1986年8月13日、JARL(日本アマチュア無線連盟)によって、日本ではじめて打ち上げられた。 愛称は「ふじ」。コールサインは、「8J1JAS」。
	JCC	Japan Century Citiesの略称。 国内の異なる100市以上のアマチュア無線局と交信し、交信を証明するQSLカードを集めてJARL(日本アマチュア無線連盟)に申請すると獲得できるアワードのこと。 100市、200市、300市、400市、500市、600市、700市、800市の8種類ある。 全市と交信すると「WACA」が獲得できる。
	JCG	Japan Century Gunsの略称。 国内の異なる100郡以上のアマチュア無線局と交信し、交信を証明するQSLカードを集めてJARL(日本アマチュア無線連盟)に申請すると獲得できるアワードのこと。 100郡、200郡、300郡、400郡、500郡の5種類ある。全郡と交信すると「WAGA」が獲得できる。
	JD	JD1(小笠原諸島/南鳥島)のこと。 アマチュア無線では、世界を国家による区別だけではなく、「エンティティー」という区分でわけている。 2014年9月現在、341のエンティティーがあるが、日本はJA、JD1(小笠原諸島)、JD1(南鳥島)の3つのエンティティーに分かれる。
	J-FET	Junction type Field Effect Transistorの略称。 接合型FETで、電界効果トランジスターの一種である。
	JJY	情報通信研究機構が送信している40/60kHz(キロヘルツ)の長波帯標準電波のこと。 平成13年3月までは2.5/5/10/15MHz(メガヘルツ)の短波(HF)帯で送信され、アマチュア無線家のあいだで周波数の校正などに活用された。
	JLRS	Japan Ladies Radio Societyの略称。 日本アマチュア婦人無線協会。 女性ハムが結成しているアマチュア無線団体の1つ。

用語集

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
J（つづき）	JST	Japan Standard Timeの略称。日本標準時。 東経135度（兵庫県の明石天文台）を太陽が横切るときの時間を基準に決められている。 JST＝UTC（協定世界時）＋9時間
	JT65	デジタルモードの1つ。 送信側では、約1分間、同じメッセージを繰り返し送出し、受信側ではそれをソフトウェアによって解析してデコードする通信方式である。 極めて弱い信号でもデコードできるので、数ワット程度の送信出力と、簡単なアンテナでも世界各国と交信できる。 運用バンドを上手く選べば昼夜を問わず、世界中からの信号を受信できる。
	Jモード	日本のアマチュア無線用の人工衛星と通信をするために作られた交信周波数の組み合わせ方式のこと。 アナログ通信用のJAモードとデジタル通信用のJDモードがあり、地上から衛星へのアップリンク回線には144MHz（メガヘルツ）帯で送信し、衛星から地上へのダウンリンク回線には430MHz（メガヘルツ）帯で送信される。
L	LCD	Liquid Crystal Displayの略称。液晶パネルを使用した表示部のこと。 無線機だけでなく、テレビ、パソコン、携帯電話など広く使用されている。
	LED	Light Emitting Diodeの略称。発光ダイオードのこと。 電気を光に変換する効率がよく、省電力・省エネ照明に適している。 発光ダイオードにはガリウム・ヒ素（GaAs）などの化合物半導体が使用される。
	LF帯	Low Frequency Bandの略称。長波帯のこと。 30kHz（キロヘルツ）を超え、300kHz（キロヘルツ）以下の周波数帯の電波。 アマチュア無線には、135kHz帯が割り当てられている。
	Li-ion電池	リチウムイオン電池。充電することで繰り返し使用できる電池で、Ni-Cd電池（ニッケルカドミウム電池）やNi-MH電池（ニッケル水素電池）よりも、エネルギー密度が高く、小型・軽量でメモリー効果もない。
	LNA	Low Noise Amplifierの略称。 無線機の受信回路初段に使用される雑音指数の小さい高周波（RF）増幅の素子（デバイス）のこと。
	LNB	Low Noise Block Down converterの略称。 低雑音ダウンコンバーターのこと。 受信アンテナ、局部発振回路と混合（ミキサー）回路を1つのパッケージにおさめたもので、パラボラアンテナなどと一体化されているのが一般的。 ミリ波帯、準ミリ波帯と呼ばれるSHF（Special High Frequency）帯の電波は極めて減衰しやすいため、低い周波数に変換してから、受信回路に送る。
	LOS	Loss Of Signalの略称。衛星通信を利用するとき、衛星を見通せなくなって信号が消滅すること。
	LPF	ローパスフィルター（Low Pass Filter）の略称。 ハイカットフィルターともいい、一定の周波数（カットオフ周波数）以下を通過させ、それ以上の周波数を減衰（カット）させるフィルター回路のこと。
	LSB	Lower Side Bandの略称。 SSB（Single Side Band）の信号で、下側の側波帯の信号のこと。 アマチュア無線では、7MHz（メガヘルツ）帯以下のバンドでLSBが使用される。
	LSI	Large Scale Integrated circuitの略称。大規模集積回路のこと。 IC（集積回路）を発展させたもので、IC上に、さらに別のICを加えることによって多層化し、回路の集積度を高めた大規模な集積回路である。
	LUF	Lowest Usable Frequencyの略称。最低使用周波数のこと。 短波帯において、MUF（最高使用周波数）より低い周波数を地上から放射すると、電離層のD層とE層を通過し、F層で反射され、ふたたびE層とD層を通過して、地上へ戻ってくるが、このときの一番低い周波数をLUFという。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
M	MCA	Multi Channel Accessの略称。 周波数を有効に利用するために考案された業務用無線に使用されているシステム。 複数の通信チャンネルのほかに制御チャンネルを設けて、空チャンネルを自動的に探し出し、通信に使用される周波数を設定するようにしている。
	MEL	Max Elevationの略称。衛星通信を利用するとき、衛星が最大仰角の位置にくること。
	MESSAGE	DV（デジタルボイス）モードで音声通信をしながら、送信できる最大20文字のショートメッセージのこと。
	MESSAGE（GPS）	GPSモード時に送信する、最大20文字のメッセージのこと。 一般的なテキストメッセージのほか、適切なキャラクターを設定することで、GPSモードでもD-PRSに対応できるようになる。
	MESSAGE（GPS-A）	D-PRS（GPS-A（DV-A））モード時に送信するコメント。
	MF帯	Medium Frequencyの略称。中波帯のこと。AM放送などに使用されている。 周波数が300kHz（キロヘルツ）を超え、3,000kHz（キロヘルツ）以下の電波。 アマチュア無線には、1.9MHz帯が割り当てられている。
	MIL規格	Military Specifications and Standardsの略称。 米国国防省による物資調達を潤滑に図るための規格の1つ。 無線機などでは、「防水・防塵」の性能を規定している。
	MOS-FET	モスエフイーティーと読む。モスフェットともいう。 Metal Oxide Semiconductor（金属酸化物半導体）の積層構造をそのゲート構造とするField Effect Transistor（電界効果トランジスター）のこと。 FETは電圧で制御できるトランジスターで、一般的なトランジスターに比べ、入力インピーダンスが高く、使いやすく、消費電力も少なく、低雑音で熱暴走がないのが特長である。 このため、受信部の増幅素子（デバイス）や、送信部の終段（PA：出力段）にも使用される。 また、終段に使用されるパワーMOS-FETもある。
	MSK機能	MCA無線で聞こえるMSK制御信号を検出すると、ダイヤル操作時には受信音をミュートし、スキャン中にはスキャンを再スタートする機能のこと。
	MUF	Maximum Usable Frequencyの略称。最高使用周波数のこと。 地上から電離層に向けて垂直に電波を発射し、電離層で反射する最高の周波数。
	MY	D-STAR運用時、自局のコールサイン（MY Callsign）を設定する項目を示す名称。
	M型コネクター	高周波ケーブルを接続するためのコネクターの一種。 接合部のインピーダンスを規定して作られていないため、通常VHF帯以下の周波数で使用されるが、VUデュアルバンドモービル機は、UHF帯にもM型コネクターを使用する。
N	NF	Noise Figureの略称。雑音指数ともいう。 素子やアンプ、ミキサーなどが持っている特性で、数値の低いものが優れている。
	Ni-Cd電池	ニッケルカドミウム電池。ニッカド電池ともいう。 充電することで繰り返し使用できる電池で、ハンディー機に多く使用されていたが、環境汚染物質であるカドミウムが含まれているため、無線機には使用されなくなった。電動ドライバーなどの電動工具では、大電流放電や低温特性に優れていることから、現在も使用されている。
	Ni-MH電池	ニッケル水素電池。 充電することで繰り返し使用できる電池で、低温での放電特性が悪い。 同じ容積であれば、Ni-Cd電池よりも高容量であるが、自己放電性能で劣る。
	NMEA	(1)米国海洋電子協会（National Marine Electronics Association）の略称。 (2)位置情報を送信する形式の1つ。 　当社製無線機（ID-5100、ID-51（50周年記念モデル））では、GPS送信モード「DV-G」を「NMEA」と表記している。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
N（つづき）	NMEAセンテンス	GPSレシーバーと緯度、経度、高度、UTC（協定世界時）、測位状態、2D/3D、進路、速度などのデータをやり取りするための単位。 1単位のはじまりは$、終了は<CR><LF>のコードが付き、センテンス内の項目ごとにコンマで区切られる（CSV形式のフォーマットで表現）。 センテンスには、複数の種類（RMC、GGA、GLL、VTG、GSA、GSVなど）があり、最初の文字列から、その種類がわかる。 無線機から出力できる情報は、指定するセンテンスによって異なる。 各センテンスの内容については、使用するGPSレシーバーによって、メーカー独自の情報が含まれる場合がある。
	NPN型 トランジスター	N型半導体のあいだにP型半導体をサンドイッチ状に組み合わせたトランジスターのこと。 エミッターをN型、ベースをP型、コレクターをN型としたものである。
	Nチャンネル FET	FET（Field Effect Transistor）の電極は、ソース（S）、ゲート（G）、ドレイン（D）というが、ゲート（G）と呼ばれる電極がN型半導体でできている電界効果トランジスターのこと。
	N型コネクター	高周波同軸ケーブルを接続するためのコネクターの一種。 接合部の特性インピーダンスは、50Ω（オーム）で、おもにUHF帯用として使用される。
O	off the air	電波の発射を中断すること。
	OM	Old Manの略称。アマチュア無線経験の豊富な人のこと。 コールブックの最初に掲載されている2文字コールの人などは、敬意を持ってみられる。
	on the air	電波を発射すること。
	OP	電気回路では、OP Ampと記載され、Operational Amplifierの略称で演算増幅器のこと。 独立した部品で構成するディスクリート回路に比べて、簡単に増幅回路が構成できる。 アマチュア無線では、Operatorの略称。 無線局を運用（交信）している人のことをオペレーターといい、QSLカードに「OP：運用者名」として記載するのが一般的である。 特に、社団局では、複数の人が運用するため重要である。
	OSC	Oscillatorの略称。発振器、発振回路のこと。
	OSCAR	Orbiting Satellite Carrying Amateur Radioの略称。 アマチュア無線用通信衛星の1つで、1961年に2メーターバンド（144MHz（メガヘルツ）～148MHz（メガヘルツ））の無線機を搭載した第1号が打ち上げられたが、以後の衛星名称の一部に「オスカー」を入れ、一連の番号を付けることが慣例化している。
P	P.O.BOX	Post Office Boxの略称。 郵便局に設置されている私書箱のこと。
	PA（ユニット）	Power Amplifierの略称。 電力増幅部のこと。
	PARIS方式	電信（モールス符号による通信）の速度を表す基準となるもの。
	PBT	Passband Tuningの略称。 スーパーヘテロダイン受信機の中間周波数の通過帯域幅を変更できるようにして、隣接する妨害電波を除去する回路。
	PCB	Printed Circuit Boardの略称。 無線機などの回路部品を取り付けるためのプリント基板のこと。
	PEP	Peak Envelope Powerの略称。尖頭包絡線電力のこと。 SSB（Single Side Band）では、一般的に送信出力をPEPで表す。
	PHASE-3	アマチュア無線用の人工衛星で、第3世代といわれるもの。
	PLL発振回路	PLLは、Phase Locked Loopの略称。 電圧で制御される発振回路の安定度を基準発振器並みに合わせる方式のこと。 発振周波数を基準信号と比較し、発振周波数を自動的に修正するため、広範囲にわたり安定した周波数が得られる。
	P-LOSS	Packet lossの略称。 インターネット回線網を経由したゾーン間通信で、電波干渉によるデータの損傷などでデータの一部を失ってしまうこと。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
P（つづき）	PNP型トランジスター	P型半導体のあいだにN型半導体をサンドイッチ状に組み合わせたトランジスターのこと。 エミッターをP型、ベースをN型、コレクターをP型としたものである。
	PN接合ダイオード	P型半導体とN型半導体を接合したものをダイオードと呼び、接合部分をPN接合という。 PN接合ダイオードには、整流作用がある。
	PO	Power Outputの略称。出力電力のこと。
	POメーター	Power Output Meterの略称。 送信機で高周波出力の出力状態を監視するためのメーター。
	ppm	parts per millionの略称。水晶発振子などの周波数安定度などを示す単位。 ppmは100万分の1（1×10のマイナス6乗）なので、1MHz（メガヘルツ）に対して1Hz（ヘルツ）の誤差を生じているとき、1ppmと表す。
	PSK	Phase Shift Keyingの略称。 デジタル変調方式の1つで、搬送波の位相を変化させることによって変調をかける方式のこと。 同じ帯域幅であっても、伝送させる信号波形のシンボル数を増やすことによって、伝送速度を上げられる。 シンボル数の違いによって、2相PSK、4相PSK（QPSK）、8相PSKなどがある。 アマチュア無線では、PSK31（Phase Shift Keying 31ボーの略称。）を使用して、文章をリアルタイムで交互にやり取り（チャット）できる。 当社製無線機(IC-7800/IC-7700/IC-7600)では、USBキーボードを無線機に直接接続するだけで利用できる。 電波型式はG1Bである。
	PTT	Push To Talk（プッシュツートーク）の略称。プレストークスイッチともいう。 マイクに取り付けられている送受信切り替えスイッチを押して、送信状態にすること。
	PチャンネルFET	FET（Field Effect Transistor）の電極は、ソース（S）、ゲート（G）、ドレイン（D）というが、ゲート（G）と呼ばれる電極がP型半導体でできている電界効果トランジスターのこと。
Q	Q	同調回路の鋭さを表す記号。
	QRA	「無線局名」を表すQ符号。 個人局では、「オペレーター名」を指すこともある。
	QRM	「混信」を表すQ符号。 「QRMがありますので、別のチャンネルにQSY（移動する）しましょう」というように使用する。
	QRO	無線局運用規則によって規定されるQ符号の1つ。 元来、「こちらの出力を大きくしましょうか？」という意味だが、送信出力を上げたときなどに使用される。
	QRP	「小出力」、または「小出力局」を表すQ符号。 元来、「こちらの出力を小さくしましょうか？」という意味だが、小出力運用であることを示すときに使用される。
	QRT	無線局の運用をやめることを意味するQ符号。
	QRV	「無線を運用する」ことを表すQ符号。
	QRZ	「どなたかこちらを呼びましたか？」を意味するQ符号。 アマチュア無線では、「こちらを呼ぶ局はありますか？」の意味でも使用される。
	QSB	「フェージング」を表すQ符号。 「フェージング」とは電波が強くなったり、弱くなったりする現象のこと。
	QSL	お互いに交信したことを証明する交信証のこと。本来の意味は「受信証を送ります」。 「QSLカード」の略語として使用される。 また、「了解しました」の略号として、コンテストやDX通信で使用される。
	QSLカード	交信が成立したことを証明するカードのこと。 アマチュア無線局によって、任意に発行されている。
	QSLマネージャー	実際に運用している局に代わってQSLカードの受領や発送をする人のこと。 無人島での運用やペディションなどでは、QSLマネージャーを置くことがある。 このときは、オペレーター宛ではなく、QSLマネージャー宛にカードを送付する。
	QSO	アマチュア無線で交信することを表すQ符号。 「交信する」というよりも「QSOする」と、よくいわれる。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
Q（つづき）	QSOパーティー	ニューイヤーパーティーともいい、新年の挨拶のために、毎年1月2日～3日に開催されるJARL（日本アマチュア無線連盟）主催の交信会。
	QSP	「伝言してください」を意味するQ符号。
	QST	米国アマチュア無線連盟（ARRL）から発行される機関誌。
	QSY	運用している周波数の変更、およびバンドを変更するときに使用するQ符号。
	QTH	住所や運用場所を表すQ符号。 「QTHは、大阪市平野区です。」のように使用される。
	Q符号	もともと、無線電信で使用されていたQではじまる3文字の符号。 電信だけでなく、アマチュア無線の電話でも盛んに使用される。
R	RBBS	Radio Bulletin Board Serviceの略称。 無線を使用した電子掲示板のこと。
	REF	Reseau des Emetteurs Francaisの略称。 フランスのアマチュア無線連盟。
	REMOTEジャック	(1)CI-V(シーアイ・ファイブ)レベルコンバーター(当社製：CT-17)の接続に使用する。 CI-Vを介して当社製無線機に接続されたパソコンから無線機の周波数や運用モード、VFO/メモリーモードを外部コントロールできる。 (2)当社製リニアアンプ(IC-PW1)を使用するとき、当社製無線機からIC-PW1を外部コントロールするのに使用する。
	RFI	Radio Frequency Interferenceの略称。 高周波電波障害のこと。
	RFブリッジ	コンデンサーのキャパシタンス（静電容量）やコイルのインダクタンスなどを測定するためのブリッジ状に組まれた回路のこと。
	RF段	高周波増幅段、または高周波増幅回路のこと。 同調回路で選択した電波を増幅する。
	RIT	Receive Incremental Tuningの略称。 送信周波数を変えることなく、受信周波数だけを微調整して相手の送信周波数に同調させる機能のこと。 一般的に、±10kHz（キロヘルツ）以内で変更できる。
	RPT?	D-STAR運用時において、呼出先のレピータが使用中の場合、無線機のディスプレイに 表示されるステータスのこと。(表示例：RPT?:JP3YHHA)
	RPT1、R1	D-STAR運用で使用する送り元レピータ（自分が使用するレピータ）のコールサインを設定する項目を示す名称。
	RPT2、R2	D-STAR運用で使用する送り先レピータのコールサインを設定する項目を示す名称。 ゾーン内通信では、相手局がいるエリアのD-STARレピータのコールサインを設定する。 ゾーン間通信（インターネットを利用した通信）では、自局ゾーン内のゲートウェイ局のコールサインを設定する。
	RSGB	Radio Society of Great Britainの略称。 イギリスのアマチュア無線連盟。
	RST	Readability（了解度）、Signal strength（信号強度）、Tone（音調）を評価し、それぞれ数字で表す。 R（了解度）は1～5、S（信号強度）とT（音調）は1～9で表す。 なお、RSTで表現するのは電信（CW）で、音声通信（電話）はRSだけで表現する。
	RSレポート	シグナルレポートともいい、交信している相手の受信状態をめいりょう度（Readability）と信号強度（Signal strength）でレポートすること。 「R」（了解度）は1～5の5段階、「S」（信号強度）は1～9の9段階で、どちらも聞いた感じで表現する。 「RS59（ファイブナイン）」などと表現する。 FMモードの交信で、「メリット○（○には1～5の数字が入る）」といわれるが、これとは別もの。 CWモードでは、これに音調（Tone）が加わり、「RST599」のようにレポートする。 なお、信号強度は、無線機のSメーターの読みを目安にレポートされることもある。 RS59+20dBのようにSメーターの指示がS9を超える場合は、何dBオーバーかを付加してレポートすることがある。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
R（つづき）	RTTY	ラジオテレタイプ(Radio Teletype)の略称。 アマチュア無線で使用されているテレプリンターによる通信のこと。 テレプリンターは、文字情報を国際標準の信号に変換して送信される通信で、ほとんど英文で送信される。 昔は、モデムを介して、無線機とテレプリンターを接続していたが、当社製無線機(IC-7800/IC-7700/IC-7600)であれば、USBキーボードを接続するだけで通信できる。 電波型式はF1Bである。
	RTTY-R(リバース)	RTTY通信において、マーク周波数(2125Hz)とスペース周波数(2295Hz)が反転しているため、信号を正しく復調できないとき、受信機側で極性を合わせる機能のこと。
	RTTY(FSK)モード	FSKによる通信をするときのモード。
	RTTYデコーダー	RTTYデモジュレーターで復調された符号(マークとスペース)をボドー(Baudot。ラジオテレタイプの5単位コード)を元に、文字(アルファベット/数字/記号)へ変換(復号)して表示する機器のこと。 当社製無線機(IC-7800/IC-7700/IC-7600/IC-7410/IC-7400/IC-7000/IC-756PRO/IC-756PROII/IC-756PROIII)には、RTTYデモジュレーターとRTTYデコーダーが内蔵されているため、外部RTTYデモジュレーターやRTTYデコーダー、パソコンを使用せずに、解読された文字を無線機の画面に表示できる。
	RTTY デモジュレーター	RTTY(Radio Teletype)信号(ピロピロ音)をマーク(ON)とスペース(OFF)に復調する機器のこと。 当社製無線機(IC-7800/IC-7700/IC-7600/IC-7410/IC-7400/IC-7000/IC-756PRO/IC-756PROII/IC-756PROIII)に内蔵されている。
	RX	受信機(Receiver)を表す略語。 もとは、電信(モールス符号による通信)用の略語である。
	RX→CS、RX＞CS	ラピッドアンサー機能のこと。 D-STAR(DVモード)運用時、受信したコールサイン情報をCS(コールサイン設定)に取り込み、すぐに応答できる。
S	SASE	Self Addressed Stamped Envelopeの略称。 英語読みで「セイス」、日本語読みで「サセ」という。 QSLカード(交信証)を送るときに、自分の住所と氏名を書き込んだ返信用封筒に返信用切手、海外の場合は国際返信切手券(IRC)を同封し相手に送れば、手早くQSLカードが入手できる。
	SCFM	Sub Carrier Frequency Modulationの略称。 SSTV(Slow Scan Television)信号波の電波型式。 短波帯で使用されるラジオファクシミリは、1500Hz(ヘルツ)の黒レベルを同期信号に使い、走査線を1分間当たり60本、または120本送信するSCFM変調方式のものが多い。 A4サイズの原稿を電送する場合、120rpmで12分程度かかる。
	SEANET	South East of Asia Amateur Radio Networkの略称。 東南アジアのアマチュア無線局が中心の集まりのこと。
	SG	Signal Generatorの略称。信号発生器の総称。
	SHF	Super High Frequencyの略称。 周波数が3GHz(ギガヘルツ)を超えて、30GHz(ギガヘルツ)以下の電波のこと。 波長がセンチメートル単位のため、センチメートル波ともいう。
	SINAD	FMトランシーバーの受信感度を表す用語。サイナードと読む。 Signal＋Noise＋DistortionとNoise＋Distortionの比。 (S＋N＋D)/(N＋D)で表す。
	SINPO	受信状態を表し、受信レポートに使用される。シンポと読む。 SはSignal strength(信号強度で1～5で表示)、IはInterfere(受信障害で1～5で表示)、NはNoise(雑音で1～5で表示)、PはPropagation(電波伝搬で1～5で表示)、OはOverall merit(総合評価で1～5で表示)として評価し、5桁の数字で表す。
	SMA型コネクター	高周波同軸ケーブルを接続するためのインピーダンス50Ω(オーム)系のコネクター。 超小型のため、アンテナの取り付けや取りはずしのとき、無線機への負担が少ないことから、ハンディー機や無線LAN機器に使用されている。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
S（つづき）	SN比（S/N）	Signal to Noise Ratioの略称。 信号と雑音の比率をdB（デシベル）で表したもの。 数値が大きいほど雑音（ノイズ）が少ない。
	SO2R	Single Operator 2 Radioの略称。 CQを出しているあいだに、異なった周波数やバンド受信するために、1人で2台の無線機を同時に使用して交信する運用形態。
	SQL	スケルチ（Squelch）の略称。 一定レベル以下の信号のときには、スピーカーから音声を出さなくし、静かに信号が来るのを待つ機能のこと。 FM放送やFMモードを受信するとき、無信号時の「ザー」というノイズ（雑音）をカットする働きをする。
	SSB	Single Side Bandの略称。 AM変調の一種で、搬送波（キャリア）の上側と下側にできる側波帯のいずれかで通信する方式のこと。 上側の側波帯を使用するのがUSB（Upper Side Band）、下側の側波帯を使用するのがLSB（Lower Side Band）である。 キャリアや逆サイドを含まないため、限られた送信出力で電波（音声）がより遠くへ届く。
	SSG	Standard Signal Generatorの略称。標準信号発生器のことで、SGともいう。 受信感度の測定などに使用する出力信号の正確な高周波信号を発生する装置のこと。
	SSID	I-Gate（アイゲート）局があるレピータにアクセスして、APRS用アプリケーション、またはインターネットサイト（aprs.fi）、APRS対応の無線機などで、自局の運用形態を表示するための識別用として、AX.25プロトコルに準拠したパケット通信で、自局のコールサインのうしろに付加するAPRSに準拠したID。 SSIDには、数字（-0～-15）やアルファベット（-A ～-Z）を設定できる。 GPSの自動送信設定をGPS-Aモードにしているとき、DV（Digital Voice）モードで送信すると、SSIDを含む位置情報が送出される。
	SSN （Sun Spot Nunmber）	太陽黒点相対数と呼ばれている。 この数の増減によって、電離層の電子密度が影響を受け、短波（HF）帯の電波コンディションが影響を受ける。
	SSTV	Slow Scan Televisionの略称。 アマチュア無線で用いられている通信方式の1つで、画像情報を音声帯域の信号に変換して送受信する方式で、SSBモードで運用できることからHF帯で画像通信が楽しめる。 SSTV用ソフトウェアがパソコンにインストールされていれば、無線機と接続するだけで運用できる。 電波型式はF3Fである。
	SWL	Shortwave Listenerの略称。 短波放送局やアマチュア無線局の交信を受信する人、およびその行為のこと。
	SWR	Standing Wave Ratioの略称。定在波比ともいう。 アンテナ方向に向かう進行波電圧と、アンテナから発射されずに無線機のほうに戻ってくる反射波電圧との干渉でできた波の最大と最小の比を表したもの。 SWRは、1.0が最良で、∞（無限大）が最悪である。 整合の目安は、SWRの測定値が1.5以内とされる。
	SYMBOL	D-PRS/APRSで、自局などの運用形態を示すために使用するアイコンのこと。 設定には、一定のルールがある。
	Sメーター	「S」は、Signal strengthの略称で、シグナルメーターのこと。 信号強度を表示するメーターで、目盛りは1～9までと、それ以上は+10dB（デシベル）、+20dB（デシベル）のように表示されている。 シグナルレポート（RSレポート）を送るときの目安となる。
	Sメーター スケルチ機能	設定したS（Signal strength）メーターの振れ幅より小さい信号は、スピーカーから音を出さないようにする機能のこと。 雑音に近い小さな信号は聞こえないので、静かに待ち受けができる。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
T	TAPR	Tucson Amateur Packet Radio Corporationの略称。 米国のアマチュア無線連盟(American Radio Relay League)と共同で、TNC(Terminal Node Controller)に使用されるAX.25プロトコルを制定した米国アリゾナ州ツーソンのグループである。
	TEP	Trans Equatorial Propagationの略称。 F2層による電波伝搬の一種で、赤道付近の異常伝搬。 高さが400km ～500kmと通常のF2層よりも高く、赤道を挟んだ南北間でMUF(最高使用周波数)よりも高い周波数が伝搬する。 日本の場合は、オーストラリアとの交信ができる。
	TNC	Terminal Node Controllerの略称。 電話回線を使用するデータ通信の代わりに、アマチュア無線の電波を利用してするパケット通信をするときに使用する機械。 TNCとパソコンを無線機に接続すれば、メール交換など、色々なデータをやり取りできる。
	TPF	ツインピークフィルター(Twin Peak Filter)の略称。 FSK通信において、微弱な信号の解読するとき使用する当社製無線機に搭載されたフィルターのこと。 マーク周波数(2125Hz)とスペース周波数(2295Hz)に通過帯域幅のピークを持たせることで、外部低周波(AF)出力をパソコンなどでデコードする場合の復調率が改善される。
	TS	チューニングステップ(Tuning Step)の略称。 ダイヤルなどを回したときに、変化する周波数の間隔。 変化する間隔は、5/10/15/20/25kHz(キロヘルツ)など送受信する周波数帯や運用モード(電波型式)によって異なる。
	TSQL	トーンスケルチ(Tone Squelch)の略称。 FMモードで、特定の相手とだけ通信したいときに使う機能のこと。 通信したいすべての局で、同じトーン周波数(67.0Hz(ヘルツ)～254.1Hz(ヘルツ))を設定して運用する。 自局に設定したトーン周波数と同じトーン周波数の低周波信号が受信信号に重畳されているときだけ、スケルチが開いて受信できる。
	TTL	Transistor Transistor Logic circuitの略称。 ロジック回路で使用されるICの内部が、トランジスターで構成されたIC。
	TVI	テレビ電波障害(Television Interference)の略称。ティーブイアイと読む。 無線機から送信された電波の影響で、テレビの画面や音声に障害が出ること。 原因としては、通信電波の他に不要な電波成分が輻射され、その周波数がテレビの受信周波数と同調して妨害を与えることと、送信機の電波が強すぎて直接、テレビの内部で妨害信号を合成することの2つがある。
	TX	送信機(Transmitter)を表す略語。 元は、電信(モールス符号による通信)用の略語である。
U	UHF帯	Ultra High Frequencyの略称で、極超短波帯のこと。 300MHz(メガヘルツ)～3GHz(ギガヘルツ)の電波がUHF帯に該当する。 アマチュア無線には、430/1200/2400MHz(メガヘルツ)帯の3バンドが割り当てられている。
	ULSI	Ultra Large Scale Integrationの略称。超々大規模集積回路のこと。 1チップ当たりの半導体素子の集積度が1000万個を超える超々高密度集積回路の総称。 より小型で集積密度の高いものが開発されるようになり、最近では、集積回路全般をLSI、またはICと呼称することが多い。
	UNPROTO ADDRESS	信号を発射する端末のパスで、APRS/D-PRS運用時には設定が必要である。 D-PRSの場合「APIxxx,DSTAR＊」を設定。(xxxは機種を識別する数字)
	UR	YOURの略称。CWの通信ではYOURの替わりにURと短縮形で送信することが多い。 D-STAR運用で使用する相手局(個人局またはレピータ局)のコールサインを設定する項目を示す名称。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
U（つづき）	UR?	D-STAR運用時、正常に電波がレピータに届いているが、相手局から応答がなかった場合、無線機のディスプレイに表示されるステータスのこと。（表示例：UR?:JP3YHHA）
	USB	(1)Upper Side Bandの略称。 上側の側波帯を使用するSSB（Single Side Band）通信のこと。 アマチュア無線では、14MHz（メガヘルツ）帯以上のバンドでUSBが使用される。 (2)Universal Serial Busの略称。 キーボード、マウス、プリンターなどの周辺機器とパソコンを共通のコネクターで接続でき、高速でデータ転送できるシリアルインターフェース規格。 ホットプラグに対応しているので、パソコンを使用中に接続や取りはずしができる。 また、転送速度の違いにより、USB1.1、USB2.0、USB3.0の規格がある。
	UTC	Universal Time of Coordinatedの略称。協定世界時のこと。 UTC＝JST（日本標準時）－9時間
	Uボルト	U字型をした金具で、アンテナをポールやベランダの手すりに取り付けるときなどに使用する。 ポールの直径に合わせた金具を使用することが必要である。 また、取り付けるときは、ボルトを均等に締めるのがポイント。
V	V（ボルト）	電圧の単位。1Ω（オーム）の抵抗に1A（アンペア）の電流を流そうとするときに必要な電圧が1V（ボルト）である。 電圧（E）は電流（I）×抵抗（R）で算出できる。
	VCO	Voltage Controlled Oscillatorの略称。 外部から与えられる電圧で発振周波数が変化する発振回路。 PLL（Phase Locked Loop）シンセサイザー内部の発振回路として使用され、モジュール化したものもある。
	VFO	Variable Frequency Oscillatorの略称。可変周波数発振器のこと。 (1)L(コイル)とC（コンデンサ）で構成された自励発振回路。 コイルのインダクタンス、またはコンデンサのキャパシタンスを変化させて、発振する周波数を変化させるようにした発振器 (2)PLLやDDSなどのシンセサイザを用いた発振器。
	VHF帯	超短波帯ともいい、Very High Frequency Bandの略称。周波数範囲は30～300MHz（メガヘルツ） アマチュア無線で許可されているバンドは、50/144MHz（メガヘルツ）帯である。
	VLF帯	ミリアメートル波、超長波ともいい、Very Low Frequencyの略称。 周波数が3kHz（キロヘルツ）を超え、30kHz（キロヘルツ）以下の周波数帯のこと。
	VOX機能	Voice Operated Transmitの略称。 音声により送受信状態をコントロールする機能のこと。
	VSC	(1)Voice Squelch Controlの略称。 受信した信号に音声信号が含まれているかを検出する機能。 音声信号が含まれていればスケルチを開き、含まれていなければスケルチを閉じる。 スキャン中に受信した信号についても、動作する。 (2)Voice Scan Controlの略称。 スキャン中に、受信した信号に音声信号が含まれているかを検出する機能。 音声信号が含まれていればスキャンを一時停止し、含まれていなければスキャンを継続する。
	VSWR	Voltage Standing Wave Ratioの略称。電圧定在波比のこと。 SWRを電圧で取り扱うときに特にVSWRという。詳しくは、SWRを参照。
	VXO	Variable Crystal Oscillatorの略称。可変周波数型水晶発振回路。 水晶発振器の周波数を少しだけ変更できるようにしたもの。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
W	W(ワット)	電力の基本単位。 単位記号は[W]で表し、補助単位を使用した表記としてキロワット[kW]、ミリワット[mW]がある。 アマチュア無線では、送信出力を表す単位でもある。
	WAC	Worked All Continentsの略称で、「ワック」ともいう。 世界的に有名なアワードで、世界の6大陸のアマチュア無線局と交信して、QSLカードを得るともらえる。
	WACA	Worked All Cities Awardの略称で、「ワカ」ともいう。 日本の全市のアマチュア無線局と交信して、QSLカードを得るともらえるアワード。 JARL(日本アマチュア無線連盟)が発行している。
	WAGA	Worked All Guns Awardの略称。 日本の全郡のアマチュア無線局と交信し、それぞれのQSLカード各1枚を得ることによって、JARL(日本アマチュア無線連盟)から発行されるアワード。
	WAJA	Worked All Japan Awardの略称で、「ワジャ」ともいう。 日本の47都道府県のアマチュア無線局と交信して、QSLカードを得るともらえるアワード。 JARL(日本アマチュア無線連盟)が発行している。
	WARC(ワーク)バンド	WARC(ワーク)とは、World Administrative Radio Conferenceの略称で、世界無線通信主管庁会議のこと。 この会議で、世界の周波数割り当てが決められているが、短波(HF)帯の10/18/24MHz(メガヘルツ)帯など、ここで決められたアマチュア無線バンドをWARCバンドという。
	WAS	Worked All Statesの略称。 米国のアマチュア無線連盟(ARRL)から発行されるアワードで、全米50州のアマチュア無線局と交信するともらえる。
	WFM	ワイドFMモードのこと。 アマチュア無線で使用されるFMモードは、電波を効率的に使用するため、一般的なFM放送よりも占有帯域幅が狭くなっている。 このため、レシーバー(受信機)では、一般的なFM放送を受信するため、ワイドFMモードを設けて、音質のよいFM放送を楽しめるようにしている。
	WIA	Wireless Institute of Australiaの略称。 オーストラリアのアマチュア無線連盟のこと。
	WPM	Words Per Minutesの略称。 モールス符号を1分間当たりに送信する語数の単位で、1単語(1ワード)は、PARIS方式の5文字に相当する。 海外では、1分間に何文字の送受信の表現ではなく、1分間に何ワードの単語の送受信(WPM)として使われることが多い。
	WPX	(1)Worked All Prefixesの略称。 米国のCQマガジン社から発行されるアワード。 世界中のアマチュア無線局のコールサインで、色々なプリフィックスの局と交信し、QSLカードを獲得すると得られる。 (2)CQ World-Wide WPX Contestを指す時もある。 全世界のアマチュア局がコンテスト期間中にできる限りの多くの局、プリフィックスとコンタクトをすること。
	WWV	米国本土から発射されている標準電波局のコールサイン。 標準電波は、2.5/5/10/15/20MHz(メガヘルツ)で送信されており、電波伝搬状態を確認するためのマーカーとなっている。
	WWVH	米国のハワイ州から発射されている標準電波局のコールサイン。 2.5/5/10/15MHz(メガヘルツ)で標準電波が送信されている。

用語集

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
X	X	「XYL」の省略形で、「奥さん」を指す俗語。 「X」は接頭語の「ex」の省略形で、「かつて若かった女性」ということから、「奥さん」を指すようになった。
	XYL	結婚している女性を表す無線用語。 「YL」はYoung Ladyの略称で、若い女性のことだが、「X」を付けて「かつて」、昔は若かった女性ということから、結婚している女性、つまり「奥さん」を指すようになった。
	XYスコープ	一般的なオシロスコープでは、X軸（横軸）は時間経過を表し、Y軸（縦軸）には信号を入力するが、XYスコープは、X軸とY軸の両方に信号が入力できる位相の測定に使用するオシロスコープである。 X軸とY軸の位相が一致すれば、斜め45度の直線が表示され、位相がずれると楕円になっていき、45度ずれると斜めの楕円になり、90度ずれると円になる。
Y	YL	Young Ladyの略称。未婚の女性を指す無線用語。 アマチュア無線の世界では、既婚・年齢を問わないことが多い。
	YM	Young Manの略称。若い男性を指す無線用語。 年齢的に若いというよりも、経験の浅いアマチュア無線家を指すことが多い。
あ	アイアンビック	エレクトロニックキーヤーに接続するマニュピュレーターで、短点側と長点側の接点を別々にコントロールできる構造のマニュピュレーターのこと。
	アイソレーション	電気的に回路を分離することで、分離している度合いをアイソレーションレベルという。 単位はdB（デシベル）で表す。
	アイボールQSO	アイボールは「目玉」の直訳語、QSOは交信することのQ符号。 「アイボール」と略称でいわれることもある。 アマチュア無線で交信するのではなく、実際に会って話をすること。 モービル運用などで交信中にたまたま近くにいることがわかったとき、「それではアイボールでも・・・。」のように使用する。
	アウトドア	一般的には、キャンプや屋外などを指すが、アマチュア無線では、移動運用を指すことがある。
	空きチャンネル	VHF帯/UHF帯で使用される言葉で、「現在、使用されていない周波数」のことをいう。 VHF帯/UHF帯のFMモードでは、20kHz（キロヘルツ）間隔で交信周波数が設定されているため、「周波数」ではなく「チャンネル」といわれる。
	アクセス	アマチュア無線では、レピータや通信衛星などに接続することを「アクセス」という。
	アクセスレピータ	D-STAR運用時、自分が使用するD-STARレピータのこと。 送り元レピータともいう。
	アクティビティー	アマチュア無線で、交信をするひんどのこと。 「最近、移動運用が増えて、アクティビティーが上がったよ」のように使用する。
	アクティブ	アマチュア無線を積極的、活動的に楽しむこと。 また、無線機器やコンピューターなどの運用中（稼動中）の状態。
	アクティブフィルター	トランジスターやICなどアクティブ（能動的）な素子とパッシブ（受動的）な素子を組み合わせて構成されるフィルターのこと。 小型で急峻なフィルター特性が得られるが、大信号には使えない。 これに対し、コイル（L）、コンデンサー（C）、抵抗（R）など、増幅や発振などの能力のないパッシブな素子だけで構成されるフィルターをパッシブフィルターという。
	アシスト局	D-STARで、エリアレピータ同士を10GHz（ギガヘルツ）帯の周波数で、10Mbpsで接続している幹線系のレピータのこと。
	アッテネーター	強力な信号を受信したとき、高周波（RF）増幅回路が飽和状態になることによる受信音のひずみを防ぐために、高周波増幅回路に入力される信号を減衰させる回路のこと。
	アップバーター	アップコンバーター（Up Converter）の略称。 送信機の周波数を上げるための装置のこと。 たとえば、HF帯の14MHz（メガヘルツ）帯から144MHz（メガヘルツ）帯に上げる装置がある。 これに対し、周波数を下げる装置をダウンバーター（ダウンコンバーター）という。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
あ(つづき)	アップリンク	レピータ、または衛星などに向けて送信する電波のこと。 430MHz(メガヘルツ)帯のアナログレピータでは、434.00MHz(メガヘルツ)～435.00MHz(メガヘルツ)、1200MHz(メガヘルツ)帯のアナログレピータでは、1270.00MHz(メガヘルツ)～1273.00MHz(メガヘルツ)に割り当てられている。 また、D-STARのレピータには、439.00MHz(メガヘルツ)～440.00MHz(メガヘルツ)に割り当てられているものがある。
	アナログ方式	情報のレベルを連続的に符号化、数値化しないで伝達する方式のこと。 長針と短針によって時刻を伝えるアナログ式に対して、数字で時刻を伝えるデジタル式がある。
	アパマンハム	アパートやマンションで開局しているアマチュア無線家のこと。 アンテナの設置場所やアンテナの大きさなどで制約を受けることが多い。
	アマチュアエクストラ級	アメリカのアマチュア無線の最上級クラス。 日本でいえば、第1級アマチュア無線技士と同じクラスのこと。
	アマチュアテレビ	おもに、1.2GHz(ギガヘルツ)帯以上のバンドで使用されている画像通信のこと。 AM、FMと2つのモードで運用されているが、メーカー製の機器は、AMモードを採用している。 S/Nのよい安定した電界強度(電波)が必要なため、指向性の鋭い八木アンテナやパラボラアンテナなどを使用する。
	アマチュアバンド	アマチュア無線局の運用が許可され、アマチュア業務にだけ使用できる周波数帯のこと。 従事者免許のクラスによって、使用する周波数帯が制限されたり、運用モードが定められたりしている。 日本では、無線局運用規則第258条の2の規定に基づく「アマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数の使用区別」にしたがって運用しなければならない。
	アマチュア業務	金銭上の利益のためでなく、もつぱら個人的な無線技術の興味によって行う自己訓練、通信及び技術的研究の業務をいう。(電波法施行規則 第三条第1項第十五号)
	アワード	アマチュア無線のコンテストなどに参加して、交信地域数や交信局数などの条件を達成した成果に対する表彰状のことで、JARL(日本アマチュア無線連盟)をはじめ、世界各国のアマチュア無線団体やクラブ、個人などが発行している。 アワードには、ADXA、ADXA-HAL、AJA、AJD、DXCC、HAC、JCC、JCG、WAC、WACA、WAGA、WAJA、WAS、WPXなどがある。
	アンカバー	正式には、アンダーカバー(undercover)という。 免許を持たず、アマチュア無線機などを使って交信をする違法局のこと。
	アンテナ	電波の出入口で、空中線ともいう。 送信機からの電波はアンテナを通じて空中に放射され、逆に空中の電波はアンテナを通じて受信機に入る。したがって、効率よく送受信できるように運用周波数に合ったアンテナを使用することが重要である。
	アンテナチューナー	送信機とアンテナをロスなく接続するための装置のこと。 無線機に内蔵されたオートアンテナチューナーは、多少インピーダンスのずれたアンテナが接続されたときでも、十分な性能を発揮できるように、自動的に整合させる。
	アンテナ共用器	アンテナを共用する装置のこと。 無線機とアンテナを結合する機器で、1本のアンテナで複数の周波数帯に対応した共用アンテナに接続して使用する無線機とアンテナの混合(分配)器。 2つの周波数帯に対応した混合(分配)器をデュプレクサー、3つの周波数帯に対応した混合(分配)器をトリプレクサーという。
	アンテナ切り替え器	数本のアンテナの中から、切り替えスイッチによって必要なアンテナだけを無線機に接続するための装置のこと。 切り替え時の損失が小さくなる構造で、手動スイッチ式とリレーを使用したリモート操作式がある。
	アンプ I	アンプアイと読む。オーディオ機器に対する電波障害のこと。 アマチュア無線などの送信電波がオーディオアンプなどに飛び込み、検波されてスピーカーから音声が聞こえたり、直接スピーカーに電波が飛び込んで音声が聞こえたりすることもある。

用語集

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
あ(ぢづき)	安定化電源	商用電源または、家庭用電源から直流電源を作り、負荷の変動に対しても常に一定の電圧が出力される回路を組み込んだ電源装置をいう。 出力電圧を可変できる電圧可変型と一定の電圧しか出力されない電圧固定型がある。 購入するときには、無線機の性能を十分発揮させるため、その出力電流容量に余裕があるものを選択することが重要である。
	アンマウント	無線機器に差し込まれたUSBタイプのメモリーなどを、無線機器から安全に取りはずしできるようにするための操作。
い	異常伝搬	VHF帯/UHF帯の電波伝搬は通常は見通し内通信であるが、気象条件のみならず、地形などの影響により通常の通信経路とは異なった経路で思いもよらぬ通達距離(受信する電波の強さ)の伝搬が発生する。このことを異常伝搬という。 「Eスポ」も異常伝搬の一種である。
	イッチョンチョン	144MHz(メガヘルツ)帯のこと。数字の部分をもじって、このように呼ばれる。 144MHz(メガヘルツ)帯の波長が2mであることから、「ツーメーター」ということもある。
	移動運用	山上や河原など電波の飛びがよい場所に移動して、アマチュア無線を運用すること。 無人島やアマチュア無線局のいない国に移動してサービスすれば、珍局として歓迎される。
	移動局	無線局免許状の常置場所以外で運用している無線局のこと。
	イニシャルセットモード	1度設定してしまえば、ふだんは変更することのない各種機能の設定ができるモード。 2バンド共通の機能設定ができる機種もある。 目で確認しながら操作できるガイダンス機能が付いている機種もある。
	インターフェアー	妨害電波など電波障害のことで、Interferenceの略称。 テレビに影響の出るTVI(ティーブイアイ)、オーディオ機器に影響の出るアンプI(アイ)の「I」は、インターフェアーの頭文字。
	インダクタンス	コイルの性能を表す指数の1つ。 コイルに交流電流を流すと、その電流方向とは逆向きの電流を流そうとする電圧が発生する。 この電圧の度合いをインダクタンスという。 単位は、H(ヘンリー)である。
	インピーダンス	交流信号に対する抵抗成分のこと。 回路に交流信号が流れているとき、その電気的負荷は直流のときの抵抗値だけでは決まらず、流れる電流の周波数、回路の抵抗、コイルやコンデンサーの抵抗として働く要素が複雑に絡み合って総合的な電気的負荷となる。 この電気的負荷を直流の抵抗と区別するため、インピーダンスと呼んでいる。
う	打ち上げ角	アンテナを水平方向から見たときの電波の発射角度のこと。 電波を電離層に反射させて通信をするとき、この打ち上げ角が重要になってくる。 電離層と大地に反射される回数が多ければ多いほど電波が減衰するので、遠くまで飛ばしたいときは、できるだけ低い角度で打ち上げるほうがよい。
	ウッドペッカーノイズ	短波(HF)帯において、軍事用の超地平OTHレーダー電波が原因で生じる「カタカタカタ…」という断続変調音の電波の俗称。 受信機に混入する断続音がウッドペッカー(キツツキ)が、木の幹をくちばしで叩いている音に似ており、アマチュアによっては妨害ノイズとなっていることからこのように呼ばれる。
え	エアバンド	航空無線のこと。 飛行機のパイロットと管制塔、またはパイロット同士が無線で交信しているバンド。 使用している周波数帯は、118MHz(メガヘルツ)～136MHz(メガヘルツ)と225MHz(メガヘルツ)～400MHz(メガヘルツ)で、変調方式はAM。
	エアモービル	Aeronautical Mobileの略称。 飛行機などで移動中のアマチュア無線局のこと。 国内線や国際線の飛行機では、アマチュア無線を運用することはできないので、自家用飛行機や自家用ヘリコプターからの運用に限られる。
	エイティーエイト	「88」と表記。女性の無線局に対して、交信を終わるとき、「さようなら」の意味で使用されるコード。 もともと、電信(モールス符号による通信)で使用されていた「love and kisses」を意味するコードがそのまま電話(音声による通信)で使用されている。
	エキサイター	パワーブースターやリニアアンプなどを使っているとき、これらにパワーを供給する元となる送信機のことをエキサイターという。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
え(つづき)	エコー	反射のこと。発射した電波がどこかに反射して返ってくること。
	エリア	コールサインを割り当てるために、日本を10に分割した区域のこと。 関東地方が1エリア、東海地方が2エリア、近畿地方が3エリア、中国地方が4エリア、四国地方が5エリア、九州/沖縄地方が6エリア、東北地方が7エリア、北海道地方が8エリア、北陸地方が9エリア、信越地方が0(ゼロ)エリアとなっている。
	エリア、レピータエリア	1つのアナログレピータやD-STARレピータがカバーする通信できる範囲のこと。
	エリアCQ	異なるレピータエリアを、CQで呼び出すこと。 D-STAR運用では、相手局コールサインを設定する項目(UR)には、「/(スラッシュ)」につづけて、CQを出したいレピータのコールサインを設定する。 DR機能搭載機の場合、DR機能を使用すると、相手局コールサインを設定する項目(UR)にCQを出したいレピータのコールサインが設定されると、コールサインの先頭に「/」が自動で設定される。
	エレクトロニックキーヤー	電気的に短点と長点を連続的に送出できる横振り式の電子キー。 自動電鍵、エレキーともいう。 電子キーを押した時間の長短で、短点と長点の数が増減する。 最近は、無線機に内蔵されているものが多い。
	エンコーダー	一定の規則に基づいて、データを符号化する装置のこと。 レピータを起動するためのトーンエンコーダー、「ピポパ」というDTMF信号を作り出すDTMFエンコーダーなどがある。
	エンティティー	アマチュア無線で、DXCCにおける国や地域、一定の距離的条件を満たした島などに分けた単位のこと。 2014年9月現在、341のエンティティーがあるが、日本はJA、JD1(小笠原諸島)、JD1(南鳥島)の3つのエンティティーにわかれる。
	エンドローディング	ローディングコイルをアンテナエレメントの根元に入れること。 ベースローディングともいう。 ケーブルの先端に入れるとトップローディング、中央に入れるとセンターローディングという。
	円偏波	指向性アンテナを地面と水平に設置すると「水平偏波」となり、垂直に設置すると「垂直偏波」となるが、大きさの同じ水平偏波と垂直偏波の位相差を持って合成すると「円偏波」となる。 円偏波は、衛星通信などで使用されるが、このとき使用されるのは、クロスハ木アンテナやヘリカルアンテナである。
お	オーディオ	耳で聞こえる周波数帯および信号のこと。 この周波数帯をAudio Frequency(AF)といい、この周波数帯、つまり音声信号を増幅する回路をオーディオアンプという。
	オートノッチ機能	SSBモード運用時、受信している帯域内のCW信号やRTTY信号との混信によるビート妨害となる周波数が変化しても、自動的に追従してトーン信号を取り除く機能のこと。
	オートパワーオフ機能	万一、無線機の電源を切り忘れても、一定時間以上キー操作がないとき、自動的に機器の電源をオフにする機能のこと。
	オートレピータ機能	430MHz(メガヘルツ)帯の439.00MHz(メガヘルツ)～440.00MHz(メガヘルツ)のアナログレピータ周波数に合わせるだけで、アナログレピータを起動するトーンエンコーダーとデュプレックスが自動的に設定され、簡単にアナログレピータにアクセスできるようになる機能のこと。
	オーバーシーQSO	海外のアマチュア無線局と交信すること。
	オーバーシーズ	海外のアマチュア無線局のこと。
	オービット	衛星の軌道のこと。 オービット番号は、衛星が赤道を通過するごとに1つずつ増えていく。
	オープン	コンディションが上昇し、これまで交信できなかったような遠方の局との交信ができるようになること。 たとえば、「0エリアがオープンしました。」のように使用する。
	オールコピー	交信しているときに、相手局のコールサイン、名前、運用場所、RSレポートなどすべての情報が確認できたという意味で使用する。
	オールバンド	アマチュア無線で使えるすべての周波数帯のこと。 1.9MHz(メガヘルツ)帯～28MHz(メガヘルツ)帯まで運用できれば、HF帯オールバンドといえる。

用語集

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
お（つづき）	オールモード	アマチュア無線で使えるすべての電波型式のこと。 CW、AM、SSB、FM、DV、RTTY、PSK、FAX、TVなどすべてをオールモードというが、CW、SSB、FM、AMでオールモードということもある。
	送り先レピータ	D-STAR運用時、ゾーン内通信では、相手局がいるエリアのD-STARレピータのこと。 ゾーン間通信（インターネットを利用した通信）では、自局ゾーン内のゲートウェイ局のこと。
	送り元レピータ	D-STAR運用時、自局が使用するD-STARレピータのこと。 アクセスレピータともいう。
	オシロスコープ	時間の経過と共に変化する電圧のレベルをリアルタイムで表示器等に表示して観測するための測定器。 直流から高周波まで測定できるので、自作派のハムであれば、1台持っていれば無線機の調整などがやりやすくなる。
	オナーロール	名誉会員のこと。 DXCC（DX Century Club）では、エンティティーリストのうち、未交信のエンティティーが9以下になると、その名誉をたたえて、「オナーロール」となる。
	おなじみ各局	アマチュア無線で、いつも交信している顔なじみの局を指す俗語。
	オフセット周波数	レピータ運用やデュプレックス運用時の送信周波数と受信周波数の差(シフト幅)のこと。
	オフバンド	(1)アマチュアバンド以外の周波数のこと。 (2)自局に許可された周波数帯以外で電波を送信する違法行為のこと。 　電波法によって厳しく罰せられ、場合によっては実刑が科せられることもある。
	オンエア	On the Airの略称。 一般的には、放送局が放送することをいうが、アマチュア無線では、電波を送信することをいう。
	お稼ぎください	交信が終わるときに交わされる挨拶。「頑張って多くの局と交信してください。」の意味。 たとえば、「本日は、ありがとうございました。セブンティースリー。 お稼ぎください」のように使用する。
	お声かけしました	本格的な交信をするのではなく、とりあえず挨拶だけにしようというときに交信の中で使用される言葉。 ある周波数の交信を聞いている（ワッチという）と、知り合いの無線局の声が聞こえてきたので、一言だけの挨拶をしようというときに、「とりあえずお声かけしました。」というように使用する。
	応答	相手局の呼び出しに応えること。
か	カーチャンク	使用したいレピータに対して、電波を送信し、レピータから返ってくる電波を受信してアクセスできるかを確認すること。 何度も繰り返すと、レピータの利用者に迷惑がかかるので、注意が必要である。
	ガイダンス機能	使い勝手を向上させるため、無線機や受信機のセットモードで選択している機能項目の説明が表示される機能のこと。
	カウンターポイズ	接地型アンテナで、良好なアースが取れないときに、アースの代用として、張るワイヤー（線）のこと。
	カブリ（被り）	混信状態のことをいう。 交信中の周波数に対して、他局から発射された同じ周波数や近接する周波数の交信が重なり合って聞こえる状態。
	過変調	音声レベルが変調の適正レベルを超えること。 音声が適正レベルを超えると、変調波が通常の帯域幅よりも広がり、隣接チャンネルに妨害を与えたり、相手局が受信したとき、音声がひずんだりする。
	回折	電波が山や大きなビルにぶつかったとき、反射せずに裏側に回り込む現象。 電波の波長が障害物の長さよりも短いときには反射することが多く、障害物の長さよりも波長が長くなると回折が起こりやすい。
	海外運用	海外に行って、アマチュア無線を運用すること。 あらかじめ運用する国の許可が必要で、無線局の免許を受けることで運用できる。
	各局	ほとんどの場合、「皆さん」という意味で使用することが多い。 何人かでラウンドQSOをしているとき、「各局。こちらはJH3・・・。JA3・・・どうぞ。」というように使用する。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
か（つづき）	簡易データ通信	D-STAR(DVモード)運用時、4800bpsの通信速度のうちデータフレームに割り当てられている1200bps分を用いてデータ通信すること。
	簡易バンドスコープ	オンエアしている（電波を出している）局や空き周波数を発見するため、受信周波数を中心に、あらかじめ設定したチューニングステップでサーチし、表示部にバンド状況を表示する機能のこと。
	感度抑圧	強電界内で、受信機の高周波（RF）増幅回路の増幅度が低下する現象のこと。 近所の局や自局が異なる周波数であっても、運用周波数の近くで電波を送信すると、受信感度が低下すること。
	管理サーバー	ゲートウェイを介してインターネット接続、またはほかのゾーンのレピータへ接続する際に必要な情報を管理するサーバー。 また、登録時に貸与されるD-STAR専用のプライベートIPを自局のパソコンやネットワークカメラなどに設定することで、各種の通信ができる。
き	キーイルミネーション	操作するキー自身に照明が付いていて、モービル運用時の暗い車内やアウトドアの夜間運用時でのキー操作を確実にするもの。
	キーイングスピード	エレクトロニックキーヤー使用時、キーを押したときに送信されるモールス符号のスピードのこと。
	キーロック	設定した周波数や運用状態がダイヤル操作やスイッチ（キー）操作などで間違って変更できないようにするもの。
	寄生発振	大出力のピーク時など特殊な条件下で、発振器や増幅回路で目的としない周波数の発振現象が起こること。
	基台	モービルアンテナの取り付け金具のこと。 アルミダイキャストやステンレスでできており、車体屋根に付けるルーフサイド型、トランクに付けるトランクリッド型などがある。
	基本波	送信電波のこと。 電波障害対策の際など、その原因が送信電波（基本波）によるものか高調波（スプリアス）によるものかで、対策が大きく異なる場合がある。
	技適証明	正式には、技術基準適合証明（工事設計認証）という。 総務省の定めた技術基準に合致した機器であることを証明するものである。 メーカー製の無線機は、ほとんど技適証明を受けており、免許申請時には申請する無線機の工事設計認証番号を記入するだけでよい。
	逆Vアンテナ	ダイポールアンテナの給電部（同軸ケーブルが接続される部分）をマスト等の支柱で高く持ち上げたアンテナのこと。 V字が逆を向いた形となるため、逆Vアンテナと呼ばれる。
	キャビティー	キャビティー共振器の略称。 中央部分がつながった中空構造の部品で、マイクロ波帯で使用される。 形状や長さ、大きさなどで共振周波数が決まるバンドパスフィルターの一種。
	キャリア	搬送波ともいい、音声信号などを重畳して運ぶ電波のこと。 電波は、発振器で発生させた高周波電流に、音声信号などで変調をかけることによって作られる。 キャリアは、音声信号などを搬送する（運ぶ）ための波で、つまり電波そのものである。
	キャリア サプレッション	SSBモードの電波は、搬送波（キャリア）を抑圧（サプレッション）して、残った両側波帯の上（USB）、または下（LSB）いずれか一方を取り出したもの。 このキャリアサプレッションが悪いと、キャリアもれの電波となり、効率は悪く、質の悪いSSB電波となる。
	キャリアセンス	他者が通信中に自分が通信を開始すると、他者の通信を妨害する場合がある。 これらの妨害を防止するために、他者が通信中は、その信号を検出して送信できないように制御する機能のこと。
	キャリアポイント	SSBモードの送信機や受信機で、音声信号の周波数に対して、抑圧された搬送波（キャリア）があるべき周波数のこと。
	キャリブレーション	「キャリブレを取る」ともいい、受信機などの表示周波数と実際の受信する周波数を正しく合わせること。 受信機の表示周波数を基準発振器などで正確な周波数にキャリブレーションを取って調整する。
	給電点	高周波電力をアンテナに供給する部分。 アンテナの給電点は、同軸ケーブルとアンテナを接続するコネクター部分である。

用語集

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
き(つづき)	キュビカル クワッドアンテナ	四角形のループアンテナのこと。 2つのエレメント(素子)の正方形ループアンテナの形状が四角形の立方体に見えるので、こう呼ばれるようになった。
	筐体(きょうたい)	機器の外側をおおうケースのこと。
	局発	スーパーヘテロダイン方式の無線機に搭載されている局部発振回路の略称。
	局免	無線局免許状のこと。 この免許状には、コールサイン(識別符号)や運用可能なバンド(周波数)、モード(電波の型式)が記載されている。 アマチュア無線を運用するには、「局免」のほか、「無線従事者免許証(従免という)」が必要である。
く	クイック スプリット機能	スプリット機能が動作すると同時に、表示されていないVFO(VFO AまたはVFO B)の運用モードと周波数も同時に設定できる機能のこと。
	クラブコール	クラブ局(社団局)のコールサインのこと。 エリア番号につづく3文字(サフィックスという)の最初が、日本では、通常「Y」か「Z」になるように割り当てられている。
	クラブ局	社団局ともいい、アマチュア無線家が集まって作った無線局。
	クラリファイヤー	リット(RIT:Receiver Incremental Tuning)ともいい、SSBモードの無線機の局部発振周波数をわずかに変化させて、送信周波数に関係なく、受信周波数だけを変化させる受信周波数の微調整装置のこと。
	クランクアップタワー	もともと、手動でクランクを使用してワイヤーを巻き上げ、上げ下げするタワーのこと。 最近では、モーターを使ってアンテナの高さを調整する電動式のものがほとんどである。
	グランドウェーブ	地表波のこと。大地に沿って伝わる電波をこう呼ぶ。
	グランドプレーン アンテナ	1/4λ(ラムダと読む。波長のこと)、5/8λ垂直エレメントとアースの役目をする1/4λ長のラジアルを組み合わせたアンテナのこと。 グランドプレーンの頭文字を取って、GPアンテナという。
	グリッドロケーター	地球を格子状に区切ってその位置を示したもので、地球上での緯度と経度より算出する6桁の英数字のこと。 略称は、GL(Grid Locator)。世界共通のシステムで、無線通信で無線局の位置を示す目的などに使われている。
	クローニング ソフトウェア	無線機のメモリー周波数やメモリーネーム、デュプレックスのON/OFF、各種トーン周波数の設定などをパソコンで効率よく編集したり、もう一台の無線機にそっくりそのままコピーしたりするソフトウェアのこと。
	クロスバンド	通常は、送信バンドと受信バンドを同一バンドで運用するが、送信するバンドと受信するバンドを別のバンドを使って交信すること。 たとえば、7MHz(メガヘルツ)帯の周波数で送信し、14MHz(メガヘルツ)帯の周波数で受信する変則的な交信方法である。
	クロス八木アンテナ	2本の同じ八木アンテナを90度ずらして、十字に1本のブームに取り付けたアンテナのこと。 このアンテナは、垂直偏波、水平偏波、円偏波にも対応する。
	空線キャンセラー機能	鉄道無線で、通信をしていない周波数で聞こえる2280Hz(ヘルツ)の空線信号を検出し、ダイヤル操作時には受信音をミュートし、スキャン中にはスキャンを再スタートする機能のこと。
	空中線	アンテナのこと。 アマチュア無線の運用が許可された当初は、短波(HF)帯の交信が主流であり、当時のアンテナは、ワイヤーを張ったダイポールアンテナだったので、空中線と呼ばれるようになった。
	空中線電力	送信機からアンテナに供給される高周波電力。通常は、送信機から出力される電力。
	空電	雷の放電により発生する雑音電波や雲と大地のあいだで発生する電気を帯びた粒子の放電によって発生する雑音電波のこと。 「ジー」とか「ザー」というような雑音が混じって、受信の障害になる。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
け	ゲートウェイ	D-STAR運用時、インターネットに接続しているレピータ（Gateway）局。 ゲートウェイ経由で交信する場合は、ゲートウェイ局のコールサインの8文字目にゲートウェイ局を表す識別符号「G」を入力する。（入力例：JP3YHH G）
	ゲート（Gate）越え	D-STAR運用時、ゲートウェイを使用して自局と異なるエリアの局に呼びかける方法。
	ゲストオペレーター	訪問者（ゲスト）が「無線従事者免許証」を持っていれば、訪問先のアマチュア局（ホスト局）の運用できる制度。 ゲストは、自分の資格の範囲内で、ホスト局の免許の範囲内で運用しなければならない。 この制度は、平成9年2月24日付で施行された。
	ゲタ	ブースターやリニアアンプのことを表す俗語。 無線機本体の送信出力を上げるために使用するブースターやリニアアンプのことをいう。
	現着	モービル局が目的地に到着したことを表す俗語。
こ	コイル	導線をらせん状に巻いた部品のこと。 コイルの中心にコアと呼ばれるインダクタンスが調整できる磁性体を挿入したものとコアのない空芯コイルがある。 コイルはインダクターとも呼ばれ、略号はL（エル）である。
	交信周波数	交信している周波数のこと。SSBやCWモードでは、使用中の周波数そのものだが、FMモードでは、呼び出しに使用するメインチャンネルに対して、交信に使用するサブチャンネルをこう呼ぶ。
	交流	電圧の大きさや電流の方向が一定の周期で規則的に変化する方式のこと。
	高調波	交流信号は基本の周波数成分のほかに、その整数倍の周波数成分を含んでいる、これを高調波という。 無線機では、基本波以外の成分が発射されると妨害波になるので、この発射を抑えるためにフィルター回路を組み込んでいる。
	ゴーキュウ	RSレポート（シグナルレポート）の最良の状態を表す「59（ファイブナイン）」を日本語読みしたもの。
	コードスケルチ	静かな待ち受け受信をできるようにするため、DTMFコードを含む信号が入感したときだけスケルチが開いて、信号が聞こえるようにするもの。 トーンスケルチと似ているが、一度スケルチが開くと設定している局以外でも受信するのが大きな違い。 この機能を使用すると同報呼び出し、個別呼び出し、不在受信履歴など多彩な使いかたができる。
	コーリニアアンテナ	VHF帯/UHF帯用に使用されるアンテナで、高利得を得るためにエレメント（素子）を、同一線上（コーリニア）に複数段直列に配したもの。
	コールサイン	JA3○○○（英字3文字）など各地方総合通信局から割り当てられたアマチュア無線局の識別符号。 割り当てられたコールサインは世界中でただ1つ。同じものはない。 日本のアマチュア無線局のコールサインは、英数字3文字と英字5文字以内で構成され、前の部分を「プリフィックス」、うしろの部分を「サフィックス」という。
	コールチャンネル	各バンドで決められた呼出周波数を意味し、メインチャンネルとも呼ばれる。
	コールバック	呼び出しをした相手局から応答があること、または応答すること。
	コールブック	アマチュア無線局のコールサインが掲載された局名録のこと。 国内では、JARL（日本アマチュア無線連盟）から発行されるJARLの会員だけが掲載されたアマチュア無線局名録のこと。
	固定局	自宅などの動かないところ（常置場所または設置場所）で運用される無線局のこと。
	コマーシャル	交信しているときに使用される「仕事」のことを指す俗語。 仕事場を「コマーシャルベース」ということもある。
	コメント入力機能	メモリーに記憶させているすべてのチャンネルに、どんな内容を記憶させているかをアルファベット、数字、カナ、記号でわかりやすくコメントを付けるための入力機能のこと。 メモリーチャンネルが多くなってくると必須の機能である。
	コモンモードノイズ	プラス、マイナスの一対の電線間ではなく、これらの線と大地（アース）とのあいだに発生した電位差によって発生する雑音のこと。
	コモンモード フィルター	コモンモードノイズを除去するためのフィルター。 一対の電線をコアに巻き付けるとフィルターになる。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
こ(つづき)	コリンズ	アマチュア無線機器を世界のアマチュア無線家に供給した米国の無線機器メーカー。 歴史に残る無線機の名機を数多く市場に供給し、コリンズ(Collins)＝無線機といった無線機の代名詞として定着したブランドで、世界中のアマチュア無線家を魅了した。 日本でも多くの愛好者がいた。
	混信	アマチュア無線では、自分たちが使用している周波数に、それ以外の交信が聞こえる状態。
	コンディション	電波の伝わる状態。 短波(HF)帯では、電離層の状態が悪いと電波が遠くまで届かないことがあり、VHF帯/UHF帯のDX(遠距離交信)では、天候状態によっても左右される。
	コンテスター	コンテストに参加するアマチュア無線家のこと。
	コンテスト	決められた一定期間、規則にしたがって交信し、その成果を競うもの。 何局と交信したか、どのような局と交信したかなどによって得点が異なり、順位が決定される。 コンテストで使用されるバンドは、混み合っているので、すぐにわかる。
	コンテストナンバー	コンテストの交信中に交わされる規定された「番号」のこと。 コンテストごとに規定されるため、アマチュア無線の専門誌やJARLニュースなどによって、参加する前に確認する必要がある。
	コンデンサー	電荷を蓄積できる部品のこと。キャパシターともいう。 2枚の電極間に電圧を加えると、そのあいだに電荷が蓄積される。 蓄積される電荷の量は、電極の表面積、電極の間隔に加え、電極間の誘電体で決まるが、これを利用したのがコンデンサーである。 また、コンデンサーは、交流だけ通過させ、直流は遮断する特性も持っている。
	コントローラー	アンテナを回転させるローテーター、無線機などと有線や無線で接続して、操作するための操作盤のこと。
	コンピューターログ	ログは交信を記録する業務日誌のこと。 手書きのログが一般的だったが、コンピューターが普及しだした頃から、パソコンでログを管理する人が増えた。 交信する回数が多い人には、前回の交信記録が即時に検索できるので特に便利。 「Turbo HAMLOG」などのソフトウェアが普及している。
	コンプレッサー	スピーチプロセッサー(speech processor)、またはオーディオコンプレッサー(audio compressor)の総称。 強弱の激しい音声入力の信号変化を電気的に平均化することにより、高周波出力の低下を抑えるための回路。
	混変調ひずみ	受信回路に強力な近接した1つ以上の電波が入力されたとき、目的の電波がその強力な電波で振幅変調(AM)されたとき生じるひずみのこと。 たとえば、ある周波数のAM放送などを受信しているとき、その近くで強力な電波が発射されると、受信している放送とは異なる周波数の音声などが聞こえてくるなどの現象になる。
さ	サードパーティー	他社の製造、販売する製品の規格に合わせて、関連製品を開発、製造するメーカーのこと。
	サービス	特別な目的を持ってアマチュア無線を運用すること。 たとえば、非常にまれにしか電波が出ない珍しい市に対してアマチュア無線を運用し、JCC(Japan Century Cities)関連のアワード完成を目指している人に交信地域を増やしてもらうために電波を出すことなど。
	サイクル○	○には数字が入る。 電離層の状態は、太陽の活動によって、1日単位、1年単位でも変化するが、約11年周期で活発になったり、衰退したりを繰り返している。このことをサイクルといい、2011年頃の太陽黒点の極大期をサイクル24という。 太陽の活動が活発かどうかは、黒点指数(SSN)が100を超えるかどうかで判断する。
	サイドトーン	CWモード送信時の電信符号モニター音のこと。 送信機に設けられた低周波発振器を電鍵操作によって作動させることによって、送信するモールス符号を可聴音としてモニターできる。
	サイドバンド	振幅変調(AM)で作られる搬送波以外の上側、または下側の被変調波成分(側波帯)のこと。 SSB(Single Side Band)の通称。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
さ(つづき)	サイドの切れ	隣接信号は、受信回路に設けられた帯域フィルターによって除去するが、そのフィルターのスカート特性(除去特性の曲線がスカート状になるので、このように呼ばれる。)の形を感覚的に表す言葉のこと。 フィルターのスカート特性がシャープ(急峻)なときは「サイドの切れがよい」といい、ブロード(なだらか)なときは「サイドの切れが悪い」という。
	サイレントキー	ハム(アマチュア無線家)が亡くなったときに使用される、尊敬を込めた言葉。 CWで使用するキー(電鍵)が静かになってしまったというところに由来する。
	再免許申請	アマチュア無線局の有効期限5年を経過する前に、ふたたび局免許を受けるときにする申請手続きのこと。 免許有効期間満了の1年前から1ヵ月前までのあいだに、申請書類が各地方総合通信局に到着しなくてはならない。
	再割り当て	免許期限が切れて、割り当てられていたコールサインに「空き」が出た場合、あらためてそのコールサインを割り当てること。 1997年4月からは、コールサインを失効した場合でも、再割り当て申請をした時点で、同一コールサインが空いていれば、再割り当てをしてもらえるようになった。
	サテライト通信	アマチュア無線衛星を使用する衛星通信、宇宙通信の総称。
	サテライト通信機能	アマチュア無線衛星を使用する宇宙通信、衛星通信をするための各種機能群のこと。 受信側をメインバンドに、送信側をサブバンドに設定。 ノーマル/リバーストラッキング機能、送信出力連続可変機能、ドップラーシフト調整機能などが含まれる。
	サテライトメモリー	サテライト(衛星)通信に必要なダウンリンクやアップリンクの周波数、運用モードなどを記憶できるメモリーチャンネルのこと。
	サブチャンネル	50/144/430/1200MHz(メガヘルツ)帯などの周波数帯に設けられているメインチャンネル(呼出周波数)以外で、実際に交信に使用するチャンネルのこと。
	サフィックス	日本のアマチュア無線局のコールサインは、前の部分の「プリフックス」と後ろの部分の「サフィックス」で構成されている。プリフィックスは、英数字3文字、サフィックスは、英数字5文字以内となっている。 たとえば、JG3YMKの「JG3」がプリフィックス、「YMK」がサフィックス。
	サマリー	summary sheetの略称。 コンテストに参加した人がコンテストの主催者に提出する書類で、集計表のこと。
	三端子レギュレーター	電圧を安定させる定電圧電源回路を入力、グランド(アース)、出力の3つの端子だけで使えるようにしたIC(素子)のこと。
し	シールド	電気的、磁気的に回路を分離するために金属でおおうこと。
	シェープファクター	フィルターなどの遮断特性波形のこと。 6dB(デシベル)帯域幅と60dB(デシベル)帯域幅の比が1に近ければ近いほど、遮断特性が急峻となり、帯域外の信号が鋭くカットされる。 遮断特性の特性図から「スカート特性」と呼ばれることもある。
	ジオイド高	地球の大きさや形を決めるときに基準になる面(平均海面と同じ高さで地球表面をおおった面)をジオイドという。 GPSでは、楕円体高しか求められないため、楕円体を基準にした高さを考慮しなければ標高を算出できない。
	識別符号	D-STARでは、1つのコールサインに複数のD-STAR機が無線設備として設置されることがあるため、A～Fまで最大6台までの無線端末を割り振りできるようにしてある。JG3YMK Aのように、コールサインの8文字目に「A」～「F」を付けて、機器を識別させることが目的。 なお、JG3○○のように2文字コールの場合は、JG3○○ Aのように6文字目と7文字目に空白(スペース)、8文字目に「A」～「F」を付けて指定する。 ただし、1つの無線端末局の場合は、識別符号を省略できる。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
し(つづき)	シグナルレポート	RSレポートともいい、交信している相手の受信状態をめいりょう度(Readability)と信号強度(Signal strength) でレポートすること。 「R」(了解度)は1～5の5段階、「S」(信号強度)は1～9の9段階で、どちらも聞いた感じで表現する。 「RS59(ファイブナイン)」などと表現する。 FMモードの交信で、「メリット○(○には1～5の数字が入る)」といわれるが、これとは別もの。 CWモードでは、これに音調(Tone)が加わり、「RST599」のようにレポートする。 なお、信号強度は、無線機のSメーターの読みを目安にレポートされることもある。 RS59+20dBのようにSメーターの指示がS9を超える場合は、何dBオーバーかを付加してレポートすることがある。
	磁気あらし	太陽活動に異常状態が発生し、電離層が乱れる現象。 「磁気あらし」が発生すると、短波(HF)帯の通信状態が数時間～数日にわたって悪化することがある。
	指向性	アンテナから強く電波が出る方向、または強く受かる方向のこと。 一定の方向に対して強い電波を送受信できるアンテナを「指向性アンテナ」といい、八木アンテナ、パラボラアンテナなどが含まれる。 また、360度全方向に対して同じように送受信できるアンテナを「無指向性アンテナ」といい、グランドプレーンアンテナなどがこれに該当する。
	シャック	無線機を設置してアマチュア無線を運用する場所。無線室のこと。
	ジャミング	意図して通信を妨害する電波のこと。 一般的に、雑音や音楽などによって放送波を妨害する電波のことであるが、無変調波(音声が含まれない電波)を送信して、ほかの人の通信を妨害することも含まれる。
	ジャンク	「ガラクタ」、「くず」の意味だが、無線機器や部品の中古品や壊れたものを指す場合もある。
	シャント抵抗	電流を検出するための抵抗器のことで、日本語では、分流器のこと。 電流検出用の抵抗器のことをシャント抵抗という。 電流を測定する場合、電流計と並列に接続するシャント抵抗を適切な値にすると、電流計そのものが持つ測定範囲以上の電流測定ができるようになる。
	ジャンパー	「ジャンプするもの」ということから、はなれた回路を線でつなぐこと。 この「線」のことをジャンパー線という。
	周波数	電気振動(電磁波や交流電流)が1秒間に繰り返される回数のこと。単位はHz(ヘルツ)である。 1Hz(ヘルツ)の1,000倍が1kHz(キロヘルツ)、1kHz(キロヘルツ)の1,000倍が1MHz(メガヘルツ)、1MHz(メガヘルツ)の1,000倍が1GHz(ギガヘルツ)である。
	周波数カウンター	周波数を計測するための測定器。
	周波数シフト機能	SSBモードで運用中、聞こえてきたCW信号の相手局と交信するためにCWモードに切り替えたとき、目的信号を見失わないように、キャリアポイントを動かさずに表示周波数(送信周波数)を相手局の周波数にCWピッチ分シフトして、目的信号が聞こえるようにする機能のこと。 周波数シフト機能を使用しない場合、CWモードに切り替えたあと、表示周波数を動かして目的信号を聞く必要がある。
	周波数ロック機能	受信周波数を設定後、不用意にチューニングツマミやキーに触れても、受信周波数が変わらないようにする機能のこと。
	周波数安定度	送信機で設定した周波数が温度変化などにより、ずれていく度合い。 水晶発振子や発振回路の安定度によって決まる。 無線機の周波数安定度は、ppm(100万分の1)単位で表示される。
	周波数確度	送信機で設定した周波数と実際の周波数がずれている度合い。
	周波数偏移	FM変調では周波数を変化させることで、音声信号などの情報を送信するが、この変化の幅。
	終段	電力増幅回路の中で、最後に電力を増幅する部分のこと。 送信機の電力増幅部のパワーモジュール、トランジスター、真空管などのこと。
	従免	国家試験に合格すると交付される「無線従事者免許証」のこと。 終身免許で、更新手続きなどは必要ない。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
し(つづき)	受信感度	電波を受信する能力。 受信感度が高いと弱い電波まで受信でき、受信感度が低いと強い電波しか受信できない。 アマチュア無線機の場合、日本アマチュア無線機器工業会(JAIA)で決められた測定法で表示する。 受信感度は、SSB/CW/AMモードでは10dB S/N、FM/WFMモードでは12dB SINADで表示する。
	受信ブースター	受信感度をアップさせるために、アンテナで受信した信号をこの受信ブースターを使用して、いったん増幅し、その増幅した受信信号を無線機に供給する外部増幅器のこと。
	ショートバー	アンテナのインピーダンスを調整するために、エレメント(素子)の給電部に入れる短いエレメントのこと。
	ショートパス	海外と交信する場合の相手局との最も近い電波伝搬経路のこと。 これに対して、短波帯の交信では、電離層と地上とのあいだを反射しながら電波が伝わり、逆方向の、地球を反対方向に回る経路で伝わることもあるが、これを「ロングパス」という。
	小電力局	いかに小さい出力で、どこまで遠くの局と交信できるかに挑戦している局。 小電力による通信を「QRP」ということもあり、小電力局のことを「QRP局」ということもある。
	伸縮ポール	移動運用などで、アンテナを高く上げるときに使用するアルミ製の伸縮自在ポール。 長いものでは、伸ばすと数m程度になるものもある。 伸縮ポールを使うときには、安定した基台が必要になり、車の重さで押さえるタイヤベースなどがある。
	シンセサイザー	発振や分周、合成などの手法により希望する周波数成分を発生させる回路のこと。
	シンプレックス	単信方式ともいい、同じ周波数を使用して、送受信を切り替えて通信する方式のこと。 自局が送信しているときは相手局の受信はできない。
す	スイッチング電源	AC電源の周波数(50/60Hz(ヘルツ))を直流に変換してから、半導体素子で回路を高速でON/OFFさせ、高い周波数に変換してからトランスの1次側に入力し、2次側の出力を整流･平滑することにより直流を得るようにした電源。 2次側の状態を監視しながら、半導体素子のON/OFFのタイミングや、ONさせる時間幅を制御することにより、出力を安定させている。 効率が高く、小型化できるが、高速で回路をON/OFFさせるため雑音が発生しやすい。
	水晶発振子	水晶の圧電効果を利用して、高い周波数精度の発振させるために使用される受動素子の1つ。 水晶発振子を使用した無線機の基準周波数用の発振回路としては、「TCXO(Temperature-compensated Crystal Oscillatorの略称)」、「OCXO(Oven-controlled Crystal Oscillatorの略称)」がある。
	垂直偏波	電界の振動方向が地面に対して垂直方向になる電波のこと。 日本の場合、144MHz(メガヘルツ)帯以上では垂直偏波で運用することが多く、八木アンテナなどが垂直方向に設置されている。 アマチュア無線に限らず、VHF帯/UHF帯では垂直偏波が主流になっている。
	水平偏波	電界の振動方向が地面に対して水平方向の電波のこと。 日本の場合、50MHz(メガヘルツ)以下では水平偏波で運用することが多く、固定局のアンテナは水平方向に設置される。 しかし、HFモービル局などでは垂直GP(グランドプレーン)アンテナが使われ、垂直偏波となる。 なお、商用テレビでは、水平偏波が使用されている。
	スーパーヘテロダイン方式	目的とする高周波信号(RF信号)を一定の周波数(IF信号)に変換し、選択度を高める受信機の方式のこと。
	スカート特性	帯域フィルターの選択度特性のこと。シェープファクターともいう。 除去特性の曲線がスカート状になるので、このように呼ばれる。
	スキップ	(1)おもに電離層による反射波を使用する短波(HF)帯で発生する現象。 送信された直接波は、障害物によって減衰し、たとえば、100km先では極端に電波が弱いか、受信できなくなるが、電離層に到達し、反射された電波は、1000km先まで届き、受信できるという現象が起きる。 これを電波のスキップ現象といい、電波の受信できない場所をスキップゾーン(不感地帯)という。 (2)必要のない周波数、またはメモリーチャンネルをスキャンの対象からはずすこと。 (3)必要のないD-STARレピータをDRスキャンの対象からはずすこと。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
す(つづき)	スキャッター	電波の散乱現象のこと。 電離層内の電子密度が一様でないとき、大気層の乱れの激しい部分にぶつかったときなど、電波が予期しない方向に反射され、遠距離へ飛んでいく現象が発生する。これをスキャッターという。
	スキャン機能	スキャン機能には、指定した周波数範囲をサーチするプログラムスキャン、バンドの端から端までくまなくサーチするフルスキャン、すべてのメモリーをサーチするメモリースキャン、指定したメモリーだけをサーチするスキップスキャン、一定の時間ごとにメモリーをチェックするプライオリティースキャン、空きチャンネルをサーチするエンプティースキャン、受信電波に重畳されているトーン周波数をサーチするトーンスキャンなどがある。
	スケジュールQSO	あらかじめ、時間、運用周波数、運用モード(電波型式)などを申し合わせてから交信すること。
	スケルチ	信号を受信していないときに、聞こえる雑音(ノイズ)を遮断し、無音状態にするための機能。 無線機には、「SQL」と表示。 右方向に回しすぎるとスケルチレベルが深くなり、弱い信号が受信できなくなる。
	スケルチ アッテネーター	ツマミの中央(12時の位置)より左側では、スケルチ機能として動作し、中央より右側に回すことにより、アッテネーター(減衰器)として動作する機能のこと。 アッテネーターは、近接の強力な信号による感度抑圧を減少させるのに効果的である。 また、アッテネーター機能をOFFにすることもできる。
	スケルチディレイ機能	信号強度の変化に応じて、スケルチが閉じる時間を自動的に変更される機能のこと。 スケルチが閉じるまでの遅延時間をlong、またはshortに切り替えできる。
	スタックアンテナ	アンテナのゲイン(利得)や指向性を改善するため、同形状、同特性のアンテナを2段(列)以上数段(列)積み重ねたアンテナのこと。 スタックのしかたによって、2列2段とか、4列4段という。
	スタンディングバイ	「待機します。」という通信用語。
	スタンドマイク	固定台付きのマイクロホン。 机上での運用に多く使われるマイクロホンで、台座の部分に送信スイッチが設けられているものが多い。
	スタンバイ	「待機してください。」、「待ってください。」という通信用語。
	スタンバイスイッチ	送信と受信の切り替えスイッチのこと。
	ステップ	周波数の間隔のこと。また、ダイヤルを回したときに周波数が変化する変化量をいう。
	ストレーキャパシティー	無線機の配線や部品のあいだに生じる静電容量のこと。 浮遊容量、ストレー容量、またはストレーCともいう。
	ストローク	間隔のこと。電鍵のキーアップ、キーダウンの動きの量をキーストロークという。
	スピーカーマイク	スピーカー機能を兼ね備えたマイクロホンのこと。 ハンディー機を腰のベルトに取り付けたときに、スピーカーマイクを接続することで、送受信が円滑になるので便利である。
	スピーチ コンプレッサー	音声信号を圧縮してトークパワーをアップする機能のこと。 AF部(音声増幅部)で音声圧縮回路を動作させていたこともあったので、AFスピーチコンプレッサーと呼ばれていたが、RFタイプのコンプレッサー回路も開発された。 RFスピーチコンプレッサーは平均電力がアップするため、AFタイプに比べて、よりパイルアップやDX(遠距離)通信時に威力を発揮するようになった。 DSPによるデジタルRFスピーチコンプレッサーが開発されたことで、コンプレッションレベル(圧縮レベル)を高く設定しても発生するひずみを小さくでき、相手局の了解度を高められる。 しかも、音声処理の階調が原音に極めて近く、すべてのコンプレッションレベルにおいて最適な音質を実現している。
	スプラッター	送信機の終段(PA:出力段)がひずんで発生する不要電波の1つ。 マイクゲインの上げすぎや、外部リニアアンプへの過入力などによって発生する。
	スプリアス	不要輻射のこと。 本来、電波が出ない部分(無線機やケーブル)からの輻射、無線機器から電波とともに発射される不要な高調波、低調波、イメージ発射など。
	スプリット運用	同一周波数帯において、送信と受信を別々の周波数で運用すること。 また、DXペディション局など、パイルアップになるような場合は、交信の効率化を図るため、DXペディション局が送信周波数と異なった受信周波数で交信する場合もある。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
す(つづき)	スプリットロック機能	ダイヤルロック中でも受信周波数を固定したまま、送信周波数だけを動かせるようにした当社製無線機に搭載の機能。
	スペアナ	スペクトラムアナライザーの略称。 一定の周波数範囲内に、どのような周波数の、どのような強さの電波があるかを目で確認できる測定器。 無線機には、スペクトラムスコープと呼ばれる同様の機能が搭載されている機種もある。
	スペクトラムスコープ	運用する周波数を中心に、一定の範囲内で信号が出ていないかを確認するときに、視覚的に確認できるようにした機能のこと。 監視している範囲内で新たに運用をはじめた局をすばやく発見するスプリット運用で、パイルアップ(混雑状態)になっているときのすきまになっている周波数やコールバック周波数を確認するといった高度な運用ができるようになる。
	スポット測定	無線機に接続しているアンテナのSWRを、SWRメーターで測定する方法。 アンテナ設置時や定期点検などで、アンテナのSWRを調整するときに有効な測定方法である。
	スポラディックE層	Es層、またはEスポともいう。 狭い範囲で電子密度が突発的に高まってできる電離層のこと。 VHF帯の電波は、通常、電離層で反射されることなく通過してしまうが、突発的に発生するスポラディックE層によって反射され、通常は通信できないような遠距離の無線局と交信できることがある。 スポラディックE層は、数分から数時間の比較的短い時間、夏季の昼間に突発的に発生することが多い。
	スミスチャート	アンテナと無線機側のインピーダンスを合わせる(整合を取る)場合に、無線機とアンテナのあいだの整合状態を見たり、整合器に使用するコンデンサーやコイルの値を、計算するために使用する図表のこと。
	スリーブアンテナ	垂直無指向性アンテナで、おもにVHF帯/UHF帯で使用されるアンテナのこと。 構造は、給電点の上部に同軸ケーブルの芯線につながれた1/4λ(ラムダと読む。波長のこと。)の長さのエレメント(素子)があり、下部に外側の導体を1/4λ(ラムダ)の長さに折り返した筒状のエレメントを持っている。
	スルーホール	多層プリント基板の部品取り付け用穴にも銅箔加工が施され、表面と裏面が銅箔でつながった穴のこと。
	スローパー	1/4λ(ラムダと読む。波長のこと。)のエレメントを用いたロングワイヤーアンテナの一種。アンテナエレメントの一端をアンテナタワーの上部に取り付け、一端はその地点から斜めに張る。タワーの上部に取り付けたエレメント部分から同軸ケーブルで給電する。そのとき、同軸ケーブルのシールド線は、タワーに直結する。 波長の長い、周波数の低い短波(HF)帯バンドで使用される。
せ	整流	交流を直流に変換すること。
	セカンド	交信時に、会話の中で、「子供」のことを指すアマチュア無線用語。 「ジュニア」も同じような意味で使われる。
	セカンドリグ	2台目の無線機(装置)。
	セカンドQSO	2度目のQSO。
	接地	アース、グランドのこと。地面に銅の棒や銅板を埋めて、固定局用のアースとして効率を高めたりする。
	接地型アンテナ	アンテナのアース側を接地(アースに落とす)して使用するアンテナのこと。 垂直型アンテナ、ロングワイヤーアンテナがある。
	セットモード	数多くの機能が搭載されている無線機で、通常、運用中にあまり使用しない各種機能は表示しないようにするなどの設定がまとめてできるモード。 目で確認しながら操作できるガイダンス機能が付いている機種もある。
	ゼネラル カバレッジ受信機能	ゼネカバ受信機能ともいい、アマチュア無線に許可された周波数範囲だけではなく、中波以下の周波数～30MHz(メガヘルツ)付近までの周波数がすべて受信できる受信機能のこと。 ほとんどのHFトランシーバーには、この機能が内蔵されている。
	セパレート	送信機と受信機が別々の装置となっている無線機。

用語集

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
せ(つづき)	セブンティースリー	「73」と表記。男性の無線局に対して、交信を終わるとき、「さようなら」の意味で使用されるコード。もともと、電信(モールス符号による通信)で使用されていた「Best regards」を意味するコードがそのまま電話(音声による通信)で使用されている。
	セミブレークイン	CWモードで運用時、電鍵を押すと、自動的に送信状態になり、電鍵をはなしても、一定時間送信状態を保持したあと、受信状態に切り替わる機能のこと。 操作がないと認識されるまでの時間を当社製品では、ブレークインディレイタイムという。
	セラミック	磁器のこと。 熱に強く、極めてかたい素材なので、パワーモジュールのベース素材として使用される。 また、絶縁性と加工性に優れているため、コンデンサー、振動子、フィルターなどにも使用される。
	セラミックフィルター	共振素子に磁器(セラミック)を使用したフィルター。
	ゼロイン	相手の送信周波数に受信周波数をピッタリと合わせること。 RTTYモードでは、送信周波数にピッタリと合わせるのが微妙でむずかしいため、ゼロイン状態を視覚的に表示するインジケーターを装備した無線機もある。
	ゼロビート	2つの周波数が同じ周波数となって、2つの周波数の差によって発生するビート音がなくなること。
	全市全郡コンテスト	日本の全市、全郡を対象にしたJARL(日本アマチュア無線連盟)主催で開催されるコンテストのこと。 RST符号による相手局のシグナルレポート、自局の運用場所を示す市、郡、または区のナンバー、空中線電力を表すアルファベット1文字を交換し、得点を競う。
	センターローディングアンテナ	垂直アンテナの中央部にローディングコイルを挿入し、電気的にアンテナのエレメント(素子)長を延長し、共振周波数を下げるようにしたアンテナのこと。 物理的にエレメント長が短くても、低い周波数に共振する。
	センタータップ	コイルや抵抗器などに設けられた中間取り出し端子。
	センターメーター	FMモードの受信機で、受信している周波数が正確に合っていることを確認するためのメーター。 同調しているとき、メーターの指針は、中心を示す。
	全波整流	交流を直流に変換することを整流といい、交流電流の正・負両波とも整流し、電気の流れの向きを同じにすることを全波整流という。 これに対して、正の部分だけ整流することを半波整流という。
	占有周波数帯域幅	電波を発射するとき、「周波数は○○MHz(メガヘルツ)です。」というが、実際には、その周波数を中心に上下数kHz(キロヘルツ)の成分があり、この幅を占有周波数帯域幅という。 これが広すぎると、ほかの無線局に迷惑をかけることになるため、変調方式などによって、電波法で決められている。
そ	相互運用協定	自国でアマチュア無線の運用を認める取り決めで、他国の政府からアマチュア無線免許を持っている人に発行される。 日本と相互運用協定を結んでいるのは、アメリカ、ドイツ、フランス、カナダ、韓国などである。
	増幅	信号の電気的な変化量を大きくすること。小信号を大信号に変化させること。
	ソース	FET(電界効果トランジスター)の電極の一部。トランジスターのエミッターに相当。
	ゾーン	世界を地域ごとに区分して、番号を付けたもの。CQゾーンとITUゾーンの2種類ある。 日本の場合は、JD1を除きCQゾーンは「25」、ITUゾーンは「45」となる。 一般的には、CQゾーンが多く使用される。 D-STAR運用では、アシスト局で複数のD-STARレピータが接続された範囲のこと。
	ソリッドステートデバイス	半導体素子ともいい、トランジスター、ダイオードなどがある。
	ソルダーウィック	銅の細い線を網目上に編んでフラックスをしみ込ませたもので、基板にハンダ付けされた部分のハンダを取り除くときに使用する。
た	ターミナルユニット	無線機器の外部に取り付ける機器のこと。 SSTV(スロースキャンテレビ)用のスキャンコンバーターやRBBSのためのTNCなど。
	ターンバックル	アンテナを設置するとき、支柱が倒れないようにステーワイヤー(支持線)を張るが、このときステーワイヤーをたるまないように張るために使用する部品のこと。 ターンバックルの両端にワイヤーを結んで、本体をグルグル回すと、張り具合を調整できる。
	第1級アマチュア無線技士	アマチュア無線局に許可されているすべての操作範囲で運用できる資格。 空中線電力の制限はない。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
た(つづき)	第2級アマチュア無線技士	空中線電力200W(ワット)以下の無線設備で、アマチュア無線を運用できる資格。
	第3級アマチュア無線技士	空中線電力50W(ワット)以下の無線設備で、18MHz(メガヘルツ)以上、または8MHz(メガヘルツ)以下の周波数帯で、アマチュア無線を運用するできる資格。
	第3級短縮コース	JARD(日本アマチュア無線振興協会)が主催する講習会で、第4級アマチュア無線技士の資格を取得しているかたが、1日(6時間)の国家試験勉強に相当する講習を受けて、修了試験に合格すれば、第3級アマチュア無線技士の資格が取れるもの。
	第4級アマチュア無線技士	CW(モールス符号による通信操作)を除いて、空中線電力10W(ワット)以下の無線設備で、21MHz(メガヘルツ)～30MHz(メガヘルツ)の周波数帯が、または8MHz(メガヘルツ)以下の周波数帯が運用でき、さらに、空中線電力20W(ワット)以下の無線設備で、30MHz(メガヘルツ)を超える周波数帯が運用できるアマチュア無線の資格。
	第4級アマチュア無線技士養成課程講習会	JARD(日本アマチュア無線振興協会)が主催する講習会で、2日間(10時間)の国家試験勉強に相当する講習を受けて、修了試験に合格すれば、第4級アマチュア無線技士の資格が取れるもの。
	ダイオード	電流を一定方向にしか流さない半導体素子。整流作用があり、スイッチングにも応用できる。
	ダイナミックマイク	電磁石のコイルに音の振動に反応する素子を取り付け、音の振動に合わせて発生する起電力を取り出すようにしたマイク。
	ダイナミックレンジ	強い信号と弱い信号の幅(レンジ)のこと。 無線機の回路が扱える信号は、ノイズレベル(雑音レベル)から飽和レベルの範囲だが、この幅のことをダイナミックレンジという。
	ダイポールアンテナ	給電部を中心にして左右に1/4λ(ラムダと読む。波長のこと)のエレメント(素子)を接続したアンテナのこと。 半波長ダイポールやタブレット型アンテナとも呼ばれている。
	タイムアウト	レピータは、多くの人が共用しているため、1回の運用時間を制限している。 この時間を超えると自動的に回線が切断されるが、これをタイムアウトという。
	タイムアウトタイマー	Time Out Timerのこと。 多くのユーザーが利用するレピータ局などで、長々と交信をつづけてしまうのを避けるため、一定の時間を超えるとレピータが自動的に送信を停止して、利用者に注意を喚起するタイマー。 無線機でも、故障などにより送信状態となって、同じ周波数を長時間、占拠してしまうのを防止するため、このタイマーを搭載しているものもある。
	タイムスタンプ	D-PRS(GPS-A(DV-A))モード対応の当社製品で、GPSより取得した時間情報のこと。
	ダイレクト	QSLカードの交換をビューロー(JARL:日本アマチュア無線連盟など)を経由しないで、直接、郵便で送ること。
	ダイレクトコンバージョン	希望する受信周波数成分を中間周波数への変換を介さず、ダイレクトに検波/復調する受信構成のこと。
	ダウンバーター	ダウンコンバーター(Down Converter)の略称。 送信機の周波数を下げるための装置のこと。 144MHz(メガヘルツ)帯の無線機を例にした場合、28MHz(メガヘルツ)帯を運用できるように、低い周波数に変換する装置のこと。 これに対し、周波数を上げる装置をアップバーター(アップコンバーター)という。
	ダウンリンク	レピータ、衛星などから送信される電波のこと。 430MHz(メガヘルツ)帯のレピータでは、439.00MHz(メガヘルツ)～439.99MHz(メガヘルツ)、1200MHz(メガヘルツ)帯のレピータでは、1270.00MHz(メガヘルツ)～1270.99MHz(メガヘルツ)に割り当てられている。
	ダクト	対流圏の温度差で電波が屈折し、VHF帯/UHF帯などの電波が非常に遠くまで届く現象のこと。 ダクト(パイプ)の中を通って伝わっていくように、遠距離まで電波が到達することからこう呼ばれている。 この現象は、夏場にまれにしか起こらないため、異常伝搬の1つに数えられている。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
た(つづき)	たすきがけ運用	送信と受信を別々の周波数、または周波数帯で運用すること。 短波(HF)帯のたすきがけ運用は、国内と海外では、許可されている運用周波数が異なることがあり、互いに自国で許可された周波数で送信し、相手国の周波数で受信するものである。 また、DXペディション局など、パイルアップになるような場合は、交信の効率化を図るため、DXペディション局が送信周波数と異なった受信周波数で交信する場合もある。 スプリット運用ともいう。
	タッチトーン	マイクに付属している、電話と同じピッポッパッというDTMF信号のこと。
	縦振り電けん(鍵)	電鍵は、keyとも呼ばれる。モールス符号を発生させるための装置のこと。 縦振り式の電鍵は、台座の上にテコのようなアームが付いており、アームの両端の上下に接点とツマミが付いており、アームを上下に動かして操作する。 アームが縦方向に動くので、縦振り式電鍵という。
	ダブラー	入力周波数を2倍にする周波数逓倍装置のこと。
	ダブルコール	コールサインのうちのサフィックスが「AA」のように、2つ揃っているもの。
	ダブルスーパーヘテロダイン方式	スーパーヘテロダイン受信機で、希望する高周波周波から検波に至るまでの過程で受信特性をよくすることが目的で周波数変換を2回する方式のこと。
	ダブルバランスドミキサー	二重平衡変調回路を採用した周波数混合回路のこと。 SSB信号を発生させたり、検波したりするときに使われる。
	タブレットアンテナ	ダイポールアンテナともいう。ダイポールアンテナを参照。
	ダミーロード	擬似負荷のこと。 送信機を調整するとき、空中に電波を発生させないように、実際のアンテナ(空中線)の代わりに使用される高周波特性のよい抵抗器のこと。
	タワー	鉄やアルミをやぐら状に組んだもの。屋根の上に設置するルーフタワー、地面の上に設置する自立タワーやクランクアップタワーがある。
	短縮型アンテナ	アンテナを小型化することを目的にエレメント(素子)にローディングコイル等を挿入したアンテナのこと。
	短点	CW(モールス符号による通信操作)で文字を表現する要素の1つ。 長点と組み合わされて、文字を表現する。 短点と長点の比率は1:3で、1符号を作る短点または長点の間隔は1短点に等しい、2符号の間隔は3短点分に等しい、2語の間隔は7短点分と決められている。
	短波	HF(High Frequency)帯のこと。 3MHz(メガヘルツ)～30MHz(メガヘルツ)の周波数帯の電波で、3.5/3.8/7/10/14/18/21/24/28MHz(メガヘルツ)の9バンドがアマチュア無線には割り当てられている。 HF帯は、中波に属する1.9MHz(メガヘルツ)を加えて、10バンドと数えることもある。
ち	チップ部品	リード線のない粒のような部品のこと。
	チャージ	「充電する」が本来の意味であるが、「食事する」の俗語としても使用される。
	チャージャー	バッテリー充電器のこと。 Ni-Cd(ニッケルカドミウム)、Ni-MH(ニッケル水素)、Li-ion(リチウムイオン)などの種類によって、充電器も異なる。 使用されている素材の特性にあった充電パターンで設計された充電器で充電しないと、バッテリーの寿命を縮めるだけでなく、発火や破裂・爆発につながることもある。
	チャット	インターネット、RTTY(Radio Teletype)、PSK31(Phase Shift Keying 31ボー)、D-STARなどを使用して、短い文章をリアルタイムで交互にやり取りすることでコミュニケーションすること。
	チャンネル	VHF帯/UHF帯などのFMモードで使用している周波数のこと。 144MHz帯の呼出周波数145.00MHzや、430MHz帯の呼出周波数433.00MHzをメインチャンネルといい、それ以外の周波数をサブチャンネルという。
	チャンネルチェック	自分が送信することによって、他局に妨害を与えるかどうかを確認するときに使用される言葉。 電波法では、一定時間受信して混信を与えないことが要求される。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
ち(つづき)	チューニング	(1)目的とする電波に周波数を合わせる(同調させる)こと。 つまり、電波を正確に捕まえて、最良の状態で聞けるようにすること。 (2)インピーダンスのずれたアンテナが接続されたときでも、十分な性能を発揮できるように、アンテナチューナーを使用してマッチング(整合)を取ること。
	チューニングステップ	ダイヤルなどを回したときに、変化する周波数の間隔。略称は、TS。 変化幅は、5/10/15/20/25kHz(キロヘルツ)など送受信する周波数帯によって異なる。
	チューンド バンドパスフィルター	50MHz(メガヘルツ)～1300MHz(メガヘルツ)など広範囲にわたる受信周波数に応じて高周波増幅段に最適なバンドパスフィルターとなるように、バンドパスフィルターの特性を変化させて広帯域をカバーする機能のこと。 高感度を維持しながら、高い多信号特性を実現するために採用されている。
	長点	CW(モールス符号による通信操作)で文字を表現する要素の1つ。 短点と組み合わされて、文字を表現する。 短点と長点の比率は1:3で、1符号を作る短点または長点の間隔は1短点に等しい、2符号の間隔は3短点分に等しい、2語の間隔は7短点分と決められている。
	チョークコイル	高周波信号の電流を流さないようにするための電子部品の1つである。
	直接波	反射や回折などで間接的に到達する電波ではなく、直接、アンテナに到達する電波のこと。
	珍局	滅多に電波の出ない国や地域の無線局のこと。 アワードを狙うアワードハンターにとっては、珍局と交信することが無上の喜びであり、アワード獲得の重要な要素となる。
つ	ツインPBT	単独でも動作するPBT(パスバンドチューニング)を2つ組み合わせ、中心周波数を変えないで通過帯域幅を上側と下側から同時に、または片方だけ狭くし、混信を低減する機能のこと。 片側からの混信除去には、二重になっているPBTツマミを同方向に同量だけ変更することで、IFシフトとしても動作する。
	ツェップアンテナ	1/2λ(ラムダと読む。波長のこと。)のエレメント(素子)のアンテナの一方の端から給電するロングワイヤーアンテナのこと。 ドイツの飛行船「ツェッペリン号」に使用されたので、この名前が付けられた。
	ツェナーダイオード	逆方向に電圧をかけたとき、一定の電圧(ツェナー電圧)を上回ると急に電流が流れる特性を持つダイオード。定電圧回路など、電圧を安定させる回路に使用される。
	ツェナー現象	PN接合型ダイオードで、P型に－(マイナス)、N型に＋(プラス)の逆方向の電圧をかけて、徐々に電圧を高くしていくと、ある点(ツェナー電圧)で急に大きな電流が流れる現象のこと。この現象を利用した部品にツェナーダイオードがある。
て	定格電圧	無線機器を適正に動作させるための電圧値のこと。 カタログや取扱説明書などに、100V(ボルト)±10%、100V(ボルト)±15%などと表示されている。 100V(ボルト)±10%であれば、90V(ボルト)～110V(ボルト)の範囲が定格電圧となる。
	ディスクリミネーター	FM受信機の復調器、または復調回路に使われる部品のこと。
	ディスコーンアンテナ	アンテナがdisc(円盤)とcorn(円錐)を組み合わせた傘のような形状をしているので、この名前が付いた。 VHF帯/UHF帯で使用され、広帯域特性を持つのが特長。
	ディッシュ	「お皿」の意味で、パラボラアンテナの反射板のこと。
	ディップメーター	発振回路の周波数や共振回路の共振周波数などを測定する測定器のこと。 メーターの指針が共振したときにディップする(ピクンとさがる)ことから、この名前が付いた。
	ディテクター	受信機の検波回路のこと。
	ディレイタイム	復帰時間のこと。 (1)セミブレークイン、またはVOX運用時、送信状態から受信状態に切り替わるまでの時間のこと。 (2)スケルチディレイ機能使用時、信号強度の変化に応じて、スケルチが閉じるまでの時間のこと。
	ディレクター	導波器ともいい、八木アンテナなどの指向性アンテナの放射器(輻射器)の前に配置する。 導波器のエレメント(素子)を多く使用することで、指向性が鋭く、アンテナの利得が高くなる。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
て(つづき)	テールレター	ラストレターともいい、コールサインのサフィックス(うしろの2文字～5文字)の最後のアルファベットのこと。 たとえば、サフィックスが3文字のコールサインでは、JG3YMKの「K」に該当する。 中央がセカンドレター、最初がファーストレターという。
	デコーダー	信号を解読して復調(もとの形に戻す)する回路のこと。 DTMFを解読する回路やトーン信号を解読する回路も含まれる。
	デコデコ	DC-DCコンバーターの俗称。
	デジタル	信号の変化などすべての情報を2進法(0と1で表す数の数えかた)の符号にして取り扱うこと。 コンピューターなどはこの信号しか取り扱えない。
	デジタル コードスケルチ	D-STAR(DVモード)運用時、特定の相手局とだけ通信したいときに使う機能のこと。 略称は、CSQL。 通信したいすべての局で、同じデジタルコード(00～99)を設定して運用する。
	デジタル トーンコードスケルチ	FMモードで、特定の相手とだけ通信したいときに使う機能のこと。 略称はDTCSで、DCS(Digital Code Squelch)搭載の無線機と互換性がある。 通信したいすべての局で、同じDTCSコード(023～754)を設定して運用する。 自局に設定したDTCSコードと同じDTCSコードを受信したときだけ、スケルチが開いて受信できる。
	デジタル コールサインスケルチ	D-STAR(DVモード)運用時、特定の相手局とだけ通信したいときに使う機能のこと。 略称は、DSQL。 自局のコールサイン情報を含んだ信号を受信したときだけ、スケルチが開いて受信できる。
	デジタルテスター	測定値を数字で表示するようにした電圧、電流、抵抗などを測定する装置のこと。
	デジタルIFフィルター	アナログIFフィルターでは、通過帯域の平坦性(リップル)を優先するとシェープファクターが悪くなり、なだらかな特性(ブロード)になってしまう。 また、使用する振動子を増やすと物理的な限界が生じるため、位相特性が著しく悪化し、音質が劣化するなどの問題が生じる。 これを解決するために開発したのが、DSPによるデジタルIFフィルターである。 デジタルIFフィルターでは、ソフトウェア処理の変更をするだけで、アナログフィルターに例えると、振動子の数を自由に増やすことができ、リップルをほとんどゼロに保ちながら理想のシェープファクターを追い求めることができるとともに、運用するバンドやモードに応じた、最適なシェープファクターを得られる。
	デジタル ボイスメモリー	交信内容の録音や再生ができる機能のこと。 コールバックの確認など実戦的に使用できる。
	デジタル簡易無線	アマチュア無線家のあいだでは「デジ簡」と呼ばれ、特小よりもよく飛ぶライセンスフリーラジオとして認知され、呼び出しCHでCQを出して交信する文化も生まれている。 当社製無線機(IC-DPR1/IC-DPR3/IC-DPR5/IC-DPR6/IC-DPR100)で運用できる。
	デジタル変調	音声などのアナログ信号をデジタル信号に変換して、通信する変調方式のこと。 携帯電話やPHS、警察無線などで使用されているが、アマチュア無線でも使用されている。 ノイズに強く、混信にも強く、同一周波数複数の通信を同時にできるなど、電波の有効活用ができる。
	デジトーカー	デジタル化された信号を受信し、アナログ変調信号に変換して再送信する中継装置のこと。 日本のアマチュア衛星に搭載されている。
	デジピーター	パケット通信の中継機能のこと。 パケット通信をするときには、TNC(ターミナルノードコントローラー)が使用されるが、このTNCは中継機能を持っているので、データを転送することによって、遠くのRBBS(Radio Bulletin Board Service)局にアクセスできる。
	デシベル	「dB」と書く。倍率を常用対数で表記したもの。 電圧利得の10倍と1,000,000倍の2つの倍率のあいだには大きな数値の違いがあるが、デシベルで表現すると20dBと120dBという数値表現になり、扱う数字の桁数が少なくなる。
	デスクトップマイク	無線機の前などに置いて使用する卓上型のマイクロホンのこと。
	テスター	直流電圧、直流電流、交流電圧、抵抗値などを簡単に測定できる計測器。 メーターの付いたアナログテスター、数値を液晶パネルなどで表示するデジタルテスターがある。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
て(つづき)	テストオシレーター	無線機器のテストをするために使用される広帯域な周波数発振装置のこと。
	デバイス	トランジスター、FET、IC、LSIなど、無線機を構成する主要な素子のこと。
	デビエーション	周波数偏移のこと。送信FM電波の変調レベルに応じてどれぐらい周波数が変化するかを表す。
	デュアルワッチ	異なる2つの周波数で、電波を同時に受信できる機能のこと。 バンド内のDX(遠距離)局の動向を機敏に把握するために有効である。
	デュープチェック	コンテストなどで、同一局と複数回、交信していないかどうかチェックすること。
	デュオバンド	デュアルバンドともいい、1台で2つのバンドが運用できる無線機やアンテナのこと。
	デュプレクサー	2周波混合(分配)器のこと。 周波数の異なる2つの高周波を混合、または分波するアンテナ共用器。
	デュプレックス運用	アマチュア無線では、通常、同じ周波数を使って送信と受信を切り替えて交信するが、送信と受信をそれぞれ別の周波数に設定して交信すること。
	デリンジャー現象	E層とD層(電離層)の電子密度が急激に増加することによって、短波(HF)帯における通信(特に遠距離)が数分から1時間程度にわたって、受信強度が低下、または受信不能となる現象。 消失現象とも呼ばれ, 長波(LF)帯ではほとんど影響がなく、短波(HF)帯に顕著に現れる現象である。
	⊿(デルタ)Fスキャン	当社製無線機に搭載されたスキャンで、表示している周波数(VFO)、またはメモリーチャンネルの周波数を中心に、一定のスパン(周波数範囲)で信号のある周波数を探すときに使用する。
	⊿(デルタ)TX機能	当社製無線機に搭載された機能。 受信周波数を変えないで送信周波数だけを微調整するときに使用する。
	電界強度	ある地点における電波(電界)の強さ。通常は電界強度計で測定され、単位は、V/m(ボルト･パー･メートル)。 1μV/m(マイクロボルト･パー･メートル)を0dB(デシベル)(基準)として、10μV/m(マイクロボルト･パー･メートル)＝20dB(デシベル)、100μV/m(マイクロボルト･パー･メートル)＝40dB(デシベル)と表す。
	電解コンデンサー	2つの電極間に電解液をしみ込ませた誘電体を使用したコンデンサーのこと。 大容量のものが作れ、おもに電源の平滑回路に使用される。 極性があり、端子に印加できる最大電圧も決まっている。 極性を間違えると、破裂したり、電解液がもれだしたりすることがある。
	テンキーボード	無線機器やパソコンなどの操作パネルに配置されている0～9の10の数字キー。
	電けん(鍵)	CWモードで通信をするときに使用する装置のこと。 人差し指と中指で叩く縦振り式、親指と人差し指で操作するマニュピュレーター(横振り式の電鍵)、電子回路が組み込まれたエレクトロニックキーヤーなどがある。
	電波型式	A1A、A3E、A8W、などのこと。 最初の文字が「主搬送波の変調形式」を、真ん中の数字は「主搬送波を変調する信号の性質」を、最後の文字は「伝送情報の形式」を表している。
	電波障害	送信した電波、またはほかの電気機器から出るノイズなどが、テレビ、ラジオ、アマチュア無線局などに妨害を与えること。 テレビの受信障害は、TVI(ティーブイアイ)、ラジオの受信障害はBCI(ビーシーアイ)、アンプの受信障害はアンプI(アイ)、電話の受信障害はテレホンI(アイ)という。
	電波法令抄録	アマチュア無線を運用するために必要な法令をまとめた法令集のこと。 総務省電波利用法ホームページの「総務省電波関係法令集」からも法令をはじめ、省令、告示を閲覧できる。
	電波法	昭和25年6月1日施行され、電波を公平かつ能率的な利用を確保することによって、公共の福祉を増進することを目的とした法律。
	電波利用料	無線局に賦課された税金。電波はかぎりある資源であるということから生まれた制度である。 アマチュア無線局の電波利用料は、1局当たり1年間で300円。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
て(つづき) と	電離層	地上70km ～500kmに存在する電波を反射させたり、減衰させたりする層のこと。 電離層には、地上80km付近にあるD層、 100km付近のE層、 300km付近のF層などがある。 アマチュア無線に関係するのはF層で、短波帯は地上とF層のあいだで反射を繰り返しながら、地球の裏側まで飛んでいく。 電離層は、太陽の活動によって発生するため、昼と夜、季節によって反射のしかたが変わってくる。 短波(HF)帯の電波の飛びかたが変化するのは、このためである。
	同軸ケーブル	アンテナと無線機を接続するときに使用するケーブル。 ケーブルの特性インピーダンスは、アマチュア無線用が50Ω(オーム)となっており、できるだけロスの少ないケーブルを使用することが重要である。
	同軸コネクター	同軸ケーブルをアンテナや無線機などと接続するときに使用する部品のこと。 M型、 N型、 BNC型が一般的だが、小型のハンディー機ではSMA型が使用されている。
	導波器	ディレクターともいい、八木アンテナなどの指向性アンテナの放射器(輻射器)の前に配置する。 導波器のエレメント(素子)を多く使用することで、指向性が鋭く、アンテナの利得が高くなる。
	等方性アンテナ	理想アンテナともいう。 すべての方向に同じの強さの電力を放出する仮想アンテナのこと。
	トークパワー	SSBモードの電波のように、入力された音声レベルに応じて得られる送信出力のこと。
	トーンエンコーダー	(1)レピータを起動させるための88.5Hz(ヘルツ)のトーン周波数を作り出す回路のこと。 (2)トーンスケルチに使用する67.0Hz(ヘルツ)～254.1Hz(ヘルツ)のトーン周波数を作り出す回路のこと。
	トーン周波数	トーンスケルチ機能を使用した電波の送信において、音声信号に重畳される低周波信号の周波数(CTCSS)のことで、 67.0Hz(ヘルツ)～254.1Hz(ヘルツ)の周波数範囲内(38種類～50種類)の中から1つ選択できる。 受信側では、その周波数(CTCSS)を検出したときだけ、スケルチが開いて低周波(AF)回路が動作して、相手の音声が聞こえる。 それ以外のCTCSSの電波は受信しても音声が出ないため、静かに待ち受けができる。
	トーンスケルチ	FMモードで、特定の相手とだけ通信したいときに使う機能のこと。略称は、 TSQL。 通信したいすべての局で、同じトーン周波数(67.0Hz(ヘルツ)～254.1Hz(ヘルツ))を設定して運用する。 自局に設定したトーン周波数と同じトーン周波数の低周波信号が受信信号に重畳されているときだけ、スケルチが開いて受信できる。
	トーンバースト	送信を開始したときに一定のトーンの変調をかけて、受信側はそのトーンをあらかじめ設定しておくことによりスケルチを開く機能。トーンスケルチの一種。
	特定小電力無線	法令上特別に認められている資格や免許を必要としない無線通信機器の1つ。
	特別記念局	EXPO(国際博覧会)、ハムフェアなど大きなイベントが開催される会場内で運用されるアマチュア無線局。 コールサインのプリフィックスには、日本国内では通常8Jや8Nなどが割り当てられる。
	ドッグパイル	一度に多くの無線局から呼ばれる状態を「パイル」というが、 DXペディションなどで、さらにすごくなった状態。 数百匹の犬が一斉に吠えるような感じに例えた表現。
	ドップラー効果	移動体から発せられる音波や電波が近づいてくるときとはなれるときで、周波数が変化すること。 アマチュア無線では、衛星通信で体感できる。
	トップレター	ファーストレターともいう。 コールサインのサフィックス(うしろの2文字～5文字)の最初にくるアルファベット。 たとえば、 JG3YMKの「Y」に該当する。 中央がセカンドレター、最後がラストレター。
	トップバンド	1.9MHz(メガヘルツ)帯(海外では1.8MHz(メガヘルツ)帯)の呼称。
	トップヘビー	アンテナをタワーの上に何段にも載せたとき、上のほう(トップ)が重くなってしまうこと。 トップが重くなりすぎて、強風が吹いたときなど、安定性が悪化しないように注意が必要である。
	トップロードアンテナ	アンテナの先端部分にローディングコイルが挿入された短縮アンテナのこと。 先端部分は電流分布が少ないため、エレメントの抵抗による影響を受けにくく、効率がよいためよく飛ぶ。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
と(つづき)	都府県支庁番号	JARL(日本アマチュア無線連盟)が制定した都･府･県と支･庁ごとの番号のこと。 日本国内のコンテストナンバーには、ほとんどの場合、この番号が含まれる。
	トライバンド	1台で3つのバンドで運用できる無線機、またはアンテナのこと。
	トラップ	(1)不要な周波数成分を除去するための共振回路のこと。 送信機の出力段や受信機の入力段に挿入し、不要な周波数成分を除去できる。 (2)複数の周波数に同調するため、1つのアンテナに挿入されるコイルとコンデンサーを組み合わせた回路のこと。
	トラップ ダイポールアンテナ	ダイポールアンテナのエレメント(素子)にいくつかの周波数に同調させたトラップを挿入し、マルチバンドで使用できるようにしたアンテナのこと。
	トラップ バーチカルアンテナ	垂直アンテナのエレメント(素子)にいくつかの周波数に同調させたトラップを挿入して、マルチバンドで使用できるようにしたアンテナのこと。
	トランジスター	シリコンなどの結晶を使用して作られた発振、増幅用の素子(デバイス)。 基本構造は、P型とN型の半導体をPNP、NPNといったサンドイッチ状にして作る。 ベース(B)、コレクター(C)、エミッター(E)の3つの電極を持つ半導体である。
	トランスバーター	無線機の送信周波数と受信周波数をほかの周波数に変換する装置のこと。
	トランスポンダー	人工衛星に搭載されている電波を中継する自動応答装置のこと。 衛星通信では、地上から送信された電波が人工衛星で受信され、受信された入力信号を別の周波数に変換されて自動的に送信する自動応答機能を持つ。
	トリプルコール	コールサインのうちのサフィックスが「AAA」のように、3つ揃っているもの。
	トリプレクサー	3周波混合(分配)器のこと。 周波数の異なる3つの高周波を混合、または分波するアンテナ共用器。 回り込み対策、信号の減衰やSWRの悪化がないようになっている。
	トリマー	半固定タイプの調整用ボリューム、可変コンデンサー、可変コイル。
	ドレイン	FET(電界効果トランジスター)の電極の1つ。トランジスターのコレクターに相当する。
	トンツー	モールス符号のこと。 モールス符号が、･(トン)と－(ツー)から構成されていることからいう。
な	内部抵抗	部品やケーブル自体が持っている抵抗成分のこと。
	鉛蓄電池	鉛を電極に使い、希硫酸を電解液として使用したバッテリー。 大容量の電流を取り出すことができる。車のバッテリーが代表的なもので、移動運用などにも使用される。
	ナローフィルター	電波を受信するとき、近接周波数の妨害を防ぐために使用する狭帯域フィルター。 CWモード、RTTYモード、SSBモードで使用できるものがある。
	ナローＦＭ	占有周波数帯域幅の狭いFMの電波のこと。 アマチュア無線のVHF帯/UHF帯で使用するFMモードは、このナローFMである。 これに対し、無線機や通信型受信機で、一般的なFM放送を受信するときには、WFM(ワイドFM)モードを使用する。
に	ニューカマー	アマチュア無線をはじめたばかりの人のこと。 ビギナー(初心者)と同じ意味だが、少し伝統的ないいかたである。
	ニューイヤー パーティー	正式には、「QSOパーティー」という。 新年の挨拶のために、毎年1月2日～3日に開催されるJARL(日本アマチュア無線連盟)主催の交信会。
	入感	電波が受信でき、送信された信号が聞こえてくること。実際には、「各局、入感ありますか？」と自分の送信した電波が相手に聞こえているかどうかを確認するときなどに使用する。
	入射角	一般に電波の世界で入射角とは、アンテナから輻射された電波が電離層に入射するときの角度のこと。その入射の角度が浅ければ浅いほど高い周波数でも反射しやすくなる。
の	ノイズ	雑音のこと。目的とする信号以外の信号。
	ノイズフィギュア	雑音指数と呼ばれ、増幅器や受信機の回路から発生する雑音の程度を、回路の入力側のSN比と出力側のSN比を比較して表したもの。
	ノイズフィルター	ノイズを除去するための電気回路や装置のこと。 AC電源や外から入り込んでくるノイズを除去するため、電源回路に入れることが多い。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
の(つづき)	ノイズブランカー	NB(Noise Blanker)ともいい、SSBモード、CWモード、AMモードで受信しているとき、自動車のイグニッションノイズなどのようなパルス性ノイズを低減する回路のこと。
	ノイズリダクション	アマチュア無線では、信号とノイズを分離する機能のこと。 ノイズリダクションは、ノイズに埋もれた信号だけを取り出すときに効果がある。 また、ノイズ抑圧量が変更できるため、ノイズ量によって適切な動作ポジションを選択できる。
	ノイズリミッター	雑音制御回路のこと。パルス性(衝撃性)の雑音などの外部雑音による妨害を軽減する受信機の補助回路を指す。
	ノーQSL	交信時に、QSLカードを発行しないこと、交換を省略すること。 QSLカードを交換しない場合、あらかじめ「ノーQSLでお願いします」などという。
	ノーマルモードノイズ	電子機器の信号ラインや電源ラインを通って混入してくる雑音。 信号や電源と同じ経路を通ってくるため、ノーマルモードノイズといわれている。
	ノッチフィルター	特定の周波数成分だけを除去するための急しゅんな特性をもったフィルターのこと。 CW信号のような単信号の混信を除去するのに効果がある。
	ノビス級	以前に存在した米国のアマチュア無線技士の資格の1つで、入門者級と呼ばれていた。
	ノンラジアルアンテナ	垂直アンテナなどで、給電部に擬似的にグラウンド(大地)を作り出し、放射エレメント(素子)以外のラジアルと呼ばれるアースエレメントのないアンテナのこと。
は	バーアンテナ	中波放送が受信できる携帯型ラジオに内蔵されていて、棒状丸型または偏平型のフェライトコア(磁性体)にリッツ線(撚線)を巻いたアンテナのこと。 指向性があり、バーアンテナを放送局に対して直角にすることで、最大感度になる。
	バーチカルアンテナ	垂直型アンテナの総称。 短波(HF)帯用の多バンドトラップ入り垂直アンテナの名称として使用することもある。
	バーニアダイヤル	周波数を微調整するためにメカニカルな機構が付いたダイヤル。
	バイアス	トランジスターやFETなどを正しく動作させるため、ベースやゲートなどの電極に与える一定の電流、または電圧のこと。
	バイアス コントロール回路	トランジスターのベースやFETのゲートなどの電極に与えるバイアスを制御するための回路。
	ハイカットフィルター	LPF(Low Pass Filter)、ローパスフィルターともいい、一定の周波数(カットオフ周波数)以下を通過させ、それ以上の周波数を減衰(カット)させるフィルターのこと。
	バイコニカルアンテナ	2つの円錐状のエレメント(素子)を持ったアンテナのこと。 ダイポールアンテナなどと比べて、使用できる周波数の幅がより広く、VHF帯/UHF帯で垂直無指向性アンテナとして使用される。
	ハイパスフィルター	HPF(High Pass Filter)、ローカットフィルターともいい、一定の周波数(カットオフ周波数)以上を通過させ、それ以下の周波数を減衰(カット)させるフィルターのこと。
	パイルアップ	一度に多くの無線局から呼ばれる状態。パイルともいう。 珍しいDX(遠距離)局が現れたり、DXペディション(アマチュア無線局が少ない国や地域へ移動して運用すること)がはじまったりすると、これらのDX局と交信しようとする数多くの局によって発生する現象。
	バグキー	機械的な横振り式の半自動式電鍵のこと。 短点側がバネになっており、親指で押すと押しているあいだ、連続した短点信号(トトトト・・・)が発生し、長点側は人差し指で押しているあいだ、連続した信号(ツー)が発生する。 連続信号を常用する船舶通信でよく使用されていた。 CWモード搭載の当社製品では、エレクトリックキーヤーの回路が内蔵されており、キーヤータイプの設定をバグキーに変更するだけで、接続したパドルを半自動式電鍵として使用できる。
	パケットクラスター	おもに、DX通信を楽しむ人がリアルタイムにDX情報を交換することを目的に構築されたパケット通信の転送系データ交換システム。 常に無線機の前にかじりつくことなく、パソコンによって、いつでもDX情報が得られるのが特長。
	パケット通信	パソコンを使用するデータ通信の一形態。 パケットとは、小包のことで、各種のデータを小包のように小わけにして伝送する方式のこと。 アマチュア無線では、モデムの代わりに通信制御機能やデータパケット生成機能をTNC(Terminal Node Controller)を使用する。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
は（つづき）	パス	電波の伝搬経路。つまり、電波の通り道のこと。 北米とのパスが開けたといった表現をする。
	パスバンド チューニング	PBT（Passband Tuning）ともいい、スーパーヘテロダイン受信機の中間周波数の通過帯域幅を変更できるようにして、隣接する妨害電波を除去する回路のこと。
	パッシブフィルター	不要な周波数成分を除去し、必要とする周波数成分だけを取り出すために使用されるコイル（L）、コンデンサー（C）、抵抗（R）など、増幅や発振などの能力のないパッシブ（受動的）な素子だけで構成されるフィルターのこと。 これに対し、トランジスターやICなどアクティブ（能動的）な素子とパッシブな素子を組み合わせて構成されるフィルターをアクティブフィルターという。
	発振器	任意の周期性を持つ電気信号を安定して発生させる回路または測定器のこと。
	バッファー回路	緩衝増幅回路のこと。 電力増幅回路や変調回路など、入力の負荷変動による影響を少なくし、安定した発振周波数を得るために設けられる回路のこと。
	パドル	マニピュレーターともいい、2枚羽の横振り式の電鍵（キー）を指す言葉。 エレクトロニックキーヤーと組み合わせてCWの運用に使用する。
	バニティー コールサイン	自分が失効したコールサインを取り戻したいときや、亡くなった親兄弟や親戚が使っていたコールサインを相続したいときなどに、お金を払って希望するコールサインがもらえる制度で、1996年から米国で使用されている。
	ハム	一般的に、アマチュア無線を楽しんでいる人の総称。
	ハム音	音声信号に混じって聞こえる「ブーン」という低い交流音のこと。 AC100V（ボルト）の電源周波数が原因となることもある。
	ハムバンド	国連の国際電気通信連合（ITU）によって、アマチュア無線に割り当てられた周波数帯。 アマチュア無線バンド。
	ハムフェア	日本では、JARL（日本アマチュア無線連盟）が主催。 JAIA（日本アマチュア無線機器工業会）に所属しているメーカーが製品を展示するJAIAコーナー、JARLコーナー、クラブコーナーなどアマチュア無線愛好家が全国から集まるハムの祭典。
	ハムログ	パソコン用のアマチュア無線ログ管理ソフトウェア（Turbo HAMLOG for Windows）として有名なフリーソフトウェア。 おもにJCCハンターなど国内QSOにアクティブなアマチュア無線家に愛用されている。 インターネット経由で入手できる。
	パラボラアンテナ	衛星放送を受信するときに使用するおわん型のアンテナとして有名なアンテナのこと。 衛星通信やATV（アマチュアテレビ）通信など、マイクロ波を使用する通信に使用される。 非常に指向性が鋭く、高ゲインの特性を持っている。 風の抵抗が少ないメッシュ（金網）タイプもあり、自作する人もいる。
	バラン	平衡型のbalanceと不平衡型のunbalanceの回路を結合するということから、「balun」という。 ダイポールアンテナなど平衡型アンテナに、不平衡型の同軸ケーブルを接続するために使用する変換器のこと。
	バランスド モジュレーター	平衡変調器のこと。 ダイオードやトランジスターをリング状に組んで、1つの入力端子に高周波信号（または搬送波）、もう1つの入力端子には局発信号（または変調波）を入力すると、出力端子には高周波信号（搬送波）は打ち消されて出てこないが、高周波信号（搬送波）と局発信号（変調波）の両周波数の和、または差の周波数成分が表れる。 SSBの変調、復調に利用される。
	バリキャップ	バリアブルキャパシタンスダイオード（Variable Capacitance Diode）の略称。 可変容量ダイオードのこと。バラクターダイオードともいう。 このダイオードに逆方向電圧を与えると、逆電圧の大きさに応じて電極間の内部容量が顕著に変化する性質を持っている。 テレビやラジオなどの電子チューナーに利用されている。
	バリコン	Variable Condenserの略称。 回転軸を操作することにより、容量を変化させることのできるコンデンサー。 半円状のアルミ板を1mm以下の間隔で数枚重ねて、このあいだに同様のアルミ板を挿入して可動電極としたものが一般的。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
は（つづき）	バリスター	加えられる電圧に応じて、内部抵抗が低下する特性を持つ可変型ダイオード。 静電気保護用として、回路に使用されている。
	パワー（PWR）	アマチュア無線では、おもに送信出力のこと。 第4級アマチュア無線技士は20W（ワット）（HF帯10W（ワット））以下、第3級アマチュア無線技士は50W（ワット）以下、第2級アマチュア無線技士は200W（ワット）以下、第1級アマチュア無線技士は無制限の送信出力が許可されている。
	パワーモジュール	送信機の出力段（PA）の電力を取り扱う半導体と回路部品をまとめてモジュール化したもの。
	パワーセーブ機能	一定時間、信号を受信せず、そのあいだ操作しない状態がつづいたときに、消費電流を抑えるための機能のこと。
	パワーセット機能	LOW、MID、HIGHなど送信出力を設定する機能のこと。 最近では、10/5/2.5/1W（ワット）などと数値表記する機種もある。
	ハングアップタイム	レピータがアップリンクの信号やレピータトーンが検出できなくなってから中継送信動作を停止するまでの時間で、1秒～5秒が一般的。 レピータの運用はハンディ機やモービル機など安定しない環境で使用されることが多く、フェージングやアクセス環境などにより、頻繁に中継送信がON/OFFされるのを防止できる。
	バンクリンク スキャン機能	メモリーチャンネル数の多い無線機では、メモリーチャンネルを5個とか10個に分割しないと、どのメモリーチャンネル番号に何を記憶させたのかがわかりにくくなるため、メモリーバンクが設けられている。 スキャンしたいメモリーバンクを指定することで、指定した各メモリーバンクに記憶されたメモリーチャンネルを連続でスキャンする機能のこと。
	反射器	リフレクターともいい、八木アンテナなど指向性アンテナの電波を反射するエレメント（素子）のこと。 放射器（輻射器）のうしろに配置して、放射器よりエレメントが長く、電波を反射させるもの。
	搬送波	キャリアともいい、音声信号などの情報を重畳して運ぶ高周波信号のこと。 電波は、発振器で発生させた高周波信号に、音声信号などで変調をかけることによって作られる。 搬送波は、音声信号などを搬送する（運ぶ）ための波で、つまり電波そのものである。
	ハンダ付け	各部材（基板や部品のリード線など）をハンダコテ（道具）を使って加熱し、そこへハンダを溶かすことにより、金属間を接合すること。
	バンドエッジ	許可されているアマチュアバンドの両端。 たとえば、430MHz（メガヘルツ）帯であれば、430MHz（メガヘルツ）と440MHz（メガヘルツ）になる。
	バンドプラン	アマチュア無線では、色々なモード（電波型式）で運用が認められているが、バンド内であっても、好き勝手に使用すると混信を生じるため、モードごとに使える周波数範囲が電波法で決められている。 正確には、総務省の告示で、「アマチュア業務に使用する電波型式および周波数の使用区別」という。
	半導体素子	ソリッドステートデバイスともいい、トランジスター、ダイオードなどの部品のことをいう。
	バンドスコープ	運用周波数を中心に、上下周波数で信号が出ていないかを視覚的に確認できるようにした機能のこと。 信号を探すだけではなく、隣接する周波数の使用状況が視覚的に確認できるので、目的の信号をすばやく捕えられる。
	バンドスタッキング レジスター機能	当社が付けた名称で、運用しているバンドの最終運用状態を常に記憶させておき、次にその運用バンドを選択したとき、瞬時にもとの状態に戻せる機能のこと。
	バンドパスフィルター	BPF（Bandpass Filter）ともいい、一定範囲の周波数成分の信号だけを通過させ、そのほかの周波数成分の信号を減衰させるフィルターのこと。
ひ	ピークパワー	尖頭電力ともいい、SSBモードの電波などで、瞬間的に振れる最大電力。
	ビーコン	ある特定の周波数で、常に発射されている標識信号。 船舶や航空機が自分の位置を確認するために利用する電波でもある。 アマチュア無線では、電波の伝搬状態を調査するためにビーコンを発射している「局」を指すことが多い。
	ビート	AMモード運用時、発生する2つの近接した周波数を混合すると、「ピー」という「うなり音」が生じる。 この「ピー」という音をビートという。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
ひ(つづき)	ヒートシンク	発熱体を効率的に冷却するため、熱伝導性の高い金属で作られた放熱器のこと。 送信機の電力増幅器に使われるパワーモジュールやパワートランジスター素子などは、極めて高温になるので、この熱によって素子が壊れてしまうことを防ぐために、放熱器によって自然冷却されている。 ハイパワー機では、この放熱器を電動ファンによって、強制的に冷却し、さらに放熱効率をあげている。
	ビームアンテナ	八木アンテナに代表される指向性を持ったアンテナのこと。
	ビームパターン	指向性アンテナから電波エネルギーが放射される状態を図(パターン)によって表示したもの。 パターンを見れば、アンテナの特性を知ることができる
	ピコ	補助単位の1つ。10のマイナス12乗。 たとえば、pF(ピコファラッド)は、コンデンサーの静電容量の単位で、1×10のマイナス12乗ファラッド。
	ビジー	機械や装置が、「使用中」や「動作中」の状態。
	非常通信	電波法第52条で、「地震、台風、洪水、津波、雪害、暴動その他非常の事態が発生し、又は発生する恐れがある場合において、有線通信を利用することができないか又はこれを利用することが著しく困難であるときに人命の救助、災害の救援、交通通信の確保又は秩序のために行われる無線通信」と規定されている通信のこと。 非常通信を受信したときには、関係官庁などに状況を的確に連絡するとともに、その周波数を確保し、いつでも発信者と連絡が取れるようにしておくことが重要である。
	ビッグガン	大砲の意から、大出力のアマチュア無線局を指す。
	ピッチ	CWモード運用時、混信の中で最も聞き取りやすいサイドトーンモニター周波数のこと。CWピッチ周波数ともいう。 当社製品では、300Hz(ヘルツ)～900Hz(ヘルツ)の範囲でピッチを調整できる。
	ヒューズ	電気回路に異常に大きな電流が流れたとき、電気回路を切断し、保護するための部品のこと。
	ビューロー	各国のアマチュア無線連盟の総称で、「事務所」という意味もある。 日本の場合、QSLカードを交換するときに、「ビューロー経由で」といえば、JARL(日本アマチュア無線連盟)の事務所を経由して交換ができる。
	標準電波	情報通信研究機構が送信している40/60kHz(キロヘルツ)の長波帯標準電波のこと。 日本では、長波帯標準電波だけになっているが、海外では2.5/5/10/15MHz(メガヘルツ)などの短波(HF)帯で送信され、アマチュア無線家のあいだで周波数の校正などに活用されている。
	避雷器	アンテナから侵入した雷電流を無線機器に入らないようにバイパスして、アースに逃がす働きをする。 アンテナと無線機器を接続する同軸ケーブルの途中に挿入し、避雷器に付いているアース端子をアースに接続する。 しかし、雷電流はアンテナからだけではなく、ACコンセントからも侵入することがあるので、避雷器の挿入だけでは雷電流を防ぐことはできない。
ふ	ファーストレター	コールサインのプリフィックス(前の3文字)、またはサフィックス(うしろの2文字～5文字)の最初の文字のこと。 たとえば、JG3YMKのサフィックスのファーストレターは「Y」である。
	ファイナル	(1)無線機器では、送信部の終段(出力段)を指す。 (2)無線運用では、交信が終了するときに「ファイナルを送ります」のように使用する。 つづけて、「さようなら」、男性の無線局に対しては「73(セブンティースリー)」、女性の無線局に対しては「88(エイティーエイト)」などという。
	ファイブナイン	「59」と表し、「ごじゅうきゅう」、「ごーきゅー」ともいう。 交信中に、電波の受信状態を表すとき、RSレポート(シグナルレポート)を使用する。 「R」はReadabilityの略称で信号の了解度を、「S」はSignal strengthの略称で信号強度を表す。 「R」(了解度)は1～5の5段階、「S」(信号強度)は1～9の9段階で、了解度は聞いた感じで表現し、信号強度は無線機のSメーターの読みを示す。 たとえば、「59」は了解度、信号強度ともに最良の状態であることを表す。 CWモードでは、これに音調(Tone)が加わり、「RST599」のようにレポートする。 RS59+20dBのようにSメーターの指示がS9を超える場合は、何dBオーバーかを付加してレポートすることがある。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
ふ(つづき)	ファラッド	コンデンサーの基本単位。単位記号は「F」で表す。 1ファラッドは、1クーロンの電気量で対極板間に1V(ボルト)の電位差を生ずる容量の大きさである。
	ファンクションキー	無線機器などに付いている各種機能を設定するためのキー。
	フィーダー	アンテナと無線機器のあいだを接続する電力伝送用導線(ケーブル)。 構造により単線式給電線、平行2線式給電線、同軸ケーブルがある。
	フィードバック回路	電子回路で、出力の一部を入力に戻す技術。 逆相で戻すことをネガティブフィードバック(負帰還)といい、ゲイン(利得)は下がるが、広い周波数帯域にわたって均一な増幅度が得られる。 また、同相で戻すことをポジティブフィードバック(正帰還)といい、少しだけなら再生時にゲイン(利得)は増すが、多くなると発振する。
	フィールドデー コンテスト	毎年8月にJARL(日本アマチュア無線連盟)主催で開催されるコンテストのこと。 野外へ移動して運用するアマチュア局との交信をはかることを目的としている。
	フィールド運用	家に設置された自分の無線機で交信するのではなく、野外に無線機を持ち出し、運用すること。
	フィルター回路	コイル(L)、コンデンサー(C)、抵抗(R)で構成された不要な周波数成分を除去する回路のこと。
	ブースター	アンテナと無線機器のあいだに接続し、送信電力を増幅する装置のこと。
	ブーム	八木アンテナやキュビカルクワッドアンテナなどのエレメント(素子)を取り付けるためのパイプなどのこと。
	フェージング	無線局の移動や時間経過により、無線局での電波の受信レベルが変動する現象をいう。 HF(短波)帯の電波は変動が大きく、通信が不能になるなど重大な妨害を受けることもある。
	フェーズドアレイアンテナ	小さなアンテナを同一平面上に並べて、アンテナの位相を操作することによって、指向性を得るアンテナのこと。 テレビの衛星放送用平面アンテナや無線LANの平面アンテナなどに採用されている。
	フェライトコア	鉄粉(酸化第2鉄)を固めて作られた高周波用の鉄心(コア)で、棒状のものやリング状のものがある。 トランスやコイルの芯に使用される。
	フォールデッド ダイポールアンテナ	折り返しダイポールアンテナのこと。 半波長ダイポール・アンテナを折り返した構造で、特性インピーダンスは300Ω(オーム)となり、広帯域が特長である。 特性インピーダンスは300Ω(オーム)ではないが、T2FDアンテナもフォールデッドダイポールアンテナの一種である。
	フォーンパッチ	公衆電話回線を通じてアマチュア無線に接続する通信形態、またはその逆の通信。 公衆電話回線を通じて電波の通じない地域との通信ができる。
	フォーンバンド	アマチュア無線が運用できる周波数帯のうち、音声による通信ができる周波数帯。
	フォトカプラー	発光素子と受光素子で構成される電気信号伝送のための部品のこと。 光による制御のため、互いの回路を電気的に遮断できるため、磁界や電界による外来ノイズの影響を受けにくい。
	フォネティックコード	欧文通話表のこと。 「Alfa(アルファ)」、「Bravo(ブラボー)」、「Charlie(チャーリー)」のように、交信相手のコールサインなど聞き間違いを少なくするため、電波法で制定された通話表のこと。
	輻射器	放射器、ラジエーターともいい、アンテナのエレメント(素子)の中で、電波を放射(輻射)するもの。 このエレメントから送信機の高周波出力を空中に放射する。 また、空中からの電波を受信する役目をする。
	復調	受信した電波から信号を取り出して、データや音声信号に復元すること。 受信機では検波回路で、この電気的操作をする。
	プッシュツートーク	英語で、Push To Talkのこと。略称は、PTT。 プレストークスイッチともいい、マイクに取り付けられた送受信切り替えスイッチを押して、送信状態にすること。
	プッシュプル	増幅回路の一種で、真空管やトランジスターを対称的に接続し、逆位相で使用する回路方式のこと。 その動作がプッシュ(押す)とプル(引く)なので、この名称が付いた。 プッシュプル回路は、偶数次の高調波が減少し、低ひずみ、広帯域化も実現できる。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
ふ(つづき)	不要輻射	スプリアスのこと。 本来、電波が出ない部分(無線機やケーブル)からの輻射、無線機器から電波とともに発射される不要な高調波、低調波、イメージ信号の発射など。
	ブラウンアンテナ	超短波帯で無指向性のアンテナとして、よく使用されている。 同軸ケーブルの中心導体を1/4λ(ラムダと読む。波長のこと。)伸ばし、外周導体(アース部)にも1/4λのラジアルを設けたもの。 アマチュア無線では、GP(グランドプレーン)アンテナとも呼ばれる。
	ブランクチャンネル	メモリーチャンネルの付いている無線機で、実際にメモリーされていないチャンネル。
	ブリーダー抵抗	電源回路の電圧変動率を改善するため、出力端子とアースのあいだに抵抗を接続し、一定の電流を流しておくようにするための抵抗。 回路に直列に入れて電流を制限するための抵抗を表す場合もある。
	プリスケーラー	周波数分周器。 周波数カウンターなどに付加して、カウンターの持つ上限測定範囲以上の周波数を測定するようにする装置のこと。 周波数を10分の1とか100分の1にするもの。
	プリセット	無線機などを動作させるために、工場出荷時に必要な部分をセットしておくこと。
	プリフィックス	日本のアマチュア無線局のコールサインは、英数字3文字と英字5文字以内で構成されている。 前の部分(英数字3文字:国と地域を識別するもの)を「プリフィックス」、うしろの部分(英字5文字以内)を「サフィックス」という。 たとえば、JG3YMKの「JG3」がプリフィックス、「YMK」がサフィックス。 プリフィックスの2文字目は、「A」からはじまり、「H」、「R」、「E」、「F」、以下アルファベット順に割り当てられてきたが、アマチュア無線局の急増により、コールサインが不足した。 このため、廃局になったコールサインの「再割り当て」がされるようになった。
	フルVFOスキャン	フルスキャンと同じで、指定したバンドのすべての周波数範囲をくまなくサーチし、信号が出ているところを探し出す機能のこと。
	フルスケール	「フルスケ」ともいい、メーター(指示器)の指示がスケール一杯に振れる非常に電波の強い状態のこと。
	フルデュプレックス	受信と送信に別々の周波数を使い、送受信を同時にする通信方式のこと。 電話のように、相手の声を聞きながら、自分も話せる。
	フルブレークイン	CWモード運用時、電鍵操作にしたがって瞬時に送受信が切り替わり、キーイングのあいだでも信号を受信できる機能のこと。
	フルレンジ	各種測定器で、測定することのできる最大範囲。
	ブレーク	交信している人が親しい友人や仲間の交信に、割り込んで交信に加わりたいときにいう言葉。 交信と交信の切れ目のわずかな時間に、「ブレーク」と声をかける。 ブレーク局のために、「了解」といってから、一呼吸おいて「了解しました」といえば、スムースにブレーク局が交信に加われる。 このように、交信を一時的に中断させてしまうので、乱用しないこと。
	ブレークイン	CWモードで運用時、電鍵を操作したときだけ送信状態になり、電鍵操作が終了すると受信状態に切り替わる機能のこと。 送信信号のわずかなすきまも受信状態に切り替わる機能をフルブレークイン、一定時間送信状態を保持したあと、受信状態に切り替わる機能をセミブレークインという。
	ブレークインタイム	交信中に、他局からの呼び出しがあるかどうかを確認するため、ブレークイン動作中に、送信から受信に移ったときに数秒間、交信を中断する時間のこと。
	フレキシブルマイク	マイクを保持する柄の部分が自由に動くようになっているタイプのマイクロホン。
	プレストークスイッチ	PTT(プッシュツートーク)スイッチともいう。 無線機やマイクロホンにある送信と受信を切り替えスイッチのこと。 PTTスイッチ押しているあいだだけマイクロホンからの音声が相手局に送信できる。
	フレンド局	親しいローカル(近くの)局や頻繁に交信するおなじみの局。
	プローブ	測定器で無線機などの回路を測定するとき、回路に影響を与えないように信号を取り出す装置のこと。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
ふ(つづき)	プログラムスキャン	あらかじめ指定した上限と下限の周波数範囲を自動的にサーチして、信号が出ているところを探し出す機能のこと。
	ブロッキング	強力な近接信号を受信したとき、受信機のサイドバンドノイズなどにより、弱い信号がその雑音によって聞こえなくなる現象のこと。
	ブロックダイヤグラム	無線機などの回路構成を表すときに、各機能単位でまとめ、それをライン(線)で接続して、全体の回路構成を示したもの。 無線機などの主要な回路構成を一目で理解できる。
	プロット測定	無線機に接続しているアンテナのSWRを、無線機に表示されるグラフを見て測定する方法。 アンテナを調整する前や調整後など、SWRを下げたい周波数を把握したり、帯域内全域を把握したりするときに使用する。
	プロトコル	通信規約ともいう。 送受信端末において、データ通信のとき必ず守るべき操作の手順を定めたもの。 パケット通信のAX.25もプロトコルの1つ。
	フロントエンド	アンテナからの電波を直接、受け取って増幅し、中間周波数に変換するまでの回路のこと。 フロントエンドには、高周波(RF)増幅段、BPF(バンドパスフィルター)、混合(ミキサー)回路が含まれる。
へ	ベアフット	裸足(bare foot)からきた言葉で、リニアアンプなどを接続せず、無線機本体だけで運用すること。
	ペアリング	Bluetoothで通信したい機器との接続設定をすること。 当社製無線機のID-5100では、別売品のUT-133(Bluetoothユニット)を取り付けることで、VS-3(Bluetoothヘッドセット)やAndroid端末との接続ができる。
	閉局	本来、無線局を永久にやめることをだが、通常は、交信を終了し、無線局の電源を切ること。
	ページャー機能	DTMF等の信号を使用したコードスケルチ機能を利用し、不在時にも誰から呼ばれたかがわかるようにする機能のこと。
	ページング	交信したい相手局と前もって個別のコードなどを決めておき、コードが一致した特定の相手局を一斉に呼び出す機能のこと。
	ベース	トランジスターの電極名の1つ。電極名を表す記号には、「B」が使用される。 また、無線の基地局、アンテナの基台、アンテナの給電点などもいう。
	ベースローディングアンテナ	垂直アンテナの基部(ベース部)にローディングコイルを挿入し、電気的にアンテナのエレメント(素子)長を長くして、共振周波数を下げるようにしたアンテナのこと。 物理的にエレメント長が短くても、低い周波数に共振する。
	ベース接地回路	トランジスターの電極の1つであるベースをアース(接地)し、エミッター電流によって、コレクター電流をコントロールする増幅回路のこと。
	ヘッドセット	ヘッドホンにマイクが付いたもの。 携帯機では無線機を持たなくても、また固定機ではマイクの前に座らなくても両手を空けて通話するといった用途に有効である。
	ペディション	アマチュア無線局が居ない地域、島、市、郡、DXCCエンティティーなどに無線設備を持ち込み運用すること。 海外などのあまり電波の出ることがない地域でペディションをすることを、「DXペディション」という。
	ヘビーデューティー	Heavy Dutyからきた言葉。厳しい環境での運用でも壊れることなく動作すること。
	ベリカード	放送波を受信した人が受信報告書を放送局に送付すると、放送局から発行される受信確認証のこと。 日本の放送局はもちろん、海外でも発行している放送局がある。 ベリカードを収集は、BCL(Broadcasting Listeners)の楽しみの1つである。
	ヘリカルアンテナ	輻射器が、らせん状に巻かれたアンテナのこと。 らせんの1ターンが1波長程度とすると、軸方向に鋭いビームを放射する円偏波アンテナとして動作する。1ターンの長さが波長に対して十分小さい場合は、軸と垂直な方向に垂直偏波を放射し、アンテナを小形化できる。
	変換コネクター	無線機などに付けるアタッチメント方式のコネクターのこと。 電気的な特性を大きく変えずに異なる形状のコネクターに変えるためのもの。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
へ（つづき）	変調	音声や情報となる信号が電気信号に変換され、搬送波（キャリア）に重畳された状態のこと。
	ヘンテナ	アマチュア無線家が考案した長方形の長辺が1/2波長、短辺が1/6波長のエレメント（素子）で構成されたループ状のユニークなアンテナの一種のこと。 「ヘン（変）な形のアンテナ」ということから、付けられている。
	偏波	アンテナが持つ放射特性で、電界の振動面が大地と垂直なものは垂直偏波、大地と水平なものが水平偏波、そしてらせん状のものが円偏波である。 大地に対し垂直に張ったダイポールアンテナやホイップアンテナからは垂直偏波の電波が、大地に平行に設置した八木アンテナからは水平偏波の電波が放射される。
ほ	ボイスコントロール	マイクのPTTスイッチを押すことなく、音声の有無によって受信と送信を切り替える装置（VOX機能）のこと。
	ホイップアンテナ	ハンディー機やモービル機の運用に用いられる一本のエレメントからなるアンテナのこと。 機種によって、コネクターの形状が異なるので、付属のアンテナを交換するときには、注意が必要である。
	放射器	輻射器、ラジエーターともいい、アンテナのエレメント（素子）の中で、電波を放射（輻射）するもの。 また、空中からの電波を受信する役目もする。
	ポータブル電源	移動運用で使用することを目的とした可搬型のバッテリーや発電機のこと。
	ホームQTH	自宅の所在地を表す用語。 移動運用先と自宅の場所（常置場所）を区別するために使われだしたもので、「現在のQTHは六甲山山頂ですが、ホームQTHは大阪市平野区です。」というように使用する。
	ホームシャック	自分の家に設置した無線局。
	ボーレート	データ通信用語で、Baud Rateが語源。1秒間に何回変調をかけるかを表す指数。 一般的に、bps（bit per second）と混同されるので、注意が必要である。 一般的なアマチュア無線家がよく使うRTTYのボーレートは、45.5 Baud（ボー）である。
	ポケットビープ機能	待ち受け受信中に、同一のトーン信号を含んだ電波を受信したとき、「ピロピロピロ」というビープ音で知らせる機能のこと。
	保証認定	自作機や技術基準適合証明（工事設計認証）を受けていないアマチュア無線機を使って無線局の開局申請をする場合に、送信機や付加装置の性能を定められた機関が保証する制度。開局時の落成試験は、省略される。 当社が販売しているアマチュア無線機は、技術基準適合証明（工事設計認証）を受けているため、無線開局申請時に保証認定を受ける必要はない。 現在は、「TSS株式会社保証事業部」で保証認定している。
	ボルト	(1)電圧を表す単位で、記号は「V」。 (2)ナットと対になって、部品を固定する部品のこと。
	ホワイトノイズ	すべての周波数成分を同等に含んだ雑音のこと。 ホワイト（白色）は、白色光が虹の7色をすべて含んだ光であることに由来する。
ま	マーカー（発振器）	正確な基準周波数を発振させる回路や装置のこと。受信機などの校正に使用する。 マーカーオシレータの同義語。
	マイカコンデンサー	誘電体に雲母（マイカ）を使用したコンデンサー。高周波特性がよいのが特長。
	マイク(MIC)	マイクロホン（Microphone）の略称。
	マイクイコライザー	マイクで拾った音声信号の周波数成分を調整し、自由に周波数特性が設定できる機能、または装置のこと。
	マイクコンプレッサー	マイクで拾った音声は大きなレベル差があるため、小さな音は増幅して大きくし、大きな音は、抑えて小さくし、全体的にレベルの変化を少なくする回路、または装置のこと。 使用すると、SSBモードでは平均送信電力が上がり、電波の到達距離や了解度が上がる場合がある。
	マイクロウェーブ	極超短波。マイクロ波ともいい、一般的に、周波数300MHz（メガヘルツ）～300GHz（ギガヘルツ）、波長1m ～1mmの電波である。
	マイクロ ストリップライン	プリント基板上に作製した、高周波を伝送する伝送路。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
ま（つづき）	マイナスシフト	レピータ運用では、無線機の送信周波数は、受信周波数よりも低く設定されていることが多い。 これを「マイナスシフト」という。 たとえば、430MHz（メガヘルツ）帯のレピータは、439MHz（メガヘルツ）台で受信し、434MHz（メガヘルツ）台で送信する。 このとき、5MHz（メガヘルツ）のマイナスシフトを設定しておけば、表示周波数（受信周波数）は439MHz（メガヘルツ）台であっても、送信すると、自動的に5MHz（メガヘルツ）低い周波数で送信される。
	マグネット基台	アンテナエレメント（素子）を自動車の屋根に設置するため、基台の部分に磁石を付けたもの。
	マグネトロン	UHF帯の発振に適した2極真空管。 電子レンジのほか漁業用レーダーにも使用される。
	マスト	アンテナを立てるときに使用するポールのこと。
	待ち受け	電波を送信することなく、受信状態をつづけている状態。
	マッチング	電気的な損失が発生しないように、2つの回路を接続することをいう。 アマチュア無線では、アンテナのインピーダンスを合わせる（整合を取る）場合に使用される。
	マニピュレーター	2枚羽の横振り式の電鍵（キー）を指す言葉。 パドルともいい、アマチュア無線では、エレクトロニックキーヤーの電鍵を指す言葉。
	マニュアルノッチ	受信している帯域内のCWやRTTY信号等との混信によるビートを減少させるため、手動でノッチフィルタの中心周波数を調整できる機能。
	マラソンコンテスト	通常のコンテストは、長くても3日間であるが、1週間、1ヵ月、またはそれ以上の期間開催されるコンテストのこと。
	マリタイムモービル	海上を移動する船の上で、アマチュア無線を運用すること。 または、海上移動局のこと。
	マルコーニ	Guglielmo Marconi。イタリアの物理学者。無線通信の発明者として知られている。 ヘルツとロッジの発見をはじめて実用化し、1901年、イギリスの西端とカナダのニューファウンドランド島にあるセィントジョンズ間3600kmの無線電信の実験に成功した。
	マルチオペレーター	クラブ局などで、同じ無線局を2人以上で運用すること。
	マルチパス	送信された電波が建物や地形などの障害によって、反射や回折して、端末が複数の経路から同じ電波を受信してしまうこと。 マルチパスが生じると、複数の経路距離が異なる（伝送にかかる時間の異なる）電波を受信するため、波形に位相のずれが生じ、了解度が低下することがある。
	マルチバンダー	50/144/430/1200MHz（メガヘルツ）帯など、2つ以上の周波数帯に対応した無線機、またはアンテナのこと。
	マルチバンド	複数の周波数帯のこと。 2バンドはデュアルバンド、3バンドはトリプルバンドというが、これらを含めて、マルチバンドという。
	マルチプライヤー	コンテストで、決められた条件をクリアすると、その数が得点×マルチの数となる。 JARL（日本アマチュア無線連盟）の主催コンテストの場合、異なる地域数がマルチプライヤー。 1,000局交信しても、マルチが1ならば1,000点だが、マルチが10だと10,000点となる。 局数を増やすのも重要だが、マルチの数を増やすのは、それよりももっと重要になる。
	マルチホイップ	電波が反射を繰り返しながら、伝わっていく伝搬のパターン。
	マルチモード	SSB・CW・RTTY・AM・FMなど、複数の電波型式に対応する無線機や受信機。
	回り込み	アンテナから発射された電波の一部がアンテナ以外の電源回路、マイクの入力回路や無線機内部などに飛び込んでしまうこと。この現象で無線機等に不具合を生じることがある。
み	ミスマッチング	整合が取れないこと。不整合。 50Ω（オーム）からはずれたアンテナを入出力インピーダンス50Ω（オーム）の無線機に接続して、SWRが悪くなっていることを表すことが多い。
	ミッター	トランスミッターの略称。送信機のこと。
	密巻	コイルの巻きかたの1つ。 電線をすきまなく、ビッシリと巻く巻きかた。 密巻に対して、荒くすきまをあける巻きかたを疎巻きという。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
み（つづき）	ミドルレター	コールサインのサフィックス（うしろの2文字～5文字）の真ん中にくるアルファベット。 一般的にはセカンドレターという。 たとえば、サフィックスが3文字のコールサインでは、JG3YMKの「M」に該当する。 最初がファーストレター、最後がラストレター。
む	ムーンバウンス	EME（Earth Moon Earth）と同じ。月面反射通信のこと。 地球から月面に向けて電波を送信し、月面で反射された電波を受信する通信。 一般的に、大出力・大規模なアンテナなどの通信設備が必要である。
	無指向性アンテナ	GP（Ground Plane）アンテナ、ディスコーンアンテナなど、アンテナの水平面の指向性が円になる、つまり、アンテナを中心に全方向に均一の電波を発射、または受信するアンテナのこと。
	無線局事項書及び工事設計書	局免（無線局免許状）を申請するときに提出する従免（無線従事者免許証）番号、無線局の常置場所、開局を希望する周波数範囲と電波型式、使用する送信機などを記入した書面のこと。 自作の無線機を使用する場合は、送信機系統図を添付する必要がある。
	無線工学	電気的な知識、回路設計、電波の特性など無線に関するすべての理科的な分野。 電波法規とともに国家試験のために勉強が必要な2つの分野の1つである。
	無線設備	アンテナから無線機まで、アマチュア無線を運用するために必要なすべての設備。 開局申請時に、使用する無線設備の申請が義務づけられているため、無線設備を変更すると、許可を受け直したり、届け出たりしなければならない。
	無変調	搬送波（キャリア）に音声や情報となる信号が重畳されていない状態のこと。
め	メインチャンネル	50MHz（メガヘルツ）帯以上のバンドには、「呼出周波数」という特定の周波数がある。 これを「メイン」、または「メインチャンネル」という。このチャンネルで呼び出して、別の「通話」チャンネルに移行し、交信する。
	メインバンド	アマチュア無線を運用するとき、最も運用頻度が高い周波数帯のこと。 おもに運用する周波数帯を指す。
	メカニカルフィルター	送受信回路に挿入するフィルタの一種で、共振子に機械的振動素子を利用したフィルターのこと。
	メッセージ機能	無線機だけで、文字通信ができる機能のこと。 キーボードを使用したダイレクト伝送のほか、送信用のメッセージ専用メモリーを装備している。
	メモパッド	VFO状態/メモリー状態に関わらず、DX局（遠距離局）を発見したときなど、運用中の周波数とモードを一時的に書き込める機能のこと。
	メモリースキャン	無線機などで、自分がよく使用する周波数を記憶させたメモリーを順次、スキャン（走査）させること。
	メモリーチャンネル	よく使用する周波数やモード、トーン周波数などの運用情報、バンド情報を記憶できる機能のこと。
	メモリーネーム機能	メモリーチャンネルが多くなると設定した周波数がどんな内容だったのかを忘れることがある。 そのため、すべてのメモリーチャンネルに文字、数字、記号によるコメントが入力でき、保存できるようにした機能のこと。
	メモリーバンク機能	メモリーチャンネルに記憶させた周波数をまとめて整理するための機能のこと。 たとえば、周波数帯ごとにメモリーバンクを使い、ここに該当するメモリーチャンネルを記憶させるなど、色々な使いかたができる。
	メモリー効果	Ni-Cd電池（ニッケルカドミウム電池）やNi-MH電池（ニッケル水素電池）などの充電式電池に発生する不具合現象のこと。 放電しきらないうちに充電すると、本来の容量よりも少ない状態を満充電だと記憶してしまい、これを繰り返すと電池の寿命が短くなってしまう。 メモリー効果は、この現象に由来する。 メモリー効果は、完全にバッテリーがなくなる前に充電を開始することによって起きるので、一部の充電器に付いている放電機能を利用したり、抵抗や電球を使用する自作の放電器を使用したりすれば、防止できる。 Ni-Cd電池（ニッケルカドミウム電池）は、完全に放電と充電を繰り返すのが理想的な使用方法。
	メリット	信号の了解度を表す言葉。下記の5段階で、相手局にレポートする。 ◎メリット5：問題なく理解できる　◎メリット4：ほぼ理解できる ◎メリット3：多少雑音はあるが、理解できる ◎メリット2：かろうじて理解できる ◎メリット1：理解できない

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
め(つづき)	免許	アマチュア無線を運用するには、2種類の免許が必要である。 1つは、本人のアマチュア無線運用の資格を示す無線従事者免許証(従免)で、これは書き替えの必要がない終身免許である。 もう1つは、開局申請をして、はじめて交付される無線局免許状(局免)で、有効期間が5年間のため、5年ごとに再免許申請が必要になる。
	免許証	無線設備を操作するために必要なもので、有資格者個人に交付される。 書き替えの必要がない終身免許で、アマチュア無線を運用するときには、携帯することが義務づけられている。
	免許状	無線局を開局し、運用するために必要なもので、正式には無線局免許状という。 アマチュア無線の有資格者が無線局を開局するときには、申請しなければならない。 運用する電波型式、周波数帯、コールサイン、空中線電力などが記載されており、有効期間は5年間。 運用の際、固定局は無線局内の見やすいところに掲げておき、移動局の無線機には「証票」の貼付が必要である。
も	モードスキャン	メモリーチャンネルの中から、指定した電波型式(モード)だけをスキャン(走査)する機能のこと。
	モービルホイップ	モービルアンテナの別称。 1/2λ(ラムダと読む。波長のこと。)、1/4λ、5/8λなど短いものから長いものまである。 アンテナは長いほうがゲイン(利得)が高く、遠くまで飛ぶが地上高の制限などもあり、取り付けには注意が必要である。 アースを取るときは、車体の塗装をはがすことが必要な場合があり、これが嫌な場合は、ノンラジアルタイプのアンテナを選択すればよい。
	モービル機	車に設置することを主目的とした無線機。 サイドパネルやコンソールボックスに設置する一体型、好きなところに操作部を設置できるセパレート型などがある。 安定化電源を使用すれば固定局でも使用できる。
	モービル局	本来、「モービル」は、「移動する」という意味。 移動する車、バイク(バイクモービル)、自転車(チャリンコモービル)、船(マリタイムモービル)、飛行機(エアロノーティカルモービル)などに無線機を搭載して運用している無線局のことだが、ほとんどの場合、「車で運用している無線局」のこと。
	モールス通信	Morse communication。モールス符号を使用するCW(電信)通信。 音声通信に比べて、同じ出力で遠距離通信が容易になる。 3級アマチュア無線技士以上の免許がないと運用することはできない。
	モールス符号	Morse code。 米国人モールスによって考案されたCW(電信)通信用の短点と長点の組み合わせで作られた符号。 CW通信は、これによって、メッセージを伝達する。
	モデム	モジュレーター/デモジュレーターの略称。変復調器。 パソコンやFAXなどの電子機器と無線機器を接続するためのもので、モジュレーター(変調器)とデモジュレーター(復調器)が一体化したもの。
	モニター	自局が発射している電波を別の受信機などで異常がないかどうかを監視すること。
	モニター機能	(1)スケルチレベルを変更することなく、強制的にスケルチを開く機能のこと。 受信信号が弱く、音声が途切れて聞き取りにくいとき、この機能を使うと、スケルチが開いた状態を維持することで聞き取りやすくなる。 TSQLやDTCS設定時も、一時的に解除できる。 デュプレックスが設定されているときは、送信周波数を受信する。 DVモードでは、モニター中にDVモードではなく、FMモードでモニターできる。 (2)送信音質モニター機能搭載の製品では、この機能を使うと、自分の音声がきれいに変調されているかどうかを確認できる。
	モノバンダー	144MHz(メガヘルツ)だけ、430MHz(メガヘルツ)だけというように、単一バンドの無線機。 デュアルバンダー(2バンド機)、トリプルバンダー(3バンド機)に比べて、操作が簡単で、お手頃な価格で購入できる。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
や	八木アンテナ	正確には、八木･宇田アンテナという。 指向性アンテナの代表的なもので、1926年に日本の八木博士と宇田博士によって発明されたアンテナのこと。 アマチュア無線局やテレビ用の受信アンテナとして最も利用されている。
	山かけ	1つのレピータだけを使用する中継通信を指す俗語。
ゆ	有線	固定電話やファックスなどのように、端末機間がケーブルで接続され、信号がそのケーブルを通って伝達されるもの。 無線に対して、有線と表現する。
	ユーティリティー受信	ユーティリティーは、アマチュア無線の世界では、官公庁の行政無線や業務用無線のこと。 エアバンド、船舶無線、放送番組中継、防災無線などを受信すること。
	誘導雷	落雷の一種だが、直接落雷する(直撃雷)のではなく、落雷した場所の近くに大電流が流れること。
よ	養成課程講習会	JARD(日本アマチュア無線振興協会)が実施する第4級、および第3級アマチュア無線技士の資格を取得するための総務大臣が認定した講習会。
	呼出周波数	VHF帯以上の周波数帯のFMモードには、通信の混乱を防ぎ効率的な運用を促進するために、バンドごとに呼び出し専用の周波数が定められている。 呼出周波数は、50MHz(メガヘルツ)帯が51.00MHz(メガヘルツ)、144MHz(メガヘルツ)帯が145.00MHz(メガヘルツ)、430MHz(メガヘルツ)帯が433.00MHz(メガヘルツ)、1200MHz(メガヘルツ)帯が1295.00MHz(メガヘルツ)となっている。 ここでCQ(不特定の相手に対する呼び出し)を出したり、通信相手を呼び出したりしてから、別の周波数に移動して、本格的な通信をはじめるのが一般的である。
	呼出符号	コールサインの正式名称。無線局のコールサインは、国際電気通信連合憲章および国際電気通信連合(ITU)条約を補足する業務規則に定める国際符号列に基づき構成されている。 わが国に割り当てられている符字列は、JAA ～JSZ、7JA ～7NZ、8JA ～8NZで、このうち、アマチュア無線局には、JA/JD/JE ～JS/7J ～7N/8J ～8Nが割り当てられている。
	ヨンサンマル	430MHz(メガヘルツ)帯の通称。数字をもじった呼びかたで、144MHz(メガヘルツ)帯は「イッチョンチョン」、3.5MHz(メガヘルツ)帯は「サンハン」というのと同じ。
ら	ラインフィルター	無線機などの電源ラインに挿入する高周波をカットするハイカットフィルターのこと。 電波障害防止用、または雑音抑制に使用される。
	ラウンドQSO	ラウンドテーブルQSOともいい、グループ局やクラブ局などの3人以上のメンバーが同じ周波数を使って、順番に送信し、全員が受信する交信方法。
	落成検査	送信出力が200W(ワット)を超えるアマチュア無線局は、各地方総合通信局の検査に合格することが必要である。この検査を落成検査という。
	ラグチュー	気の合う仲間との「おしゃべり」のこと。 多くのアマチュア無線家が交信しているのは、この「ラグチュー」。 もともと、英語の「Chew the rag」が語源だが、日本ではひっくりがえされて、「ラグチュー」というようになった。
	ラジアル	グランドプレーンアンテナの給電部から放射状に取り付けられたエレメント(素子)のこと。 接地型のアンテナでは、アース(大地)への接続が必要だが、良好なアースが取れないとき、アンテナとして動作させるのに必要なアースの代用となる。
	ラジエーター	放射器(輻射器)ともいい、アンテナのエレメント(素子)の中で、電波を放射(輻射)するもの。 このエレメントから送信機の高周波出力を空中に発射する。 また、空中からの電波を受信する役目をする。
	ラジオダクト	よく晴れた風のない日には、地上付近よりも数十km上空に温度や湿度の高い逆転層ができることがある。 VHF帯/UHF帯の電波は、この層に閉じこめられた形で、屈折を繰り返しながら、遠方まで飛んでいく。 この層をダクト(管)に見立てて、「ラジオダクト」という。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
ら(つづき)	ラジオテレタイプ	RTTY(Radio Teletype)ともいい、アマチュア無線で使用されている2値FSK(FREQUENCY SHIFT KEYING)による通信のこと。 文字情報を国際標準の信号に変換して送信される通信で、ほとんど英文で送信される。 昔は、モデムを介して、無線機とテレプリンターを接続していたが、当社製無線機(IC-7800/IC-7700/IC-7600)であれば、USBキーボードを接続するだけで通信できる。 電波型式はF1Bである。
	ラストレター	コールサインのサフィックス(うしろの2文字～5文字)の最後のアルファベット。 たとえば、サフィックスが3文字のコールサインでは、JG3YMKの「K」に該当する。 中央がセカンドレター、最初がファーストレター。
	ラバースタンプQSO	ゴム印(ラバースタンプ)で押したように、決まった文句だけで交信すること。 英語の苦手な人が海外局と交信するとき、RSTレポート、オペレーターの名前とホームQTH(自宅の場所)、無線機やアンテナの紹介、天気の話題など決まった文句だけで交信すること。
り	リアクタンス	交流の回路で、交流成分の流れを妨げる要素(抵抗分)。単位はΩ(オーム)。 コイルによる誘導性リアクタンス(XL)とコンデンサーによる容量性リアクタンス(XC)があり、XL=2πfL、XC=1/(2πfC)で表す。
	リアルタイム バンドスコープ	受信音を聞きながら、受信帯域の信号状態を視覚的にスコープで確認できる機能のこと。 たとえば、14.100MHz(メガヘルツ)を受信しながらリアルタイムバンドスコープを動作させると14.100MHz(メガヘルツ)の受信音を聞きながら、その周波数を中心に、上下周波数で信号が出ていないかどうかを繰り返しサーチする。
	リーダビリティー	Readabilityが語源。受信信号の了解度のこと。詳しくは、了解度を参照。
	リグ	アマチュア局で使用する無線機器のこと。
	リセット	当社製無線機では、パーシャルリセットとオールリセットがある。 オールリセットは、無線機に記憶されているデータがすべて消去され、変更した設定をすべて初期設定値に戻す操作のこと。 パーシャルリセットは、メモリーチャンネルやレピータリストなどのデータを残し、変更した設定をすべて初期設定値に戻す操作のこと。
	リターンロス	アンテナ方向に向かう進行波電力と、アンテナから発射されずに無線機に戻ってくる反射波電力の干渉でできた波の最大と最小の比(SWR)をデシベルで表したもの。
	リチャージャブル バッテリー	充電することで繰り返し使用できるバッテリー(蓄電池)のこと。
	リット	Receiver Incremental Tuningの略称で、クラリファイヤーともいい、RITのこと。 送信周波数を変えずに受信周波数を微調整する機能のこと。
	リップル	交流を整流したあとの直流に含まれた交流成分のこと。
	リップル含有率	整流後の直流に交流成分がどれだけ含まれているかを100分率で表したもの。
	利得	ゲインともいい、入力された値がどれだけ増幅され、出力されたかの比率を表したもの。 比率は対数で表し、単位は、おもにdB(デシベル)が使用される。 電圧利得、電流利得、電力利得などがある。 アンテナでは、半波長ダイポールアンテナを基準にして、どれだけの前方利得があるかをdBdで表す。
	リニアアンプ	入力レベルと出力レベルの関係が比例(直線的)となる増幅器のこと。 AMやSSBなどの振幅変調された信号の増幅に適する。
	リフレクター	(1)反射器ともいい、八木アンテナなど指向性アンテナの電波を反射するエレメント(素子)のこと。 放射器(輻射器)のうしろに配置して、放射器よりエレメントが長く、電波を反射させるもの。 (2)インターネットを利用して、複数のD-STARレピータやDVAPをグループ化することで、複数局と同時にQSOができるようにするサーバーのこと。
	リミッター	一定の強さ以上の振幅をカットする振幅制限回路のこと。 FM受信機の中間周波(IF)増幅回路で、ある一定以上の振幅成分を除去する。
	リモートシャック	LAN(Local Area Network)やインターネット回線経由の遠隔操作ができる無線室のこと。 当社製IPリモートコントロールソフトウェア(RS-BA1)と、RS-BA1に対応した当社製無線機(IC-7800/IC-7700/IC-9100/IC-7600/IC-7410/IC-7200/IC-7100など)で運用できる。 運用するには、遠隔操作に関わる免許が必要である。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
り(きょうつう)	了解	相手局の送信内容が理解できたときに使用する。 たとえば、「了解。了解しました」のようにいう。
	了解度	RSレポートのR(Readability)のこと。リーダビリティーともいう。 相手局の交信内容がどれくらい了解できるかを5段階で評価する。 VHF帯/UHF帯のFMモービルやハンディー運用のときは、RSレポートも代わりに「メリット1～メリット5」で表すこともある。
	両波整流	全波整流ともいう。詳しくは、全波整流を参照。
	リレー	電磁石に電流を流したり、切ったりして、スイッチをON/OFFする部品のこと。 最近では、半導体でスイッチをON/OFFする半導体リレーも一般的である。 小さな電力で大きな電力や高い電圧をON/OFFする場合などに使用される。 また、無線機の送受信切り替えやアンテナ切り替えに使用するスイッチの部分が同軸ケーブルと同じ特性を持つ同軸ケーブル切り替え用の同軸リレーもある。
	臨界周波数	電離層に向かって、地上から垂直に電波を放射し、徐々に周波数を高くしていくと、電波は最初は電離層で反射して戻ってくるが、ある周波数を超えると電離層を突き抜ける。 この場合の電離層で反射され地上に戻ってくる最高の周波数を「臨界周波数」という。
	隣接信号	互いに干渉したり、妨害したりする隣り合った周波数の信号のこと。
る	ルーフサイドアンテナ	自動車の屋根の横に設置するように設計されたアンテナのこと。
	ルーフタワー	家屋の屋根に設置する小型のアンテナタワーのこと。
	ループアンテナ	長波帯、中波帯、短波帯、VHF帯、UHF帯の遠距離(DX)通信、衛星通信で使用されるループ状に作られたアンテナのこと。
	ループテスト	衛星通信で、交信状態が適性かどうかを自局が送信し、自局が受信して調べるテストのこと。 つまり、衛星に向けて送信した電波が、別の周波数で再送信されてくるのを受信するテストである。
	ループ八木アンテナ	アンテナエレメント(素子)の形状が正方形、長方形や円形などループ状をした八木アンテナのこと。 指向性が鋭く、高利得で円偏波になるという特性から、人工ノイズやフェージングに強いことが特徴である。 形状が大きくなることから、1200MHz(メガヘルツ)帯以上のバンドでよく使用される。
れ	冷却フィン	終段の電力増幅素子などを冷却するために設けられた放熱器にあるヒダ状の部分。
	励振増幅回路	ドライブアンプともいい、終段の電力増幅回路を動作させるため、その前段に設けられた増幅回路のこと。
	レシーバー	受信機のこと。アマチュア無線の世界では、通信型受信機を指す。
	レピータ	直接電波が届かない場所にいる局との交信を中継する自動中継局のこと。 アナログレピータは、JARL(日本アマチュア無線連盟)が28/430/1200/2400/5600MHz(メガヘルツ)帯、10.1GHz(ギガヘルツ)帯で全国各地に開設している。 また、デジタル通信方式のD-STARレピータでは、430/1200MHz(メガヘルツ)帯に開設されている。
	レピータサイト	レピータ局などを設置、または格納した建物のこと。
	レピータトーン	アナログレピータにアクセスするときに必要なトーン(エンコーダー)信号周波数のこと。 日本では、アナログレピータにアクセスするには、88.5Hz(ヘルツ)のトーン信号を搬送波(キャリア)に重畳させる必要がある。
	レポート	交信する相手局に、その局のR(了解度)、S(信号強度)、電信ではT(音調)などの受信状態を報告すること。
ろ	ローカットフィルター	HPF(High Pass Filter)、ハイパスフィルターともいい、一定の周波数(カットオフ周波数)以上を通過させ、それ以下の周波数を減衰(カット)させるフィルター回路のこと。
	ローカル	「近所の」という意味。ローカル局とは近くにある局、ローカルエリアとは近隣のエリアのこと。
	ローカルオシレーター	スーパーヘテロダイン受信機や無線機などの周波数変換のために設けられる局部発振回路のこと。
	ローカルラグチュー	近所のハム仲間と長時間にわたりおしゃべり(ラグチュー)すること。
	ロータリーエンコーダー	回転機構を持ったパルス信号発生器。 無線機では、ダイヤルツマミにこのロータリーエンコーダーが直結されており、ツマミの回転に応じてパルスを出力し、運用周波数が変化するようにしている。
	ローディングコイル	延長コイルともいい、アンテナの長さを短くするために、アンテナに直列に接続するコイルのこと。

	用　　語	意　　味　　本書の内容は2014年10月現在の情報に基づくものです。
ろ(つづき)	ローテーター	八木アンテナなど指向性アンテナを回転させるためのモーター駆動装置のこと。 室内にあるコントローラーで、アンテナの方向を遠隔操作する。
	ローパスフィルター	LPF(Low Pass Filter)、ハイカットフィルターともいい、一定の周波数(カットオフ周波数)以下を通過させ、それ以上の周波数を減衰(カット)させるフィルター回路のこと。
	ローバンド	1.9/3.5/7MHz(メガヘルツ)帯など比較的低い周波数帯のこと。 これらのバンドで運用しているアマチュア無線家をローバンダーという。
	ロールコール	無線の仲間が電波を使って、キー局が順番に参加者の点呼をしたりして電波の上でミーティング(会合)すること。
	ログ	ログブックともいい、無線局に備える無線業務日誌のこと。 交信日時、相手局のコールサイン、信号状態などを記録する。
	ログメモリー	過去に送信した周波数を自動的に記憶させ、瞬時に呼び出す機能のこと。 次回の運用時に同じ周波数が呼び出せるので、快適運用が楽しめる。
	ロケーション	電波の飛びに影響する周囲の状況、アンテナを設置してある場所をいう。
	ロケーター	送信地点や受信地点の正確な位置が確認できる道具(記号表や器械など)のこと。
	ロス	損失のこと。入力と出力のあいだでエネルギーが失われること。 同軸ケーブルによる減衰のことをケーブルロスという。
	ロッドアンテナ	伸縮自在のホイップアンテナのこと。 ラジカセなどのアンテナとして、利用されている。
	ロングパス	電波が地球上を伝わるとき、通常、最短距離(ショートパス)を伝わるが、電離層の状況により、ショートパスとは反対の遠距離(ロングパス)経路で伝わること。
	ロングワイヤーアンテナ	文字通り「長い電線(ロングワイヤー)」のアンテナのこと。無線機のアンテナ端子にマッチング回路を通して長い導線を取り付け、アンテナとしている。当社のオートマチックアンテナチューナーAH-4を使うと簡単にロングワイヤーアンテナを構築することができる。
わ	ワイドバンド受信機	ワイド(広い)バンド(周波数帯域)が受信できる受信機。 IC-R9500の場合、0.1MHz(メガヘルツ)～3335MHz(メガヘルツ)(長波帯、中波帯、短波帯、超短波帯、極超短波帯)などの周波数が受信できる。
	ワッチ	電波の使用状況を把握するための受信、および他人の交信を受信すること。
	和文CW	CWには、欧文と和文がある。欧文は世界共通で、アルファベットに対してそれぞれの符号が割り当てられている。 和文はイロハ50音に加え付随する記号を符号として割り当てられている。
	和文通話表	電波法の無線局運用規則で規定されているもので、通話内容を正確に伝えるために使用される。 「朝日のあ」、「いろはのい」、「上野のう」、「はがきのは」など、固有の名称、略符号、数字、綴りの複雑な言葉などを1字ずつ区切って送信する場合に使用される通話表のこと。

高品質がテーマです。

A-6965-1J-②a
© 2011–2014 Icom Inc.

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32